

愛労連第74回定期大会

付属文書

2027 年度

■第 1 号決定 付属文書③

- ・愛労連 2026 年度おもな活動報告（2025 年 7 月 18 日～ 2026 年 7 月 12 日）

愛労連2026年度おもな活動報告

2025年7月18日～2026年7月12日

■全国一般アクリル都労委結審期日 7月18日

組合側の参加者12人。最終陳述書が双方から期限通り提出がされたものの、会社の最終陳述書に虚偽記載がある為、反論を行った。命令は、年内も想定される。

■非正規センターオンライン学習会④ 7月18日

オンラインで開催。20カ所から参加があった。「国連女性差別撤廃条約女性差別撤廃委員会勧告とジェンダー平等に向けた運動の課題」と題して、全労連女性部事務局長の寺園通江さんから話を聞いた。ジェンダー平等の世界の状況や、日本のジェンダー視点に立てない政治政策、8年ぶりに審議された国連女性差別撤廃委員会に参加した様子などが話された。国際基準から大きく遅れる日本政府に対して、選択議定書の批准をさせるためにはNGOなどで力をあわせて声を伝えていくことが大切。一人ひとりの人権が守られる社会の実現にむけて、対話と学びあいで仲間を増やし組合組織率を高め、共に声を上げ共に行動することが大切と訴えられた。

■消費者大会講座 7月20日

「ネットで買い物、被害を防ぐ、上手な活用は？」と題し、消費生活相談員の藤原典子さんから話を聞いた。今、多くの人がインターネットを利用し、被害が増え続けている現状や注意点などを聞き、ネット購入の際はSNS広告からアクセスしない、正規のホームページで真偽を確認して購入することなどが話された。現在の法では、説明表記が分かりづらくても契約を承認したことになってしまうので注意が必要とのことだった。

■愛労連第72回定期大会 7月21日

フジコミュニティセンターで開催し、代議員100／106人、特別代議員3／10人、役員30／30人をはじめ、167人が参加した。来賓には、全労連の石川副議長、共産党愛知県委員会の石山県委員長、戦後・被爆80年を節目としたセレモニーも行い、愛友会の大村義則副理事長、高校生平和ゼミナールの代表が挨拶と決意を述べ、特別決議を採択した。発言は25人（文書発言1本を含む）が行われ、議案採択は1号議案（運動方針）が全会一致、2号議案（決算）が拍手による圧倒的多数の承認、3号議案（予算）が保留1・賛成圧倒的多数、4号議案（役員選挙）が拍手による圧倒的多数の承認となった。この他、すべての争議解決をめざす特別決議、大会宣言が採択された。代議員・特別代議員の女性比率は21.4%（22／103人）、新年度役員の女性比率は35.5%、平均年齢は59.0才となった。

■被爆80年あいち県民のつどい実行委員会 7月23日

被爆80年（2025年）に向けて、愛知独自のとりくみとしての「つどい」開催をめざす実行委員会を開催、賛同金やチラシ、当日のスケジュールなどを話し合った。広く参加を呼び掛け多くの参加者が来るようにと再度意思統一をおこなった。

戦後・被爆80年 あいち平和のつどい 2025年9月27日（土）@名古屋市公会堂
次回実行委員会 8月21日（木）10時～ @労働会館本館会議室

■Ai青年協幹事会 7月23日

リモートでおこない、参加者は医労連2、自治労連、愛労連の計4人。①8月2日のピアガーデン交流会について、参加者集約をおこなった。目標の半分程度だったため、引き続き参加呼びかけを

おこなっていく。②秋以降のとりくみについて協議した。モノづくり体験を12月ごろおこなうとし、今後具体化を進める。③サマセミについて、愛知担当の初日全体会について協議し、これまでの案を修正した。また、3日目全体会についても具体化をおこない、ブロック実行委員会で提案する。④11月30日開催予定の第36回定期総会にむけて、議案書作成の分担をおこなった。次回8月の幹事会で1次案を持ち寄る。

■JMITUオハラ労働委員会審問①

7月24日

県庁西庁舎でおこなわれ、参加者はJMITU、全国一般、愛教労、争議団などから傍聴支援があり当事者合わせて約27人。オハラ分会が申し立てた不当労働行為救済事件について、オハラ分会の朝倉分会長と西垣分会書記長の尋問がおこなわれた。

■消費者大会実行委員会

7月24日

6名参加。今後のとりくみの概要を検討した。学習会や見学会、名古屋消費生活フェアへの参加などを予定し、学習会のテーマや方法、開催時期などについて話し合った。浄水場見学、米問題、ノーベル平和賞関係、防災、原発、PFOSなどを検討中。

「鍋屋上野浄水場見学と水道管のいま、そして交換は？」

8月20日（水）10:00～12:00 @鍋屋上野浄水場

名古屋市上下水道局職員、浄水場職員から話を聞く

「私たちの食料、これからは～突然消えた主食のコメ～食料に飢える日本を想像できますか」

10月19日（日）13:30～15:30 @ウインクあいち1302会議室

講師：鈴木宣弘東京大学教授

次回実行委員会 8月28日（木）10時～ @会場未定

■年金者組合定期大会

7月25日

西尾議長が来賓として参加し、愛労連を代表して連帯のあいさつを行った。

■Aiバ臨連幹事会

7月25日

オンライン含め6名が参加。各組織の活動報告や活動確認などをおこなった後、今後の運動について検討した。「パート・臨時・非常勤などの元気が出る集会」を、今年度は開催する方向で検討中。グループ交流の時間を取り、対話を重視することとした。

パ臨元気が出る集会 日程案 11月16日（日）午後～ @労働会館本館会議室

次回幹事会は 8月27日（水）18:30～ 愛労連会議室

次々回は 9月25日（木）18:30～ 愛労連会議室

■生活保護・25条宣伝

7月25日

最高裁判決を経て初めての「25日宣伝」を恒例の三越前で開催した。炎天下の中ではあったものの、チラシの受け取りも良く信号待ちの際、チラシを読む市民の姿も確認できた。厚労省が謝罪をしないなか、引き続き市民宣伝でその不当性を訴えていく必要が生じている。

■全労連第67回評議員会

7月26-27日

全労連会館で開催され、評議員の出席率は100%であった。1年の運動方針とともに秋季年末闘争方針などが提案され、すべての議案が賛成多数で採択された。

愛労連からは西尾議長が、最賃や組織拡大、対話と学びあいなどの課題で発言した。

■JMITU定期大会

7月26日

佐賀事務局次長が来賓として参加し、愛労連を代表して連帯のあいさつを行った。

■自治労連愛知県本部定期大会

7月26日

若井副議長が来賓として参加し、愛労連を代表して連帯のあいさつを行った。

■原水爆禁止世界大会愛知県代表団会議

7月26日

オンライン併用で開催。世界大会に向けて、愛知県原水協主催の事前学習がおこなわれ、大村義則さんから、核兵器禁止条約の世界の状況、世界情勢についてなどの講演を聞いた。講演後、体制提案、各団長挨拶、参加者の紹介や参加者交流などがおこなわれた。

■はたらく女性の中央集会実行委員会

7月28日

愛知の会場と全労連会場、各実行委員をオンラインにてつないで開催。11月に開催される「はたらく女性の中央集会in愛知」について、予算や分科会内容などについて話し合いをおこなった。愛知での分科会担当者での会議を独自でおこなうこととした。

はたらく女性の中央集会in愛知 11月29日（土）～30日（日）

1日目分科会 労働会館、2日目全大会 ウイルあいちホール

次回実行委員会 9月28日（月）18：30～ @オンライン

愛知分科会打合せ 8月下旬

■地域手当違憲訴訟学習会

7月28日

労働会館本館会議室で開催し、54人（会場14、オンライン40）が参加した。原告の竹内浩史弁護士（提訴時は裁判官）が講演を予定していたが、体調を崩されたため、弁護団事務局長の北村栄弁護士が、この裁判の意義とともに、竹内弁護士の人柄や経緯、重いなども語った。特別報告として国公労連の笹ヶ瀬中執から、地域手当に対する要求やたたかいについて報告された。

■社保協理事会

7月28日

保険医協会伏見会議室でおこなわれ、参加者は、自治労連、医労連、国公、年金者組合、保険医協会、民医連などから計15人。6月21日に開催された第45期総会の振り返りなどおこなった後、各分野の今後のとりくみなど確認した。①介護のたたかいについて、秋から新署名が始まり、9月1日に決起集会がおこなわれること、ひきつづき各地方議会からの意見書採択運動に力をいれること、介護なんでも相談が11月10日におこなわれることなど確認した。②健康保険証存続をもとめるたたかいでは、マイナ保険証の普及率がこれまでとほぼ横ばいになっていること、国保保険証の期限切れでの混乱が懸念されること、保険医協会がCBCに取材を受け、近く報道されることなど報告された。③後期高齢者医療制度などのたたかいでは、年金裁判の神奈川事案について報告された。補聴器助成制度拡充について、あまり進んでいない名古屋市にむけた署名運動を「名古屋市民の会」でとりくみ、社保協も連盟で進める事を確認した。⑤生活保護の問題では、愛知・大阪事案が最高裁で勝利したにもかかわらず、厚労省が謝罪せず、違法状態を是正しない現状を打開するため、緊急署名が個人・団体でとりくまれる。⑥その他の課題や、今後の会議日程など確認した。

■平和大会学びと交流のつどい「気候危機」相談会

7月28日

6名が参加。10月25日（土）1600～1800、労働会館にて開催。講師は中根佑介弁護士に決定、気候危機裁判の原告のカトリンさんからの発言と会場発言。受付体制、司会、看板などを確認。9月17日裁判報告の場で平和大会の案内。次回は9月9日（火）1000～応接室

■生活保護・25条宣伝

7月25日

最高裁判決を経て初めての「25日宣伝」を恒例の三越前で開催した。炎天下の中ではあったものの、チラシの受け取りも良く信号待ちの際、チラシを読む市民の姿も確認できた。厚労省が謝罪をしないなか、引き続き市民宣伝でその不当性を訴えていく必要が生じている。

■愛知最賃審議会第1回専門部会

7月29日

最低生計費試算調査結果をはじめ5点の愛労連作成資料が初めて正式採用された。最低生計費などの資料が採用されたのは、最賃審議の1丁目1番地は憲法25条に基づく生存権の保障であることを前提に、昨年度（2024年度）の専門部会に提出された資料が、「労働者の生計費」に関する資料は2点、「労働者の賃金」は4点、「事業の賃金支払能力」は12点であることを指摘し、もっとも重視されなければならない、「労働者の生計費」に関する資料が軽視され、「事業の賃金支払能力」に偏っていることを追求してきた成果。

専門部会での意見陳述については、労使ともに予定がないとして否決された。取材は赤旗、愛労連新聞。

賃金課長が資料について説明した。特徴は…

- ・転入・転出者アンケート調査結果報告書（名古屋市）
- ・資料は生計費＝2点、労働者の賃金＝7点、事業の賃金支払い能力＝11点
- ・参考資料として初めて愛労連提供資料が入る＝最低賃金3つの問題点、最低生計費試算調査総括表（全国版）、愛知県最低生計費試算調査結果（若年者単身世帯：2024年改訂版）、名古屋では20代単身月27万円必要、愛知県採用時給調査
- ・労働者代表（連合）の資料（別添）に「非正規、医療・福祉分野で働く人の状況」
- ・使用者発言⇒一定の引き上げは必要、県経協の賃上げ率は3.32%、10.1に効力発生にこだわる必要はないのではないか（例えば4月でも）、
- ・労働者代表⇒労働側も引き上げ額を示すので使用者側も示してほしい。

■平和大会実行委員会

7月29日

12名参加。中央から情勢討議、国際シンポジウムに日程は10月4日：14時～17時。大会成功に向けたとりくみとして、平和大会パンフレットが8月1日に完成するので各団体で学習会を進める。今後の実行委員会は、8月25日（月）13時～、9月22日（月）10時～、10月6日（月）10時～、予備日10月16日（木）13時～、労働会館本館第五会議室。

■Ai 最低賃金・公契約問題対策委員会

7月30日

6名参加。前回からのとりくみ、審議会の状況を確認。7月29日の専門部会は3名が傍聴した。審議時間は、9時30分～10時25分。傍聴4人（竹内・青山・高田・市川）取材（赤旗、愛労連新聞）。資料の特徴として、名古屋圏から東京圏への転入・転出者アンケート調査結果報告書。生計費＝2点、労働者の賃金＝7点、事業の賃金支払い能力＝11点だが、「参考資料」として初めて愛労連提供資料が入る＝最低賃金3つの問題点、最低生計費試算調査総括表（全国版）、愛知県最低生計費試算調査結果（若年者単身世帯：2024年改訂版）、名古屋では20代単身月27万円必要、愛知県採用時給調査

- ・連合の資料（別添）に初めて「非正規、医療・福祉分野で働く人の状況」
- ・使用者発言⇒一定の引き上げは必要、県経協の賃上げ率は3.32%、10.1に効力発生にこだわる必要はないのではないか（例えば4月でも）、
- ・労働者代表⇒労働側も引き上げ額を示すので使用者側も示してほしい。
- ・次回の委員会は9月1日（月）午前か11日（木）の午後で調整。9月30日（火）は、新最賃額宣伝を名駅にて17：30～18：30実施。

■愛労連ローカルユニオン大会

7月30日

西尾議長が参加し、愛労連を代表して連帯の挨拶を行った。次年度体制は今年度の体制を継続。

■Ai 労働相談センター全体会

7月30日

10名参加。5月（新規相談33件）、6月分（同41件）、相談内訳として賃金・残業代未払いが多くなっている状況あり。相談内容の共有。建交労、全国一般に5名紹介し4名が加入。

■安保破棄実行委員会

7月30日

4名参加。7月24日名古屋港管理組合に、自衛艦「くろべ」入港抗議し、平和な名古屋港と求める要請書の提出（西尾議長の参加）、団体からの報告＝医労連・国公・愛労連から原水禁平和大会への参加とりくみを報告。情勢討議。日本平和大会の実行委員会の進行状況報告。次回は9月24日（水）10時～医労連会議室。

■第520回愛知地方最低賃金審議会

7月31日

13人が傍聴。愛労連が提出した署名（紙9300筆、オンライン署4997筆）が中央に置かれ、提出された60件（うち1件は使用者）の「意見書」が事務局から22分にわたり説明があった。冒頭、愛労連の意見書が読み上げられ、次の内容が紹介された（要旨）。「1500円への引き上げ」「全国一律制」「中小企業支援」「二者協議も公開し議事録の作成を（中央では正式な場で協議、愛知は闇の中）」「全国47地方審議会中、34の審議会意見陳述が実施され、昨年岐阜でも実施された。行おうべき」「労働者の生計費の資料として愛労連作成の愛知県最低生計費試算調査の活用を」「答申書に改定額の経過・理由・根拠の明示を」。

会長から質問がある委員は？とあり、使用者委員が「全国一律と愛知の審議との関係は？」「署名と意見書の関係は？」と発言した。そして「意見陳述の申出があるが本年度、当審議会での必要性は？」とあり、労働者委員から「事前に目を通した。昨年を超える物価高で最賃近傍の労働者は厳しい生活があり大幅引き上げを求める。意見書の内容と方向性は同様に労働者委員としては予定しない。意見書をふまえ審議に臨みたい」とし、意見陳述の必要はないと発言しました。使用者委員も「必要ない」と発言し、会長が「意見陳述の場は必要ないか」と各委員に確認、多数決も拍手もされることなく「意見陳述なし」と結論付けた。

一方、29日の専門部会とこの日の審議会に、愛労連の作成した「愛知県最低生計費試算調査（若年単身世帯）」などが配付された。事務局の資料としての配付は初めて。

■憲法と平和を守る愛知の会

7月31日

■日本平和大会青年打ち合わせ

7月31日

リモートでおこなわれ、参加者は5人。11月25日夜におこなわれる青年のつどい「ピースシャウト」について協議した。①会場は労働会館東館ホールを予定していたが、うたごえが東館ホールを使うことになり、ピースシャウトは本館に変更となった。②内容について、クイズをおこなうとし、学習と各団体の見せ場をつくる。次回打ち合わせは8月中におこなう。

■Ai 青年協ビガーデン交流会

8月2日

名古屋市中村区柳橋ピアガーデンでおこない、参加者は自治労連3、医労連2、建交労4、国公1、検数労連1、愛労連1の計12人。サマセミに向けた顔合わせと参加者の近況など交流した。

■全国一般アクリル支援共闘会議

8月2日

12人が参加し、労働会館本館会議室とオンラインで開催された。都労委での調査が結審となり、早ければ年内にも命令が出されることとなりことから、新たに都労委あての署名（個人・団体）にとりくむこととした。8月中下旬に各組合への申し入れを行うこととした。

■生保支援連絡会総会

8月3日

労働会館東館ホールで開催され、参加者はリモート含め約50人。弁護団の森弁護士によるこれまでの運動の総括と今後の運動についての提案、会計報告、原告からの発言などおこなわれた。総会後には、弁護団長の内河弁護士の出版記念講演がおこなわれた。

■原水爆禁止世界大会国際会議

8月3-4日

自治労連愛知県本部の長坂副委員長が参加して発言した。

■サマセミブロック実行委員会

8月4日

リモートでおこなわれ、参加者は静岡3、愛知2、石川2の計7人。サマセミにお内容について協議した。①愛知担当の初日全体会について、愛知案から若干の変更を加えた。②2日目分科会について、D「まったり」コースについて具体化を進めた。③3日目全体会について、大まかな流れを確認した。進行役などを早急に決める。④そのほか夕食交流会などについて、内容、備品など確認した。⑤次回実行委員会をサマセミ開催前（9月初旬）に開催し、参加者の確認や詳細について最終確認をおこなう。

■原水爆禁止世界大会広島大会

8月4-6日

未定稿

■原水爆禁止世界大会オンライン視聴会①

8月4日

3人が参加。「被爆体験の継承と未来～被爆80年広島をつどい」を労働会館403会議室で視聴した。

被爆者の証言や運動の継承について訴えがあった。
会場2000人、オンライン参加600人だった。

■第521回愛知地方最低賃金審議会

8月5日

傍聴6名。特定最低賃金の改正決定の必要制の答申。特定最低賃金額の諮問。
昨日、発表された中央最低賃金審議会会長名の「令和7年度地域別最低賃金改定の目安について」説明。Aランクの愛知の目安引き上げ額は63円。

審議会会長から今後「目安」を参考し審議、まずは専門部会で審議すると発言。専門部会審議後、審議会（本審）を8月21日（木）10時からKKRで開催。

テレビは東海・中京、新聞は朝日・中日・日経・東愛知新聞社、審議会後の取材で効力発生日について質問が多く出されたとのこと。また、特定最賃に関する質問も出されたとのこと。

■原水爆禁止労働組合同際会議（United As One）

8月5日

被爆80年原水爆禁止世界大会の2日目、全労連は8月5日に韓国・全国民主労働組合総連合（民主労総）、フランス・労働総同盟（CGT）、スペイン・労働者委員会総連合（CCOO）、ポルトガル・労働総同盟（CGTP-IN）、米国・電機機械無線労働組合（UE）、米国・ロサンゼルス教員組合（UTLA）から80名の参加者と全労連の組合員の参加者で「核兵器のない平和で公正な世界をめざす労働組合同際会議 United As One」を広島市内で開催し、核のない世界の実現に向け学び合った。

■原水爆禁止世界大会オンライン視聴会（広島）

8月6日

2人が参加。「被爆80年・原水爆禁止2025世界大会広島デー集会」を愛労連会議室で視聴した。

愛知県代表団が壇上に上がり、長坂圭造自治労連愛知県本部副委員長がとりくみなどの発言をした。

会場2800人、オンライン参加750人だった。

■愛知県弁護士会会長との懇談

8月7日

愛労連と愛知県弁護士会は8月7日（木）、愛知県弁護士会館で、「ジェンダー平等」をテーマに懇談を行った。愛知県弁護士会からは川合伸子会長、小川洋子副会長はじめ、西村俊一副会長、宮崎亮弁護士（労働法制担当）。愛労連からは西尾美沙子議長、武藤貴子副議長（自治労連愛知県

本部新委員長)、磯村和佳子幹事（名古屋市職労新委員長）、佐賀達也事務局次長が参加、懇談は2時間にわたった。愛知県は、ジェンダー格差が大きく、その背景に今もさまざまな場面に残る「性別役割意識」があること、愛知の男女賃金格差は、男性100に対して女性73.2と全国43位。管理職における女性の割合は全国最下位と課題が多く、これが女性の東京圏への人口流出につながっている背景のひとつにあることなど、内容の濃い意見交換の場となった。昨年の臨時大会（24.1.21）でのジェンダー平等宣言を採択し、非正規公務員の処遇改善のとりくみなどを紹介した。

■クール・クライメート県教育委員会要請

8月7日

学校の校舎や体育館の断熱化推進を求めてNGOグリーンピースとともに要請をおこなった。学校の断熱はCO2削減と快適な学習環境の提供や避難所としての役割もあることから大切であること、体育館では4000万円程度の工事費がかかるが、電気代の削減効果は大きく、15年で償還できることも伝えとりくみを求めた。

■名労連結成準備事務局会議

8月7日

8人が参加し、当面すすめるべきことについて協議した。単産で加盟協議を進めていく上で、運動方針を早く文書化し、名労連に参加することの意味を議論しやすくする必要性を確認した。その他、加盟に向けた議論の遅れが出ないようにオルグをすすめること、財政の見通し（納入人員）を立てるための議論も求めていくこととした。法人登記や設立に向けた準備などについても事務局で分担してすすめていくこととした。

■424共同行動実行委員会

8月7日

医労連会議室でおこなわれ、参加者は医労連、全医労、国公、自治労連、愛労連、社保協。①この間の地域医療を巡る情勢について報告された。②秋の県との懇談にむけて、要請書の内容を協議した。③これまで424共同行動実行委員会としてやってきたが、今後は社保協の地域医療委員会として会議やとりくみを進めることとした。次回会議は9月19日(金)。

■原水爆禁止世界大会オンライン視聴会（長崎）

8月7日

2人が参加。「被爆体験の継承と未来・被爆80年長崎のつどい」を労働会館会議室で視聴した。被爆者の証言や、長崎の被爆者運動の歴史と被爆者のたたかいなどが、貴重な映像とともに紹介された。会場2100人、オンライン参加500人だった。

■共済会事務局会議

8月7日

愛知共済会事務所でおこなわれ、参加者はJMITU、きずな、建交労、愛労連、事務局から計7人。①この間の共済の増減、給付実績など確認した。②今後のとりくみについて確認し、ハゼ釣り大会について具体化を協議した。③今後の会議日程について確認した。

■Ai新聞編集委員会

8月8日

オンラインで6人が参加。9月10日号の企画打合せをおこなった。

次回委員会 9月11日（木）19：00～ @オンライン

■Ai四役会議

8月12日

単産・地域組織大会あいさつ担当、愛労連新聞コラム担当の確認した。財政問題について、役員任務配置について、改めて愛労連の役割について「愛労連綱領」など資料を提起し、愛労連運動の課題など、議論を図った。

■あいち平和のための戦争展

8月14-17日

市民ギャラリー矢田で開催され、4日間の開催期間中に1550人が参加した。

■A i 組織強化学習教育委員会

8月18日

オンライン含め10人が参加。各組織の現状報告後、わくわく講座スクーリング開催についての確認をおこなった。受講者が参加できるかどうか、直接受講者に確認した上での日程にすることとした。わくわく講座申込者を増やすためのオルグを引き続きおこなうこととした。引き続き声掛けをする確認をした。今後は、幹事会で決定後は組織拡大・強化推進委員会に集結することとした。

次回委員会 9月125日(木) 18:30～ @労働会館本館会議室(予定)

■社保協四役会議

8月18日

保険医協会伏見会議室でおこなわれ、参加者は医労連、年金者組合、民医連、保険医協会などから計8人。今後のとりくみについて協議した。①介護新署名が始まり、9月1日に決起集会がオンラインで開催されること、署名用紙を自治体キャラバン資料にも入れこむこと、介護なんでも電話相談についてなど確認した。②健康保険証存続を求めるたたかいについて、街頭宣伝を9月23日に実施することなど確認。③国保について、国保パンフを自治体キャラバンの資料として活用すること、中央主催の秋の国保集会が12月7日(日)10:30～開催されること、9月県議会へ請願提出することなど確認した。④その他、秋の自治体キャラバン含め、今後の会議日程など確認した。

■民間労組名古屋市人事委員会申し入れ

8月19日

建交労・医労連・福祉保育労・生協労連・愛労連から7人が参加して名古屋市人事委員会への申し入れを行った。人事委委員会からは局長と次長ら4人が対応した。「2025年給与勧告に対する要請書」を提出し、国の勧告を上回る大幅な賃金改善を求めました。

■最賃審議会第3回専門部会

8月19日

10時～12時57分。桜華会館。傍聴6(生協労連、事務局、ふれあいユニオン2、他2)、取材4(朝日2、赤旗、愛労連)。

- ①事務局から資料の説明(消費者物価指数、生活保護)
- ②前回(8/7)の意見継続で、労働者委員73円、使用者委員35円⇒45円
- ③休会 78分間
- ④労働者委員=73円、使用者委員=60円、会長=さまざまな数値あり。
- ⑤休会12分間
- ⑥労働者委員=最終案65円、使用者委員=63円
- ⑦会長=次回に公益案を示す
- ⑧事務局=次回、第4回専門部会を8月21日(木)9時～桜華会館

■JMITUオハラ労働委員会審問②

8月19日

県庁西庁舎でおこなわれ、参加者は22人。JMITU愛知支部の平田委員長と元オハラ樹脂工業業務グループの伊藤氏に対しての尋問がおこなわれた。

■9の日宣伝

8月19日

金山駅で12時から実施。暑さのため30分程度とした。2人が参加した。

■あいち総がかり行動集会&デモ

8月19日

若宮大通公園若宮広場で開催され、約150人が参加した。集会では、被爆80年核兵器のない社会へを大村義則さん(日本被団協被爆二世委員会)、加害の歴史を忘れてはならないと金源道さん(在日韓国民民主統一連合愛知)今、進む軍事化を止めようと八木巖さん(不戦へのネットワーク)がスピーチした。

集会後参加者は、会場から久屋大通を栄え交差点まで北上し大津通矢場町まで戻ってくるコース

で元気にデモ行進した。

■JMITUオハラ労働委員会審問③

8月20日

県庁西庁舎でおこなわれ、参加者は28人。会社側の丹羽氏と社長に対する尋問がおこなわれた。第4回の審問が11月11日(火)13:30からおこなわれることになった。

■第7回安保破棄実行委員会

8月20日

5名参加。原水爆禁止世界大会、あいち平和のための戦争展報告。国公、医労連、共産党、愛労連からのとりくみ報告。被爆80年、パレスチナ、中日社説での平和主張など情勢論議。大軍拡反対署名、殺傷武器輸出反対署名、パンフレット普及と学習会、日本平和大会、辺野古新基地工事中止・名護市長選勝利沖縄行動への参加。次回は9月24日(水)10時～医労連、10月27日(月)10時～医労連。

■原水協理事会

8月20日

オンラインと合わせて開催。世界大会のまとめが報告された。今後原爆パネル展の開催や、ちひろカレンダーについて、被爆80年平和のつどいのとりくみを強めることなどが話し合われた。

原爆パネル展 8月23日(土)～24(日) @オアシス21

次回理事会 9月16日(水)18:30～ @愛知民主会館

■第56回愛知県消費者大会見学講座「鍋屋上野浄水場見学会」

8月20日

名古屋市鍋屋上野浄水場の見学会を開催。14人が参加した。名古屋市上下水道局の職員から、名古屋市の配水管や下水管についての安全性や修繕についてなどを聞いた。浄水場の詳しい説明や、VTRの視聴、施設案内などもあった。全国でも数が少なくなった緩速ろ過方式の浄水方法と、一般的な急速ろ過方式の違いを聞いた。また、土地の高低差を利用し、なるべく電力を使わずに水を運び、施設内に太陽光パネルを設置するなど、環境にも配慮した浄水場だった。

■全労連幹事会

8月20-21日

7月に開催した評議員会の振り返りとともに秋季年末闘争方針の最終確認を行った。秋季年末闘争方針で重点のひとつにしている「対話と学びあい集中月間」の具体化に向けて、幹事会で初めてグループ討論が行われ、率直な議論が交わされ評判も良かった。財政難から今後の幹事会は概ね半分を完全オンラインで開催し、経費の削減を図ることとなった。

■第522回愛知地方最低賃金審議会

8月21日

会長から専門部会の報告＝63円で結審した。63円引き上げの採決：賛成は公益3(1名欠席)、使用者代表5、反対は労働者代表5。局長あて答申文の手交。小林局長のあいさつ。労使から総括のコメント。労働者代表から、「労働者の生活は厳しい。意見書にもあるように介護報酬が少ない。生計費を重点にすべき。大村知事のコメント。目安を超える主張したが残念だが、過去最大は前向きに受け止める。年収の壁、社会保障が課題。政府の実行ある施策を期待」。使用者代表「春闘ベースアップ、物価上昇率を見て目安額を上回らないなら。価格転嫁、行政支援、社会保険料と税金」、会長「労使が一致できなかったのは残念」。労働局「本日から9月5日まで異議申し出を受け、8日の9時30分からKKR名古屋で審議会」。

■最賃審議会第4回専門部会

8月21日

傍聴10人。労働者代表と使用者代表から意見表明。前回と同様で労働代表は65円、使用者代表は60円～65円。9時30分に休会し9時45分再開後、公益提案で63円。9時50分休会、9時56分再開。採決、63円賛成は公益2(会長は入っていない)、使用者代表3、反対は労働者代表3。発言は公労使各1名。

■被爆80年あいち平和のつどい実行委員会 8月21日

被爆80年（2025年）に向けて、愛知独自のとりくみとしての「つどい」開催をめざす実行委員会を開催、当日の担当者割り振りなどについて話し合った。広く参加を呼び掛け多くの参加者が来るようにと再度意思統一をおこなった。

戦後・被爆80年 あいち平和のつどい 2025年9月27日（土）@名古屋市公会堂
次回実行委員会 9月11日（木）10時～ @労働会館本館会議室

■ふたたび戦争させないあいち大行動実行委員会 8月21日

リアルとオンライン併用で開催され、18人が参加した。当日までの準備や流れ、分担について具体化された。集会成功に向けてさらに団体や労働組合へのオルグを強めることとした。

■第30回あいち機関紙宣伝学校第1回実行委員会 8月21日

リモートでおこない、4人が参加。第30回機関紙宣伝学校の今後の持ち方について話し合った。愛労連本体や幹事の関わり方や開催方法などを含めた要請を、実行委員が幹事会にてオルグをおこなう予定で計画。今後の要請結果をもとに、開催に向けての委員会の予定を決めることとした。

■Ai女性協第1回幹事会 8月21日

各組織の活動報告後、とりくみの総括、今後のとりくみに話し合った。原水爆禁止世界大会へ4人の女性協幹事を派遣、幹事は各種会議に多数参加し、平和へのとりくみに奮闘した。派遣費用を、女性協からと物販を兼ねたカンパで一部補助をすることとした。今後も引き続き支援品として巾着を販売していく。愛知労働局への要請を11月におこなう予定。

次回幹事会は、9月24日（水）19:00～ @愛労連応接室

■秋の自治体キャラバン実行委員会 8月22日

労働会館本館でおこなわれ、参加者は自治労連、医労連、福保労、年金者組合、保険医協会、民医連など14人。①要請項目のポイントや国・自治体への意見書について、文章を確認した。②キャラバン全コースの日程について確認し、実行委員会内で担当するコースについて、団長・事務局長を決めた。③今後の日程について、実行委員会を11月26日、12月18日におこなうとした。

■日本平和大会「ピースシャウト」打ち合わせ 8月22日

リモートでおこなわれ、参加者は、平和委員会、民生など計6人。ピースシャウトの内容の具体化をすすめる、必要な備品など協議した。

■愛知健康センター総会 8月23日

リアルとオンライン併用で開催された。佐賀事務局次長が理事に選任された。

■ヒロシマ・ナガサキパネル展「原爆と人間」 8月23-24日

毎年開催している原爆パネル展を今年は栄オアシス21で開催。2日間でのべ3000人が来場した。若い世代が多く来場し、中学生への折り鶴教室なども開かれた。

■Ai青年協幹事会 8月25日

リモートでおこない、参加者は医労連2、建交労、愛労連の計4人。8月2日のピアガーデン交流会の振り返りをおこない、今後のとりくみについて協議した。①秋のとりくみについて、12月21日にモノづくり体験からの交流をおこなうこととした。内容については次回以降具体化する。②サマセミについて、初日・3日目の全体会の具体化を進めた。また、現在の愛知からの申込状況を確認し、現地までの移動についても協議した。③青年協第36回定期総会について、内容を協議した。

今回は記念講演をおこなう方向で調整することとした。④青年協ニュースの2号を早急に発行することを確認した。⑤全労連青年部定期大会について、澁谷幹事が代議員として参加することを決め、発言内容など協議した。

■平和大会実行委員会

8月25日

13人参加。平和に関する情勢報告（平和新聞、笹川財団の提言）。10月4日の国際シンポ、10月24日のフィールドワーク、10月25日本集会、学びと交流のつどい、ピースシャウト、10月26日の分科会、閉会集会とパレードを確認。「つどい」の各担当者から報告。実行委員会の7月31日付けの「呼びかけ」（第2次）を朗読。要員表と要員要請人数一覧表が出され議論した。

次回は9月22日（月）1000～労働会館、その次は10月6日（月）1000～労働会館。

■最賃異議申し出宣伝

8月26日

15人が参加（国公3、医労連2、愛高教1、千種名東労連1、建交労1、愛教労1、福祉保育労1、自治労連1、事務局4）。8時～8時45分まで三の丸で「1140円答申に異議あり」のビラ（ティッシュ入れ）を658枚配布。

東海テレビ、テレビ愛知、中日新聞、しんぶん赤旗が取材した。

そのあと、労働局賃金課に出向き、異議書（愛労連、全医労）とオンライン署名の追加分1917人分（合計：紙の署名9300筆分、オンライン署名6914筆分、合わせて16214人分）を提出した。しんぶん赤旗が同行した。

■A i パ臨連第2回幹事会

8月27日

オンライン含め6名が参加。各組織の活動報告や活動確認などをおこなった後、今後の運動について検討した。「パート・臨時・非常勤などの元気が出る集会」を、今年度は開催しグループ交流の時間を取り、対話を重視することとした。

パ臨元気が出る集会 11月16日（日）午後～ @労働会館本館会議室

次回幹事会は 9月25日（木）18：30～ 生協労連事務所（予定）

次々回は 10月29日（水）18：30～ 生協労連事務所（予定）

■全労連会計年度任用職員組組織化PT

8月27日

全労連黒澤事務局長他3名、中央単産は建交労（田村）と医労連（桜井）の2単産、地方組織からは愛知（佐賀）、沖縄（長尾）、埼玉（比企労連）が参加。

（確認事項）

- ①. PT会議の事務局長交代、仲野（退任に伴い）→黒澤へ
- ②. 総務省「事務処理マニュアル改定」学習会の開催→全労連公務部会と連携して開催する方向で調整する
- ③. 会計年度任用職員ホットラインの開催について→12月7日（日）10：00～19：00での開催を決定。実施方法は昨年度と同様とする。ただし独自に相談体制を確立できる地方組織が増えるように促していく。
- ④. 次回 2025年9月17日（水）16：30～

■愛知共済会理事会

8月27日

労働会館東館409でおこなわれ、参加者は自治労連、JMITU、タクシー協議会、建交労、きずな、愛労連、事務局から計10人。①この間の活動や、共済の増減、給付について報告された。共済の加入については、7月8月と純増している。②今後のとりくみについて協議し、9月17日の全労連共済組織代表者会議の参加についてや10月12日のハゼ釣り大会、11月22日の共済学校について具体化した。④理事会の構成について、各理事の委員会所属を確認した。

■レバカレ公務非正規分科会打ち合わせ

8月28日

愛労連から竹内・佐賀、自治労連本部から青池副委員長、東京公務公共一般労組の原田書記長、たかまつ学童保育ユニオンの藤井書記長、兵庫自治労連緒方さん、自治労連新潟県事務所の坂井さんが参加。分科会のプログラム及び出演者についての調整を行った。

【確認事項】

- ①. 分科会名称及びコンセプト
- ②. 第一部と第二部のネーミング（近日中に確定しチラシに反映）
- ③. 報告テーマと出演者（近日中に確定しチラシに反映）→全労連公務部会への依頼文書は愛労連が担当する。8月30日：坂井さんから報告者とテーマについて、新潟市立保育園で働く会計年度任用職員の鈴木彩子さん（30代）、「公募はいつまで続くの？～廃止まで運動を続けます～」との報告あり。

【第一部】現場発！シン・なかまづくり、つまらない『発表会』

- ①. なんでだろう？手応えと組織化の大きなギャップ（愛労連：西尾美沙子）
- ②. 結成10年、西宮市（特別支援学校）介助員労組がなした事・なせぬ事（兵庫自治労連：緒方純子）
- ③. 公募はいつまで続くの？～廃止まで運動を続けます～（会計年度保育士：鈴木彩子）
- ④. 学童保育の民間委託！高松でのなかまづくりのレシピをどこでどう活かすのか？（たかまつ学童保育ユニオン：藤井康子）
- ⑤. なくならない公募上限！SC「雇い止め訴訟」のたたかいが写すもの（東京公務公共一般労組：原田仁）

【第二部】現場発！だから！こうする！やってみる！みんなでトークセッション

- ①. コーディネーター 首都圏青年ユニオン 尾林委員長
- ②. パネラー 竹信三恵子さん（和光大学名誉教授・元朝日新聞）
- ③. パネラー 川西玲子さん（NPO働き方あすねっと・元自治労連副委員長）
- ④. パネラー 青池則男さん（自治労連副委員長）
- ⑤. パネラー （ ）（全労連公務部会）※未調整
- ⑥. パネラー 尾崎よしみさん（建交労愛知県本部保育・パート支部書記長）
- ⑦. パネラー 藤井康子さん（たかまつ学童保育ユニオン）
- ⑧. パネラー 緒方純子さん（兵庫自治労連特別執行委員）
- ⑨. パネラー 保育士 鈴木彩子（にいがた●●労組）

次回 9月26日（金）16：00～

■消費者大会実行委員会

8月28日

7名参加。第56回大会のもちかた、今後のとりくみの概要を検討した。学習会や見学会、名古屋消費生活フェアへの参加などを予定し、学習会のテーマや方法、開催時期などについて話し合った。今後は、米問題、ノーベル平和賞受賞報告、減災館見学、原発問題、PFOS問題などを検討中。

10月19日（日）13：30～15：30 @ウインクあいち1302会議室

「私たちの食料、これからは～突然消えた主食のコメ～食料に飢える日本を想像できますか？」

講師 鈴木宣弘さん（東京大学教授）

11月8日（土）15：00～16：30 @大学生協会館会議室

「被団協のノーベル平和賞受賞報告」

講師 大村義則さん（被爆二世、愛知県原水協）

11月15日（土）10：30～16：00 @オアシス21

名古屋市消費生活フェア出店 米と食糧問題を考える（仮）

■革新県政の会政策委員会

8月28日

要請項目の最終とりまとめ。愛労連が担当する労働分野に関わる要請項目のアップデートを施し提案した。

■自治体女性職員の権利向上プロジェクト打ち合わせ 8月29日

8月25日、相談者に「部分休業に係る不承認通知書」（市長名の公文書）が示されたことを受け、その内容に係る法的瑕疵等について、田巻紘子弁護士及び自治労連弁護団としての見解を伺う場面（20：15～21：30）を設けた。その見解を受け、これからのチームとしての戦略について、相談者と事務局（佐賀）、田巻弁護士と摺り合わせを行った。

■憲法と平和を守る愛知の会宣伝 8月30日

名古屋市中区栄でおこなわれ、参加者は愛教労、年金者組合、きずな、名中センターなど10人。最賃についてなど、軍拡でなく私たちの生活に税金が使われるべきなど訴えた。若者を中心に憲法署名10筆が寄せられた

■今こそ聞きたい！若者気候訴訟学習会 8月30日

会場とオンライン合わせて約70人が参加した。弁護団の小出薫弁護士から、「いまさらだけど訊きたい若者気候訴訟」と題して、気候危機とCO2排出、削減の取り組みの現状と訴訟で何を根拠に排出差し止めを求めているかのどの説明がされ、1問1答で質疑が行われた。その後には、2人の原告がパネラーとなり、気候危機や原告となった思い、将来に自らが加害者になりたくないという原点などを語った。

9月17日には、14時から第4回口頭弁論が行われ、原告が意見陳述を行う。

■自治労連愛知県本部執行委員会 8月30日

県本部で開催された第2回愛知県本部執行委員会に佐賀（特別執行委員）が出席。自治労連大会の振り返り・秋季年末闘争方針（案）などについて議論がなされた。大府分会の塩森執行委員からは「大府分会としても組合費の値上げなどを議論しながら単組となれるように努力する」との発言があった。武藤委員長からは大阪自治労連坂田委員長の発言が、大会の総括答弁のようで素晴らしかったとの印象が語られた。

■自治労連あいち非正規公共評・自治体一般労組執行委員会合同会議 8月30日

労働会館にて開催された「あいち非正規公共評・自治体一般労組執行委員会合同会議」に佐賀が参加し、夏から秋にかけての公務公共労働者に関わるとりくみの紹介（資料）を提出し情報提供を行った。

■サマセミブロック実行委員会 9月1日

リモートでおこない、参加者は静岡3、愛知2、石川2、全労連青年部の計8人。①サマセミについて8月末時点の参加者集約状況の確認から、初日・3日目全体会の、夕食交流会の備品や移動についてなど内容を確認した。確認できなかったことは、翌日の静岡実行委員会で協議のうえ、翌週のブロック実行委員会で最終確認することとした。②全労連青年部定期大会など、サマセミ以外のとりくみについて確認した。全労連青年部定期大会には東海北陸ブロックからは、愛知が代議員、静岡、三重、石川に特別代議員での参加が要請されており、各県へ参加を呼びかけた。

■公務共闘・愛労連宣伝行動 9月1日

愛知県人事委員会への申し入れに先立って早朝宣伝を三の丸で実施し10人が参加した。宣伝では、最賃引き上げも同時に訴えビラ550枚を配布した。

■愛知県人事委員会要請 9月1日

■A i ケア労働対策委員会

9月1日

秋闘について大幅賃上げを行う緊急財政支援、前倒しの公定価格引き上げ、各組織からの報告と情勢確認、組織を増やして要求前進について議論を行った。育児介護休業法10月改正にともない、意見交換を行った。働き方柔軟メニューを2つ選択するが有休補償となっていないため、実際に絵に描いた餅。医労連の単組では人手不足もあり社会保険料負担が生じるため1年未満は除外にしてほしいという使用者の申し出が出ている。愛労連の秋の重要な運動に2025秋闘特別行動「ケア労働者の大幅賃上げアクション」～秋季年末闘争方針～で賃上げを前に進めるための行動提起を議論した。9月3日に行われる全労連25秋闘ケア労働者の大幅賃上げアクションスタート集会、9月25日いのちまもる総行動について意思統一した。行動計画は、①自治体意見書のとりくみ。自治体意見書は産別でも行っており調整をはかるが議会には定期の報酬改定を待たず10%報酬改定と賃上げへの緊急財政支援を求める。最賃引き上げ原資がないという厳しい状況にある。②10/26福祉予算削るな県民集会や、11/8ナースウェーブ、10/15名ブロ決起集会など、連帯して参加をよびかけ、患者・利用者や地域の方の参加も呼びかけ、理解を求め、マスコミに取り上げてもらえるよう働きかける。③社会的な賃上げとするため、記者会見(9月下旬～10月上旬)、④11.6地域総行動、⑤愛知県経営者協会との懇談など、運動を拡げる。地元議員への要請も考えていく。最賃引き上げに伴う経営実態をつかむ。運動の中で対話と学びあいで、仲間をふやしていくことを意思統一した。

次回会議は9月19日(金)13:30～

参加：自治労連高木、名古屋市職労磯村、医労連矢野・近藤、福保労西田、建交労田村、愛労連竹内、西尾

■春の自治体キャラバン実行委員会

9月1日

自治労連愛知県本部にて第8回実行委員会が開催された。2025アンケートのまとめ作業を行い、9月29日の第9回実行委員会できりまとめを完了させることを確認。9月8日(月)からの西尾市議会での意見陳述に向けては今週中に「原稿」を作成して事務局に集中する。今回は9月29日(月)10時～、場所は自治労連。

■レバカレ分科会説明会

9月1日

分科会の主催者向けに開催された。参加者の討論を促すためにすすめ方やファシリテーターの役割、心理的安全性を保障するための注意点を全体で確認することなどが説明された。会場設営や資料、告知ビラなどについて説明された。

■ケア労働者大幅賃上げアクションスタート集会

9月3日

国民春闘共闘委員会、全国労働組合総連合の主催でオンラインで開催した。全労連九後副議長が司会をつとめ、秋山議長のあいさつ、黒澤事務局長が基調報告を行い、秋の運動方針を話した。決意表明は日本医労連、福祉保育労、自治労連、全国一般、生協労連、建交労、東京地表、愛労連の8団体から決意表明を行った。愛労連は福祉保育労の西田書記次長、生協労連はコープあいちの小林さん、建交労は学童保育愛知県本部の立嶋さんと愛知の活躍が目立った。西田さんは愛知のケア労働者対策委員会のとりくみの内容と連帯してとりくむことで理解が広がり連帯の力が築かれていくこと、「恵」譲渡での運動で福祉保育労の組織化の前進について、県と市が指導職員の増員につながら、社会的な賃金闘争は公共を再生する取り組みともなり、社会的なアクションの意義を結びつける報告となった。全体参加者は約170名で愛知からは20名余が参加した。

■学習協常任理事会

9月3日

当面の方針案やとりくみについて話し合った。労働学校、勤通大、オンライン労働学校(月2回木曜日18:45～、全6回)などが呼びかけられ、SNSの活用法などが検討された。

オンライン労働学校「学びの森」 ひろがる視野、ぶれない「ものさし」

1 1月13日（木）「ものの見方・考え方（1）－事実から出発する」

1 1月27日（木）「ものの見方・考え方（2）－発展の法則性をつかむ」

1 2月11日（木）「社会にも法則性がある－階級という視点」

1 2月18日（木）「資本主義社会とは（1）－賃金と搾取

1 月15日（木）「資本主義社会とは（2）－利潤第一主義の弊害

1 月29日（木）「私が変わる、社会も変える－現代日本のせめぎあい

次回常任委員会 10月1日（水）19：00～ 労働会館本館会議室

■検数労連定期大会 9月6日

西尾議長が参加し、愛労連を代表して連帯のあいさつを行った。

■福祉保育労定期大会 9月7日

浜島副議長が参加し、愛労連を代表して連帯のあいさつを行った。

■尾中地区労連定期大会 9月7日

佐賀事務局次長が参加し、愛労連を代表して連帯のあいさつを行った。

■春の自治体キャラバン議会意見陳述（西尾市） 9月8日

佐賀事務局次長が総務委員会で、公契約条例、自治体財政、国家公務員の体制拡充で陳述した。いずれも全会一致で不採択とされた。

■第523回最賃審議会（異議審） 9月8日

9時30分開会。労働局長から審議会会長あてに「最低賃金審議会の意見に関する異議の申出」について諮問が行われた。9時36分から提出のあった「異議申出」60件（うち一件は使用者団体）（去年は54件）の説明を事務局が行った。傍聴者11人、取材＝中日、朝日、赤旗、タクシー協会・愛労連）。約40分。標題が読み上げられ、内容も補足された。主には①答申額1140円では足りないとする異議、②審議会会長が愛知県知事のコメントを無視したことへの異議、③意見陳述をさせないことへの異議、④非公開・議事録なしの、休会中の協議に対する異議、⑤答申に「経過・理由・根拠」の記述がない、⑥違法判決の生活保護費と比較していることへの異議、⑦中小企業への支援要望（国と県に対して）。

そのあと、異議の内容について、会長から労使委員に意見を求めた。労働者側から「審議会で我々が主張してきたことと同じ内容だ。物価高騰で生活改善ができないことも主張してきた。昨年50円から今年63円の引き上げは前向きに受け止めるが、我々の要求からすれば残念な額だ。価格転嫁も必要だ。全国39審議会で目安額を上回っていることは大きな流れだ。来年も続くのでその波から遅れないようにしなければならない。東海を引っ張る力を愛知から発信しなければならない。愛知県知事からの発言を審議会会長としてコメントしたほうがよい。中小企業への支援強化、年収の壁、社会保障の見直しなど実効ある施策を政府・行政に求めたい。今後も声を上げていく」使用者委員「これだけ多くの異議申出があったということは最賃の関心の高さを表している。中小企業支援の声が多く寄せられたことに感謝する。発効日を3月にするなどの動きもあるが、それでは（効果）も半減する。発効日をいち早くしたほうがよいと考える。支払い能力から3.32%35円を主張してきた。改めて審議をすれば発効日がずれることになる。

会長から「物価動向、賃金アップ、価格転嫁、統計データから議論してきた。異議もあるが、公益としては8月21日の答申通り決定したいというのが結論だ」（知事の発言に対するコメントはなし）

5分ほど事務局の手続きがあり、答申書が局長に手交された。

局長から「愛労連はじめ60件の異議申出があり審議していただいた。その結果8月21日の答申

通りと決定いただいた。9月18日に官報、10月18日効力発効となる。今後、新最賃額の周知、広報活動に全力を尽くす。中小、零細企業への支援は（助成金など）関係団体と自治体が連携し周知に総力をあげる」とあいさつした。
10時42分に終了した。

■全国一般アクリル爭議支援共闘会議 9月8日

12人が参加した。東京及び愛知での署名の協力を求めるオルグ要請の進捗状況が報告された。5名連記できる署名用紙の要望が出されたので順次届けている。北委員が都労委での審査が終了したため、意見書を提出であり意見を求められており、全国一般本部に集中することとした。16日に提出予定。都労委では命令書準備が始まることから、9月、10月に他の爭議とも共同して宣伝や、都労委事務局要請にとりくむこととした。

次回は10月28日(火)18:30から労働会館本館&オンライン。

■サマセミブロック実行委員会 9月8日

リモートでおこない、参加者は静岡3、愛知2、岐阜、石川2、その他1の計9人。①第32回サマセミ開催にむけて、初日全体会、3日目全体会の内容確認、2日目分科会および1日目BBQ時の車・運転者についてなど最終確認をおこなった。②サマセミ終了後の総括会議について12月初旬におこなうことを確認した。また、来年度の開催についてはすでに石川県労連が日程をきめ、宿泊施設も確保していることを確認した。

■社保協理事会 9月8日

愛知県保険医協会伏見会議室とリモートでおこなわれ、参加者は12人。①大軍拡より社会保障の拡充を求めるたたかいとして、この秋から始まる署名について確認した。②介護の問題について、この間の情勢を確認し、今後のとりくみについて確認し、なんでも電話相談、一言メッセージ、学習について呼びかけられた。③そのほか、健康保険証存続、424共同行動、国保、高額療養費などの情勢や今後のとりくみについて確認した。

■Ai四役会議 9月9日

8人が参加した。財政問題に関わって議論し、専従体制削減の対応作について、従来と異なる対応をしていく方向を模索し、幹事会に提案していくこととした。

■中川地域センター名労連オルグ 9月9日

中川センターで開催され、8人が参加。竹内事務局長が訪問し、名古屋労連結成に向けた意義とともに準備状況や結成後の地域運動がどうなるか話をした。

■平和大会「気候危機」打ち合わせ 9月9日

6名参加。8月30日気候危機の学習会で訴え。当日の司会（ ）、受付（市川）、記録（国公）、OA機器（年金者組合）、講師の資料印刷は愛労連で行う。要員：つどいの道案内2（年金者組合と平和委員会）、ピースシャウト道案内（愛労連、国公、平和委員会）、9月17日の若者気候訴訟の報告集会で訴え。次回は、9月30日（火）1100～愛労連応接室。

■9の日宣伝 9月9日

12時～金山駅北口で実施。参加4名（愛労連・平和委員会・革新あいち・共産党）。署名2筆。軍事費43兆円、石破辞任、最賃などを訴えた。

■サマセミブロック実行委員会 9月9日

リモートでおこない、参加者は静岡3、愛知2、岐阜、石川2、その他1の計9人。①第32回サマセ

ミ開催にむけて、初日全体会、3日目全体会の内容確認、2日目分科会および1日目BBQ時の車・運転者についてなど最終確認をおこなった。②サマセミ終了後の総括会議について12月初旬におこなうことを確認した。また、来年度の開催についてはすでに石川県労連が日程をきめ、宿泊施設も確保していることを確認した。

■愛知共済会事務局会議

9月10日

共済会事務所でおこなわれ、参加者はJMITU、きずな、建交労、愛労連、事務協から計7人。①この間の共済加入の増減、給付の実績、とりくみなどを確認した。②今後のとりくみについて、10月12日のハゼ釣り大会などについて協議した。

■A i 最賃・公契約対策委員会

9月11日

前回の7月30日以降の審議会、愛労連のとりくみを時系列に確認。署名の到達点を確認。25年の最賃額確定のとりくみの前進面（意見書と異議書の増、マスコミ報道、最低生計費試算調査採用、発効日など）、審議会評価（非公開議事録なし問題）を議論した。今後のたたかい、全労連署名と10.24の全労連活動交流、愛労連署名用紙、10.18の新最賃額周知宣伝。最低生計費試算調査のアップデートの日程。「合意形成会議」を12月10日(水) 19:30～20:30（オンライン含む）に予定。次回第3回委員会を10月16日（木）15:30～とした。

■A i 新聞編集委員会

9月11日

オンラインで5人が参加。愛労連新聞8月10日号の振り返りと、8月10日号の企画打合せをおこなった。新委員の高木さんも参加しての委員会となった。

■クール・クライメートあいち打ち合わせ

9月11日

オンラインで3人が参加。9月17日(水)の行われる第4回口頭弁論の運営や分担、これに合わせて「ワタシのミライ」が提起する「気候アクションウィーク2025『とめよう温暖化 ミライへの種まき』」にフォトアクション（バナーを持った写真でアピール）に参加することから、その具体化を行った。

■第32回サマーセミナー

9月13-15日

静岡県富士市で開催され、参加者は全体で50人。参加者内訳は静岡31、愛知10、岐阜3、三重1、石川4、その他1。愛知の内訳は医労連5、愛高教2、国公1、自治労連1、愛労連1。

1日目は自己紹介からグループ紹介フライヤーづくり、BBQでの夕食交流会などおこなった。2日目は4コースに別れて周辺を散策し、その内容をまとめるフライヤーをcanvaを使って作成し、夕食交流会で内容紹介をおこなった。3日目は、この1年の労働組合の平和のとりくみを紹介し、各とりくみの参加者から参加しての感想や平和への思いを聞いた。その後グループに分かれて平和について自由に語り合った。

■全労連女性部定期大会

9月13-14日

高木りつ部長、全労連・秋山正臣議長、婦団連小畑雅子会長、日本共産党吉良よし子参議院議員があいさつ。議案提案、1年間のとりくみ総括、方針、予算などの報告後、各組織からの発言では、各組織の現状や奮闘、対話と学びあいの大切さなどが訴えられた。「大軍拡NO!戦争・虐殺止めろ、憲法生かし、平和、いのち、くらしを守る政治への転換／差別と分断は許さない、ジェンダー平等の実現、ハラスメント根絶／労働法制改悪反対 対話と学びあいを文化に 仲間を増やして要求実現をしよう」をスローガンにした大会宣言が採択された。愛労連女性協からは、全労連女性部常任委員も合わせて、現地・オンライン含め合計6名が参加した。

■憲法と平和を守る街宣A

9月13日

栄メルサ前で実施し、14人（自治労連2、国公2、きずな1、医労連1、東海法労1、年金者組合1、名中1、事務局2、社民2、その他1）が参加した。

■東三河労連定期大会

9月14日

佐賀事務局次長が参加し、愛労連を代表して連帯のあいさつを行った。

■革新・愛知の会世話人会・渡辺治講演会

9月14日

会場を埋め尽くす180人が参加した。渡辺治氏は、「参院選挙後の激変する情勢と求められる革新懇運動」と題して講演。参議院選挙の結果について「憲野党は停滞し、国民、参政党が躍進したのか？」

■Ai単産・地域代表者会議

9月17日

43人（14単産19人、14地域18人、女性協1、事務局5）が参加した。発言は秋のたたかひの要求や課題、とりくみについて13人（単産7、地域5、女性協1／男性9、女性4）が発言した。

欠席：生協・年金者・検数・タクシー・金融・ローカル・私教連
東・西・中村・あつた・名南・一宮・海部津島

■若者気候訴訟第4回口頭弁論期日

9月17日

傍聴券抽選には127人が列をつくり、回を追うごとに増えてきている。弁論では2人の原告と2人の代理人が陳述を行った。

クール・クライメートあいちが「ワシンのミライ」がよびかける気候アクションウィーク2025に呼応してフォトアクション「とめよう温暖化 ミライへの種まき」を実施し、約90人が参加した。



■青年ネットスタッフ会議

9月18日

リモートでおこなわれ、参加者は計4人。情勢学習や今後のとりくみについて協議した。

■Aiケア労働対策委員会

9月19日

報酬改定を待たず公定価格10%引き上げの改善を求めるための具体化について、陳情・請願の取扱について、運動を地域でどう広げていくのか、議論を行った。9月3日「25秋闘ケア労働者の大幅賃上げアクション」スタート集会の振り返りを行い、愛知から愛労連、生協労連、建交労学童保育の仲間が3人も特別報告を行った。自治体への動きは提起されたが、国への運動の形がみえず、全労連にも意見を求めている。

次回は10月16日（水）13時30分～リモート会議。

■一宮地区労連定期大会

9月19日

一宮地区労連定期大会が開催され、愛労連から西尾議長があいさつを行った。一宮教組の地域労連から加盟費などのことで脱退の報告がされたが、当該組合も参加をして討論を行った。メーデーがパレスチナの行動など参加をしていきたいと発言があり、協力関係を確認することとなった。各単産の取り組みが報告され、給特法9.24県庁前宣伝にも地域労連から参加をしていこうと、地域労連の意義を深め合う大会となった。

■社保協地域医療委員会(424)

9月19日

医労連会議室でおこなわれ、参加者は医労連、国公、全医労、自治労連、愛労連、社保協の計6人。①この間の情勢報告がされ、オンラインでの医師の死亡確認が検討されていることなど報告された。②今後のとりくみについて協議し、10月14日10時からの愛知県との懇談など確認した。③次回会議日程を調整し10月4日10時からおこなう事となった。

■全国一般定期大会

9月20日

全国一般第53回定期大会が開催され、愛労連から西尾議長があいさつを行った。全国一般本部書記長がリアルで参加をされあいさつをされた。組合員は昨年7名上回る純増で大会を迎えた。アクリル爭議の東京都労委への公正な勝利命令への団体署名・個人署名の取り組みを強化し、10月3日要請があり、団体・個人署名の取り組みに力を尽くそう。トヨタをはじめ大企業が下請け単価引き上げをしたと報道されているが、自動車業界全体に賃上げの動きは行き渡っておらず、東新化成の賃上げは昨年を下回り倒産の危機があるなど、中小企業の厳しさが報告された。全国一般では、組織拡大と要求実現のため全員参加の組合活動4つの基本の実践の提起が行われた。

- ①会議の定例開催
- ②法律や情勢等を学ぶ学習の定例開催
- ③労組活動や情勢等を伝えるニュースの定期発行
- ④職場の声を集めるアンケート活動、署名、行動への参加

■建交労定期大会

9月21日

建交労第27回定期大会が開催され、愛労連から西尾議長があいさつを行った。日本共産党もとむら伸子衆議院議員も来賓にみえあいさつを行った。組織拡大に力点おき、100人以上の純増をめざすことが提起された。3つの組合が昨年比純増となった。特別表彰機関誌（24年9月以降に6回以上発行）には8組織が表彰された。

秋闘方針、スト権の確立について、春闘アンケートのとりくみについて、議案提案が行われた。偶数月には核兵器廃絶や9条をまもる継続的な宣伝の実施などが報告された。

■医労連ユニオンセミナー

9月21日

西尾議長が参加をした。午前中は特別報告・名市大のコーヒーブレイク（ミスタードーナッツ配布）の取り組みは評判が高く、組合の認知になり対話のきっかけ作りになっている。コロナ以降、話し合う機会が減ってしまい、参考になったなどの感想がだされた。共済学習、医労連の歴史・署名の意義について報告があった。午後からは全労連名取幹事から対話と学びあいスクール参加者ガイドに基づいて説明と実践が行われた。○組合員の仲間がダーツの的に見立て、組合員を中心に向かって移動させ、他の人を結集させる人になることを意識的に行うこと。○よい聞き手として、組合の営業担当ではなく、何かを売り込もうと思わず、相手の考え方を知り、新しいことを共に創ること真剣に追求する姿勢などを学び、「組織化のための対話」の実践を行った。揺さぶる質問や怒りを持つ質問、希望をもつ質問をするトレーニングが必要である。○リーダーをみつける、選択すること、○職場マッピングをすることで問題点が共有できる。などを学んだ。

■ふたたび戦争させないあいち大行動

9月21日

戦後80年・安保法制強行成立から10年の節目として開催された集会とデモに400人が参加した。

主催者を代表して、愛知大学の長峯信彦教授があいさつ。中谷雄二弁護士がこの10年を振り返りつつ、憲法9条をそのままに、軍事国家と監視社会への道が急速に進んでいると告発した。沖縄、熊本、京都、愛知から4人が報告し、敵基地攻撃能力の配備や製造、基地強靱化について報告した。

集会後、参加者は鯉城ホール前から栄までデモ行進した。

■はたらく女性の中央集会実行委

9月22日

愛知の会場と全労連会場、各実行委員をオンラインにてつないで開催。11月に開催される「はたらく女性の中央集会in愛知」について、要員の割り振りや基調報告内容について話し合った。

はたらく女性の中央集会in愛知 11月29日(土)～30日(日)

1日目分科会 労働会館、2日目全大会 ウイルあいちホール

次回実行委員会 10月20日(月) 18:30～ @オンライン

■日本平和大会実行委員会

9月22日

16人参加。中央実行委員会からの情勢学習。24日、25日、26日の日程、25日の「つどい」の進行状況を各担当から報告、「要員用マニュアル」を確認。各団体のパンフレットと学習。9月29日のプレ企画、10月25日(土)の平和の歌声交流会。次回は10月6日(月) 10時から本館。

■名労連結成関係単・地代表者会議②

9月23日

33人が参加した。年金者組合からは加入単位組織となる名古屋市内の各支部から参加した。各組合での加入議論に際し、何をする組織なのかわからずイメージできないとの声も寄せられていることから、運動方針骨子のたたき台を提案し議論した。

次回は、11月23日(日) 10:00から労働会館本館会議室にて。

■全労連幹事会

9月24日

2026国民春闘方針の骨子について議論を行った。秋季年末闘争方針で提起している「対話と学びあい集中期間」や「ケア労働者の大幅賃上げアクション」との継続的なとりくみが大切であることを強調し、ロードマップを分かりやすく適することの必要性を発言した。また、最低賃金要求について議論していくこととした。

■Ai女性協幹事会

9月24日

各組織の活動報告後、とりくみの総括、今後のとりくみについて話し合った。はたらく女性の中央集会への参加呼びかけをおこなった。愛知労働局への要請を11月26日におこなう予定。要請の内容を次回までに検討することとした。

次回幹事会は、10月9日(木) 19:00～ @愛労連応接室

■Ai労働相談センター全体会

9月24日

新規相談7月＝48件、8月＝27件で昨年88、66からかなり減少。建交労、全国一般、福祉保育労に4名紹介して、建交労に2名加入。次回11月27日(木) 15時から403。改正育児・介護休業法のミニ学習も行う。

■千種・名東労連定期大会

9月24日

佐賀事務局次長が参加し、愛労連を代表して連帯の挨拶をした。

■安保破棄実行委員会常任幹事会

9月24日

5人参加。経過報告(9月21日のあいち大行動とデモ、400人など)。情勢学習、加盟団体のとりくみ報告、11月28日～30日「辺野古新基地工事中止・名護市長選勝利」沖縄行動への参加(国公：青山さんともう一人追求)、12月12日(金) 1830～本館で「名護に連帯するつどい(仮称)」を行う。次回は10月27日、11月19日(いずれも10時から医労連会議室)

■消費者大会実行委員会

9月24日

7名参加。第56回大会の今後のとりくみについて検討した。学習会や見学会、名古屋消費生活

フェアへの参加などを予定し、学習会のテーマや方法、開催時期などについて話し合った。今後は、米問題、ノーベル平和賞受賞報告、減災館見学、原発問題、PFOS問題などを検討中。参加が呼びかけられた。

10月19日（日）13:30～15:30 @ウインクあいち1302会議室

「私たちの食料、これからは

～突然消えた主食のコメ～食料に飢える日本を想像できますか？」

講師 鈴木宣弘さん（東京大学教授）

11月8日（土）15:00～16:30 @大学生協会館会議室

「被団協のノーベル平和賞受賞報告」

講師 大村義則さん（被爆二世、愛知県原水協）

11月15日（土）10:30～16:00 @オアシス21

名古屋市消費生活フェア出店 米と食糧問題を考える（仮）

■名南労連定期大会

9月24日

柴田副議長が参加し、愛労連を代表して連帯の挨拶をした。

■愛高教宣伝

9月24日

愛高教は、9月24日（木）夕刻、「改正」給特法の条例化を許さないとりくみとして、県庁前行動を行いました。県教委と人事委員会への要請とともにコール&レスポンス等で盛り上がり、愛高教から90人以上、愛労連などから18人、名高教と愛教労からも参加があり、総勢100人超えの大盛況となった。愛高教では、8月末に全県オンライン会議で行動を提起し、約一ヶ月、参加者100人を目標に参加を呼びかけてきた。当日、14時30分から愛知県人事委員会へ要請署名を6千筆の提出も行った。愛高教ニュースでは、「県庁前行動には参加予定でなかった人や組合未加入者を連れて来てくれたりと、愛高教の底力を実感し、さらには仲間への深い信頼を改めて感じる時間となりました。大盛況に満足せず、私たちの願いが叶うその日まで引き続きがんばります。愛労連からの多大なる愛を常に感じています。いつも支えてくださり、本当にありがとうございます。」との紹介が行われた。愛高教の集会で愛労連の西尾議長は「定時で帰れない9割、休日出勤している教職員も。愛知県は教育予算を増やせ」と訴えた。この行動は、中日新聞としんぶん赤旗が取材し両社が報道した。24日の中日新聞「県内版」に「主務教諭設置やめて 県人事委などに要望」の見出しで、カラー写真付きで報道した。赤旗は、「主務教諭の導入で管理する側とされる側で大きな壁ができ、教員間が平等でなくなる。このままでは学校がもたない」と掲載した。

次回は10月31日（金）16時半？

■Ai組織拡大・強化推進委員会

9月25日

26年度第1回目の組織拡大推進委員会を開催した。これまで別々で会議をしていた組織拡大強化の課題と学習教育活動を一体にして取り組むこととなった。

今回は愛労連・秋の仲間ふやしをテーマに加盟組織から学習講演と討論を行う企画をすることとした。その第1回目は、愛高教幹事でもあり、愛高教書記次長の松本陵子さんから、愛高教組織を強く大きく「対話と学びあい」の実践からと題して講演をしていただいた。松本さんは、障害児教育ではたらく中で経験してきた悩みや思い、笑顔いっぱい楽しい学校をつくりたい気持ちに陰りもあったことなども踏まえ、労働組合役員に至るまでのストーリーは胸を打つ内容であった。学習会参加を軸にして組織拡大につなげ、青年部層に濃厚対話で関係づくりを行ってきたことなどが話された。労働組合の日常活動として、「組織づくりニュース」を発行し、組織強化につながる『秘密のレシピ』の紹介や組合員の「どうして、あなたは組合員なの？」の顔入りニュースが組合を身近に感じさせている取り組みも紹介された。常に戦略的で、「平和大会」などの参加目標を100人として、すべての行事を組合員・未組織を集める機会として果敢に挑戦する愛高教のとりくみに希望が持てる感動的な講演であった。講演の後、共感できる点や組合で生かしていきたい点について

討論を行った。学習教育については、「わくわく講座」を推進委員会みんなで受講していくことを確認した。

次回会議は10月23日（木）18時30分～。講師は全医労豊橋石川淳子さんから「労働組合は家族です～対話が仲間のチカラをアップに変える」（仮）

■Aiパ臨連幹事会

9月25日

第3回幹事会を愛労連応接スペース&オンラインにて開催しました。主な議題は、11月16日開催する予定の「第28回元気集会」のプログラムについてでした。今回の講演はフリー映像ディレクターの吉峯美和さんをお願いする子を決定、それぞれの単産で呼びかけをすすめることを確認しました。

■核兵器廃絶国際デー宣伝

9月26日

2013年9月に国連から提唱された核兵器廃絶国際デーにあわせた宣伝行動を、栄メルサ前にて実施。愛知国公、愛労連、県平和委員会、愛知のうたごえ協議会、新婦人、保険に協会、愛商連、県原水協から11名が参加し9筆の署名が集まった。県原水協代表理事の松田さんからは、愛知教育大学で長く教員をしてきた、教え子を再び戦争に参加させない強い思いだとの訴えがあった。

■クール・クライメートあいち事務局会議

9月26日

5人が参加した。8月30日に開催した学習会は、会場22人、オンライン39人が参加した。第4回口頭弁論当日の分担やフォトアクションすすめ方について確認した。

■全労連青年部定期大会

9月27-28日

全労連会館でおこなわれ、約50人が参加した。

1日目は議案提案と討論、生計費に関する学習、分散討論がおこなわれた。①討論では京都総評の最賃のとりくみ「わたかけ～私の家計簿～」の報告などがおこなわれた。②学習では静岡県立大学の中澤先生による「賃金と社会保障－生計費視点から読み解く－」と題した講演で、社会保障の成り立ちなどが話された。③分散討論では、自己紹介を兼ねた「偏愛マップ」作成からの交流がおこなわれた。

2日目は討論、議案採択、役員選挙がおこなわれ、①討論では愛知（愛労連青年協のとりくみや課題）、静岡（サマセミにむけての県内のとりくみやサマセミ本番について）など計14本の発言がされた。②議案採択では満場一致で全ての議案が採択された。③役員選挙では立候補者全員が満了で新任されたものの、役員数は減少した。新部長には全教の橋本さんが新たに就任した。

■戦後・被爆80年 あいち平和のつどい

9月27日

戦後・被爆80年の節目の年に、愛知県民へ広く平和を訴えるつどいが名古屋市公会堂で開催された。愛知県と名古屋市が後援した。午前中は「原爆犠牲者追悼慰霊祭～偲ぶ集い」が開催され、愛労連の西尾議長があいさつをおこなった。午後は文化企画として、朗読劇や高校生との座談会、合唱などのステージや、ノーベル平和賞メダルや原爆パネルなどの展示など、のべ1800人の多数の参加で盛況だった。

■第8回安保破棄実行委員会常幹会議

9月27日

5人参加。経過報告（9月21日のあいち大行動とデモ、400人など）。情勢学習、加盟団体のとりくみ報告、11月28日～30日「辺野古新基地工事中止・名護市長選勝利」沖縄行動への参加（国公：青山さんともう一人追求）、12月12日（金）1830～本館で「名護に連帯するつどい（仮称）」を行う。次回は10月27日、11月19日（いずれも10時から医労連会議室）

■春の自治体キャラバン実行委員会

9月29日

自治労連愛知県本部にて、見出しの会議を開催しました。時期が遅れた西尾市議会への意見陳述の状況を共有し、2025年度のキャラバンアンケートのまとめ作業を行いました。

■日本母親大会in東京&オンライン視聴会

9月28-29日

日本母親大会が開催され、視聴会を労働会館会議室で開催。労働会館会場には23人が参加。県内各地にもオンライン会場が20カ所開設され200人以上が視聴した。現地へは愛知県からは84人が参加、全国では東京会場とオンラインをあわせて13000人が参加した。全体会は、フリージャーナリストの布施祐仁さんの講演「戦後80年と不戦の決意～日本とアジアを再び戦場にしないために」を聞いた。外交での平和をめざすASEANのとりくみについてなどが話された。会場全員参加の各地域エール交換や、運動報告、決議採択など多数の参加で、熱気溢れる団結した大会となった。来年は宮城県で開催予定。

■A i 青年協幹事会

9月30日

リモートでおこない、参加者は医労連2、建交労、愛労連の計4人。①サマセミや全労連青年部定期大会の振り返りをおこなった。②第36回定期総会にむけて、議案書案や代表委員会で提案する内容を確認した。定期総会の代議員定数をこれまでから変更し代表委員会で提案することとした。また、総会前の記念講演について内容を協議した。③青年協ニュースの第2号からの内容を協議した。

■平和大会「学びと交流のつどい」打ち合わせ

9月30日

6名参加。当日のタイムテーブルと担当を確認。受付担当（市川と平和委員会の2名）、設営（12時労働会館本館集合）、プロジェクターは年金者組合、司会（福島）、講師資料印刷（青山と市川で愛労連にて）。会場の横断幕作成協議。「つどい」最終打ち合わせは10月20日(月)10時から応接。

■地域手当違憲訴訟第4回口頭弁論

10月1日

大法廷をはば埋める傍聴参加があった。次回は2月8日

■鉄道の安全とサービスの充実を求める東海の会

10月2日

10月1日、国労会議室にて10月10日に予定する"JR利用者アンケート結果"記者発表に向けた最終確認の打ち合わせを行った。愛労連からは佐賀事務局次長が出席し、当日の次第、マスメディアへの発信及び記者会見資料（概要版・会見用フリップの作成含む）を担うことが確認された。

■名城病院裁判証人尋問①

10月2-3日

10月2、3日両日行われた裁判には、愛労連加盟組織からたくさん傍聴参加があった。2日は副看護部長と原告と同じ病棟で働く看護師2人（病院側）、産業医、リワーク医師の主尋問・反対尋問が行われた。看護師らの証言は労災申請に協力したときの証言とは異なり二転三転し信憑性に全く欠く内容であった。原告と被告の言い争いについても「怒鳴ったりはしていない」と被告の看護師長を擁護する発言に変わってしまった。産業医もリワーク医師も原告の復職を認めないことに終始し、悪意が立証された。

3日は被告の看護師長と原告の主尋問・反対尋問が行われた。原告は被告が証言席の向かいにいます中、冷静に尋問をやり遂げ、弁護団から100点満点の尋問だったと感想が述べられた。被告の看護師長は、悪びれた様子もなく「記憶にない」など事なかれの主張に終始しました。尋問は終了し、和解協議に入ります。協議が不調になれば裁判は結審となり命令の運びになります。裁判所に公正な判決を求める団体・個人署名の取り組みの最終版となりご協力をお願いする要請の通達を発出した。

■名張毒ぶどう酒事件奥西さん獄死10年行動

10月4日

奥西勝さんが無念の獄死から10年を節目に、名古屋駅・笹島交差点で再審開始を求める大規模な宣伝アピール行動を実施した。生憎の雨天となったが、120人を超える支援者が参加して再審開始を訴えた。全国のえん罪当事者や支援者も駆けつけて訴えた。

■なくそう官製ワーキングプア大阪集会

10月4日

10月4日、エル大坂で開催された「なくそう！官製ワーキングプア大阪集会」実行委員会からの要請を受け、愛労連から西尾議長・磯村幹事・佐賀事務局次長が、昨年度の同集会で参加者に協力を求めた「名古屋市1200人雇止め」に関わる中間報告を行った。非正規公務員研究をリードする研究者（立教大学上林特任教授・北海学園大学川村教授・静岡大学中澤准教授・金沢大学早津准教授など）が集い、和光大学名誉教授でジャーナリストの竹信三恵子さんがメインスピーカーを務める、内容の濃い集会となった。なお、経費を最小限に抑えるため会場までは「労働会館カー」で赴くこととし、空き座席数に限定してプロジェクトに関わる単産・単組にも（一定の交通費負担を前提に）同乗・参加を呼びかけた。愛労幹事会3名に加え、自治労連愛知県本部1名、建交労保育パート支部1名、名古屋市職労1名の総勢6名で参加した。

■平和大会実行委員会

10月6日

20人参加。中央実行委員会から10月4日の国際シンポの公告。進行の時間、担当などの確認。ピースシャウトの詳細、分科会の担当から報告、閉会とパレード（宣伝カーの配置、コールとアナウンス案）、フィールドワーク確認、うたごえ広場、参加申し込み書付きのビラの発行済み（A版表裏）。次回は最終確認の実行委員会となる。10月16日（木）13時から本館。気候危機は10月20日（月）10時から応接室。

■社保協四役会議

10月6日

労働会館東館403会議室でおこなわれ、参加者は自治労連、年金者組合、保険医協会、民医連などから計7人。今後のとりくみについて確認した。①介護について、この秋始まった新介護署名の提出集会が11月20日に衆議院第2議員会館でおこなわれ、労働組合からの参加が要請された。②健康保険証存続、国保、高額療養費、後期高齢者医療、生活保護などの情勢と今後のとりくみを確認した。③秋の自治体キャラバンについて、最新のコース表と団長・事務局長会議にむけての確認をおこなった。

■原水協69行動宣伝

10月6日

自治労連、愛労連、愛知国公、県平和委員会、愛知のうたごえ協議会、県原水協のメンバー9人が参加。「高市自民党新総裁へは、経済問題とともに、平和について取り分け関心がある。軍事費が9兆円にも上る事態は、極めて重大な事態だ。平和は守れない。自治体労働者でつくる自治労連としても、闘っていきたい」と自治労連の長坂副委員長が訴えた。「唯一の被爆国としても、核兵器禁止条約に入るべき。広島・長崎では、今年も、国連代表も集まり、なんとしても核兵器廃絶をと話し合ってきた。ぜひとも、署名にご協力ください」と訴え署名も集まった。

■9. 21大行動実行委員会

10月6日

実行委員会としてのまとめの会議を行った。安保法制強行以来10年にわたって毎月19日を基準に集会や学習会、街頭宣伝を継続してきたことの上に立って開催したとりくみとして意義のあることだった

■秋キャラ団長事務局長会議

10月8日

労働会館本館でおこなわれ、参加者は24人。要請項目のポイント、運営について、各コースに

ついでの説明などおこなわれた。

■労働会館入居団体会議

10月9日

熱田区役所総務課の担当者から、南海トラフ地震や豪雨、地震など災害別の避難や避難場所についての説明を受けた。また、事業としての帰宅困難者対策についても説明を受けた。入居団体会議では、営繕・工事・防犯に関する年間計かが報告された。質疑では開館利用にあたっての要望が出され、今後の検討課題とされた。

■9の日宣伝

10月9日

金山駅北口でおこない、参加者は共産党、愛労連の計2人。軍事費でなく私たちの生活に税金使おうなど訴えた。

■Ai女性協幹事会

10月9日

各組織の活動報告後、とりくみの総括、今後のとりくみに話合った。11月26日に予定をしている愛知労働局への要請の内容を検討した。女性協新春のつどいは1月12日（月・祝）に開催予定。つどいの構成や講師を話合った。

次回幹事会は、11月19日（水）19：00～ @愛労連応接室

■知多労連定期大会

10月10日

西尾議長が参加し、愛労連を代表して連帯のあいさつを行った。

■名北労連定期大会

10月10日

竹内事務局長が参加し、愛労連を代表して連帯のあいさつを行った。

■青年ネットスタッフ会議

10月10日

リモートでおこない、参加者は計4人。各団体の活動交流、今後のとりくみについての協議をおこなった。今後のとりくみについては、来年2月ごろに「大名刺交換会(仮)」をおこない、各組織の拡大や1年半後に迫っている知事選挙にむけてなど団体間での交流をおこなっていくこととした。

■"JR利用者アンケート"結果記者発表

10月10日

20年前に発生した「JR福知山線脱線事故」から調査を始めた"JR利用者アンケート"も今回で20回の節目を迎えた。単産・地域でのとりくみには陰りが見えるものの、度重なるJR各社で発生する重大インシデントや、ICT化による駅の無人化などもあり、JR利用者の関心は高まっている。昨年度から、20回目となるアンケート結果の記者発表をめざし、東海の会では5月から駅頭配布や駅周辺へのポストインを重点的にとりくんだ。その結果、今年度も昨年度と同水準となる659通のアンケート回答を回収することができた。事務局で単純集計から見える「中間報告」をまとめ、概要版を公表するとともに、愛視協にも協力を呼びかけ、可動式転落防止柵の必要性を発信した。中日新聞・しんぶん赤旗・フリーライターが会見に訪れ、しんぶん赤旗が第一報を報じた。

■愛知国公定期大会

10月11日

竹内事務局長が参加し、愛労連を代表して連帯のあいさつを行った。国公体制拡充署名の紹介議員として藤原規眞衆議院議員（立憲）が来賓として参加し、連帯のあいさつを行った。

■憲法と平和を守る街宣A

10月11日

13人が参加して宣伝を行った。

■東海労働弁護団総会

10月11日

ウインクあいちで開催された「東海労働弁護団総会」の記念企画「ジェンダー不平等の視点からみえる非正規公務員制度」に関わり、名古屋市立保育園保育士等1200人雇い止めの報告要請を受け、あいち非正規公務員1万人プロジェクトとして、西尾議長・佐賀事務局次長・建交労保育パート支部安海副委員長が参加・報告を行った。記念講演は大阪信愛学院大学の廣森直子准教授がおこない、日本労弁からは非正規公務員制度立法提言及び育児介護支援の政策提言が紹介されました。

■レバカレ2025

10月11-13日

労連主催の「労働運動交流集会・レイバー・ユニオン・カレッジ（通称レバカレ2025）」が東京・京橋のビジョンセンターなどで開催された。全国各地のすぐれた経験と実践に学び、対話を通じて運動を深める交流集会として、参加が広く呼びかけられ、合計700人以上が参加をした。3日間、5つに分けた分科会タイムに70分科会がエントリーされ、愛知からは、建交労1、JMITU1、全国一般1、福祉保育労7、医労連5、国公2、自治労連24、愛高教3、事務局5の合計49人が参加した。対話のトレーニングやボトムアップでの労働運動の手法、とりくみの成功事例など、今後の活動の力になる多くの「対話と学びあい」の実践の場として成功した。「参加者の意欲が全然違う」「熱いパワーが集って希望になった」など手法を学び合うだけでなくエネルギーを高め合う集会となった。

・「現場発！こうすればできる公務非正規のなかまづくり～組織化の処方箋～」分科会

レバカレ2025二日目のプログラムに、3つの組織とともに、「現場発！こうすればできる公務非正規のなかまづくり～組織化の処方箋～」の企画を持ち込んだ。参加団体は、当初の3団体（愛労連・東京公務公共一般労組・香川県労連）から、自治労連本部・自治労連愛知県本部・兵庫自治労連・自治労連新潟県事務所・建交労保育パート支部・首都圏青年ユニオンが加わり、バラエティーに富んだ9団体で分科会を運営した（①NPO働き方ASU-NETの川西玲子さん、ジャーナリストの竹信三恵子さんにも協力いただいた）。当日の分科会には、愛労連から西尾議長・竹内事務局長・佐賀事務局次長の3人が（自家用車に乗り合わせ、日帰りで）参加し、愛知からは自治労連愛知県本部から1名が会場参加した。全体では、延べ53名が参加する規模となり、参加者からは「"共感"を感じる内容だった」との発言もあった。今後、獲得目標の達成度などについては、運営に関わった団体とともにまとめる予定。なお、分科会動画については、登壇者のチェックを経た後、10月19日を目標にYouTubeにて配信を予定している。

■国民救援会定期大会

10月12日

若井副議長が参加し、愛労連を代表して連帯のあいさつを行った。

■はたらく女性集会inあいち 愛知実行委員打合せ

10月14日

11月に開催される「はたらく女性の中央集会inあいち」の事前打ち合わせをオンラインとリアルで開催し、集会の要員や当日の運営についてなどを話した。

■Ai四役会議

10月14日

8人が参加した。財政問題の確認とともに春闘討論集会の持ち方について議論した。

■はたらく女性の中央集会in愛知実行委員会

10月14日

11月に開催される「はたらく女性の中央集会inあいち」の事前打ち合わせをオンラインとリアルで開催し、集会の要員や当日の運営についてなどを話した。

■西三河労連定期総会

10月14日

愛労連から連帯のメッセージを送付した。

■中川地域センター大会

10月14日

愛労連から連帯のメッセージを送付した。

■自治労連名古屋ブロック決起集会

10月15日

名古屋市役所前で、自治労連名古屋ブロック協議会（名古屋市職員労働組合、名古屋水道労働組合、名古屋港管理組合労働組合、名古屋市役所関連労組）が主催する「正規も非正規も賃金アップ、人員増を求める本庁舎前決起集会」が開催され、昨年を上回る850人が参加した。愛労連の西尾議長が「すべての仲間が、人間らしく働き、誇りを持って生きられる社会へ！人事院勧告を超える本場の賃上げと増員を。みんなの力で勝ち取りましょう」と力強い連帯のあいさつした。リレートークでは、市職労環境局支部の江崎飛鳥さん、名水労の伊藤禎章さん、港職労の脇坂宗勝さん、市職労教事支部の永井優子さん、市職労福祉支部の新家健司さん、市職労現業評議会の新矢加代子さんが発言。永井さんは（会計年度任用職員）、「小中学校で学校司書をしている。9年目になる。1人で最大4校を掛け持ちし、週1回・4時間しか行けない学校もある。タブレットもロッカーもなく、職員名簿に名前がないこともある。入学式、始業式にも呼ばれない。経験を積んでも5年ごとに公募試験を受け直す不安がある。安心して子どもたちと向き合いたい」とアピールした。閉会あいさつを自治労連名古屋ブロック議長の田原篤志さん（名水労：写真左の青いシャツ）が行い、団結がんばろうが、夜空に響いた。

■A i 第3回ケア労働者対策会議

10月16日

ケア労働者大幅賃上げアクション。報酬改定を待たず、公定価格10%引き上げを求める具体的方策の検討を行った。①陳情については、「医療」、「介護・障害福祉」、「保育・学童保育」の3つの陳情を自治体キャラバンの時に提出することにした。②11月6日地域総行動のビラまきの配置について、組合員に参加要請を行う。地域での行動については、名北労連の熊谷さんも気にかけており、関係単産と相談の場を持つ。③春闘アンケートの愛知分のデータを中央から取り寄せ、何らかの形で生かしていく。④愛知県知事要請を昨年1月末に行ったが、最低賃金との関連も含め、県知事要請を再検討（時期は要検討）。その他、記者会見では「過去最低」などのインパクトがある言葉が効果的とレバカレで東海林さんより。次回会議日程は、調整さんにて決定。

参加：生協労連、自治労連、医労連2、福保労2、建交労、愛労連2の9名が参加。

幹事：自治労連 高木、医労連 近藤、福保労 薄

■社会的な賃金闘争対策委員会

10月16日

9人参加。「フルタイム労働者の賃金の平均値・中央値に占める最低賃金の割合、国際比較」を浅生さん講師にミニ学習。10.18の最賃宣伝の確認と地域でのとりくみ、愛労連署名の素案提起で議論（次回で再提案）、最低賃金生活体験（26年2月）の日程（12.7の春闘討論集会で要綱提案）、国会議員要請行動（26年1月15と16日を予定）、最低生計費試算調査合意形成会議は4月の物価指数などを受け、26年5月か6月の20時～20時45分）。

第4回は11月20日（木）13時30分から福祉保育労会議室。

■消費者大会実行委

10月16日

6名参加。第56回大会の今後のとりくみについて検討した。今後のとりくみについてテーマや方法、開催時期などについて話し合った。消費生活フェアで掲示するパネルを作成した。今後は、米問題、ノーベル平和賞受賞報告、減災館見学、原発問題、PFOS問題などを検討中。参加が呼びかけられた。

11月8日（土）15：00～16：30 @大学生協会館会議室

「被団協のノーベル平和賞受賞報告」

講師 大村義則さん（被爆二世、愛知県原水協）

11月15日（土）10：30～16：00 @オアシス21

■愛知共済会事務局会議

10月16日

共済会事務所でおこなわれ、参加者はきずな、JMITU、建交労、愛労連、事務局から計7人。
①この間の共済の加入増減、給付実績、この間のとりくみについて確認した。②10月12日に予定していたハゼ釣り大会が天候不良により中止となったため、11月22日の共済学校修了後に交流会をおこなうこととした。また、共済学校の内容についても協議した。

■日本平和大会実行委員会

10月16日

13人参加。中央からの報告、全体会、フィールドワーク、つどい、分科会、閉会集会、デモ行進など、最終確認。要員マニュアル確認。12月1日（月）に総括実行委員会を行う。

■Ai新聞編集委員会

10月16日

オンラインで4人が参加。11月10日号の企画打合せをおこなった。
次回委員会 11月7日（金）19:00～ @オンライン

■Ai青年協代表委員会

10月17日

労働会館本館とリモートを併用しておこない、参加者は自治労連2、医労連3、東海法労、建交労、検数労連、国公、青年協2、事務局の計13人。①第36回定期総会にむけて議案(案)、総会代議員定数、総会役員分担、次期役員定数、35周年企画の実施など提案して採択された。②討論で、自治労連2、検数労連、東海法労などからそれぞれの活動について発言があった。

■改定最低賃金周知と1500円めざす宣伝

10月18日

20人が参加（きずな2、検数労連2、国公2、愛高教2、愛教労1、自治労連1、福祉保育労1、建交労1、医労連1、障害者組合1、名北1、千種名東1、西三河1、愛労連事務局3）、単産からピーチ、63円上がり1140円のビラ927枚（テッシュ入れ）配布、横断幕1500円、プラスター（労働局・全労連）。

シールアンケートは「1140円知っているか」＝知っている24・知らない24、「時給制のみなさん、最賃引き上げ希望額」1140円：1、1300円：10、1500円：23、1800円：4、2000円：4、それ以上：8、「月給制のみなさん、賃上げ希望は」1万円：1、2万円：3、3万円：6、4万円：1、5万円以上：24。

中日新聞、しんぶん赤旗、愛知民報が取材した。

■健康センター東海セミナーinあいち

10月18日

第9回健康で働くための東海セミナーinあいちが労働会館（オンライン併用）で開催され、愛労連事務局・愛知県医労連・福祉保育労・名古屋市職労が参加した。各県報告では単産のとりくみを福祉保育労の薄書記長が報告。高市発言や首相による労働時間規制緩和にむけた厚労大臣への指示が報道されるもと、過労死防止啓発月間を前にしたプログラム「いのちより大切な仕事などない！佐戸恵美子さんと"過労死"を考えるトークセッション」では、佐賀事務局次長が司会を務め、岐阜県労連平野事務局長・東海労働弁護団田巻紘子弁護士と過労死をなくすために労働組合に求められる役割と責任について議論が交わされた。労働者のいのちと健康に関わる重要な局面でのセミナーの様子は、しんぶん赤旗1面で取り上げられたが、残念ながら労働組合からの参加が低調だったことが悔やまれる。

■尾東労連定期大会

10月18日

西尾議長が参加し、愛労連を代表して連帯のあいさつを行った。

■全国法律関連労働組合協議会定期大会**10月18日**

西尾議長が参加し、愛労連を代表して連帯のあいさつを行った。

■日本平和大会「ピースシャウト2025」打ち合わせ&作業**10月18日**

労働会館東館5階でおこなわれ、参加者は5人。ピースシャウトの内容・次第などの協議と備品の作成をおこなった。

■東海法労定期大会**10月19日**

寺田副議長が参加し、愛労連を代表して連帯のあいさつを行った。

■消費者大会講座「食料に飢える日本」**10月19日**

ウインクあいちにて開催。35人が参加した。東京大学大学院 鈴木宣弘名誉教授の講演「私たちの食料、これからは・・・～突然消えた主食のコメ～食料に飢える日本を想像できますか？」を聞いた。自動車などの輸出を伸ばすために農業を犠牲にする短絡的な政策がとられてきた、不測の事態に国民の命を守るのが「国防」なら、地域農業を守ることこそが安全保障、トマホークやオスプレイとコオロギをかじって生き延びることはできない、などが訴えられた。その他にも種、除草剤、ゲノム食品、他国の状況、農業政策などが話された。

■あいち総がかり行動宣伝（金山・名駅・栄）**10月19日**

金山・名古屋駅・栄の三カ所で宣伝を実施した。金山総合駅には19人が参加し、130枚のビラを配布した。平日とは雰囲気の違い、

■はたらく女性の中央集会実行委員会**10月20日**

愛知の会場と全労連会場、各実行委員をオンラインにてつないで開催。11月に開催される「はたらく女性の中央集会in愛知」について、要員の割り振りや発言者、基調報告内容について話合った。

はたらく女性の中央集会in愛知 11月29日（土）～30日（日）

1日目分科会 労働会館、2日目全大会 ウィルあいちホール

次回実行委員会 11月17日（月）18：30～ @オンライン

■被爆80年平和のつどい実行委**10月20日**

戦後・被爆80年あいち平和のつどい後の総括をおこなった。のべ2000人を超える参加で大きく成功をすることができたことが報告された。午前の偲ぶつどいには400人が参列。午後の文化企画には1000人、各階の展示などに800人。23団体、15個人が実行委員会に参加、10回の実行委員会、8回の事務局会議をおこない1年以上をかけて準備をした。広く賛助金を呼びかけ賛同を得た結果、現在収支清算中で確定はしていないが、余剰金が多少出る予想であり、残金は被爆者募金として寄付の予定。

■革新市政の会定期総会**10月21日**

27団体・5地域から50人が参加した。総会では、昨年の市長選挙を含めた総括と今後のとりくみ、役員体制について確認した。冒頭、共産党の岡田市議から市政をめぐる情勢と広沢姿勢について報告された。発言では14団体から発言が相次いだ。

また、革新県政の会・革新愛知の会と3団体合同の新春のつどいを1月10日（土）17：30から開催することも確認した。

■原水協財政委員会**10月21日**

5人が参加した。第3四半期までの執行状況について報告がされ、概ね順調な執行であることを

確認した。定期総会に向けて、決算および次年度予算について次回の委員会で検討・確認することとした。

■愛労委公正任命を求める宣伝

10月22日

愛知県労働委員会を再生するための団体・個人署名のとりくみが始まるなか、8時から県庁前で宣伝行動を実施した。ふれあいユニオンからの参加を含め12人の参加があり、359枚のビラを配布した。

■全労連東海北陸ブロック第3回幹事会

10月23日

冒頭の1時間は全労連の黒澤事務局長も参加し、「対話と学びあい」集中期間の説明と議論を行った。会議では、レバカレの振り返り、ブロック総会の具体化、次期役員体制について確認した。

■クール・クライメートあいち事務局会議

10月23日

7人が参加した。11月16日に開催する総会の準備と段取りについて確認した。次年度は、若者気候訴訟の支援とともに、碧南&武豊発電所見学ツアー&レクリエーション企画、文科省の学校断熱のレクチャーなどにとりくんでいく。

■A i 組織拡大推進委員会

10月23日

秋の組織拡大実践 学習交流集会パート2、「労働組合は家族です～対話が仲間の輪を強くする～」講師：全医労豊橋・石川淳子さんの講演を聞いて学んだ。

石川さんは、結婚・出産を機に一度退職したが、39歳で外来パート看護師として再び看護現場の現場に立った。人手不足の厳しい職場で働く中、若い看護師たちが次々と辞めていく現実を見て、「現場の声を届けたい」という思いから労働組合活動に参加。

「看護師のことを看護師が言わなくてどうする」と勇気を出して発言し、現場の意見をまとめて病院側に申し入れた結果、新人採用が実現するなど労働環境の改善につながった。

二つの病院統合後には、職員のつながりを取り戻すため、組合員名簿を作成し、組合員を黒字、非組合員を赤字で示して誰がどこにいるかを可視化。日々、エレベーターや廊下で声をかけ、名前を呼び、気軽な対話を積み重ねる中で、信頼関係を築き、非組合員にも仲間として声をかけて組合加入を呼びかけた。その結果、組合員は年々増加し、組織拡大を大きく前進させた。

しかし、組合を嫌う師長らの脱退工作により20名の集団脱退が起こった。脱退を防ぐためにも、医労連共済の普及にも尽力し、非常勤・委託・派遣職員にも加入を広げ、雇用形態を越えた「仲間づくり」を実現。対話を通じて生活の悩みや職場の困りごとに寄り添い、共済を通じて安心を届けた。コロナ禍でも個々とながかり、LINEや電話で励まし合い、一人ぼっちを防いだ。

石川さんは「組合は家族。仲間を思い、支え合う場所」と語る。名簿づくりと日常の声かけ、署名や共済活動を通じて築いた信頼と対話の輪を広げ、組織拡大の大きな原動力となっている。石川さんの実践は、まさに労働組合の原点である「一人を大切にすること」そのものであり、仲間とともに歩む組合活動の姿が示された。

参加した若手の全医労豊橋の組合員は、「石川さんのようにはなかなかできないけれど、労働組合は大切。署名をすすめることはできる」と国立病院を守る署名に奮闘していることが報告された。

■港地区労定期大会

10月24日

竹内事務局長が参加し、愛労連を代表して連帯の挨拶をした。

■全労連最賃スタート集会

10月24日

完全オンラインで開催され、全国から150人が参加した。全労連の黒澤事務局長が今年度の引き上げ結果やとりくみを振り返りつつ来年の改定に向けた運動を提起した。秋田をはじめ発効を遅らせる審議会が出たことを重く見て、全国一律制をさらに強く求めていくことを提起した。特別報

告では、愛労連の竹内事務局長が全国で初めて最低生計費を審議会の資料として採用させたとりくみについて報告した。

■非核・平和愛知県・名古屋市要請

10月24日

2025年度予算編成に向けて、非核・平和の願いの実現を求めて、愛知県と名古屋市への要請を行った。要請は、25年目。愛知県には愛労連西尾議長が4団体を代表してあいさつを行い、自治労連長坂副院長、名古屋市職労磯村委員長、長谷川副委員長、長谷川書記次長、名古屋市へは愛労連西尾議長磯村委員長、長谷川副委員長が参加をした。

■日本平和大会in愛知

10月25-26日

名古屋市民会館をメイン会場に開催された「2025年日本平和大会in愛知」。24日のフィールドワーク210人。25日の開会集会1000人（写真上）、つどい725人、青年のつどい「ピースシャウト」45人、うたごえ交流会103人。26日の分科会495人、閉会集会・パレード500人（写真上から2番目・若宮広場～大須）で、延べ3000人以上が参加しました。

開会集会のリレートークで愛労連の西尾議長は「祖父が戦争で出征し2人の子を残して戦死。戦争は家族を引き裂き命を奪うもの。誰かがどこかでやっているのではなく、私たち1人ひとりにかかわる身近な問題」と話した。

■日本平和大会青年のつどい「ピースシャウト2025」

10月25日

労働会館本館で開催され、参加者は40人超。愛労連関係では自治労連、医労連、愛高教、検数労連から参加があった。参加団体が出題する天才クイズ、団体交流、平和についてシャウトしたいことでのパネル作成などおこなった。つどいの最後には翌日のパレードでおこなうコールの練習もおこなわれた。翌日の閉会集会でもつどいの様子の報告や作成されたパネルも披露された。

■福祉予算削るな！県民集会

10月26日

若宮広場でおこなわれ、参加者は500人。集会では保育、生活保護裁判、学童保育、学校給食などの分野からのリレートーク、集会宣言案の提案・採択などおこなわれた。集会後は若宮広場から栄えスカイル前までパレードがおこなわれた。

■安保破棄実行委員会常任幹事会

10月27日

5人参加。平和大会の感想など。情勢討議（新内閣、自民維新の12項目の内容）。「殺傷武器輸出反対署名」の推進。ブックレット（戦争準備へ変貌する米軍・自衛隊基地＝500円）の普及。「辺野古新基地工事中止・名護市長選勝利」沖縄行動への参加＝11月28日～30日、愛知から2名派遣。12月12日（金）18時30分から労働会館本館で名護市長選勝利のつどいを行う。

■社保協理事会

10月27日

保険医協会伏見会議室でおこなわれ、参加者は自治労連、年金者組合、国公、名古屋市職労、保険医協会、民医連などからリモート含め18人。①この秋とりくまれている署名について確認した。②介護、健康保険証存続、国保改善、高額医療費改悪反対、後期高齢者医療・年金・補聴器、生活保護裁判などについて、この間の情勢や今後のとりくみの確認をおこなった。年金一揆はブロックごとにおこなわれ、今後西三河ブロックが碧南市内で11月にとりくまれる。③秋の自治体キャラバンについて、特徴的な事柄の報告、愛知県・名古屋市の参加者確認などおこなわれた。

■全国一般アクリル支援共闘

10月28日

12人が参加した。内容については分かっていないが、10月21日の労働委員会総会で、アクリル事件の命令が確定した報告された。命令がいつ出されるのかまだわからないが、いづれにしても命令が出れば再審査請求で中労委に上がっていく訳であり、全労連争議支援総行動など計画して

いる取り組みをしっかりと行っていくことが大切であることを確認した。

今回は、12月23日(火)18:30からオンライン。

■A i 青年協幹事会

10月28日

リモートでおこない、参加者は医労連2、建交労、愛労連の計4人。①10月17日に開催された代表委員会と日本平和大会について、振り返りをおこなった。②12月21日に予定していた秋のとりくみについて、日程を2月に返納することとした。③第36回定期総会について、総会役員の変更や次第、役割分担などを協議した。来期役員体制についても協議し、組織数を増やすためオルグなどおこなっていくことを確認した。④「青年協ニュース」について第2～3号の内容を確認し、修正案など協議した。⑤学習協と愛労連が共催する労働学校「学びの森」について、青年協役員が受講することとした。⑥次会幹事会の日程を11月20日と決めた。

■愛自交定期大会

10月29日

西尾議長が参加し、愛労連を代表して連帯のあいさつを行った。

■愛知共済会理事会

10月29日

労働会館東館409でおこなわれ、参加者は自治労連、JMITU、きずな、愛労連、事務局から計8人。①この間の活動について、共済の増減、給付の実績など報告され確認した。②秋の共済拡大月間の各組織のとりくみが報告された。③11月22日の共済学校について、全労連共済の新テキストに沿った内容で学習することを確認した。④共済会ニュースの内容・発行時期について協議した。

■A i 第6回臨時幹事会

10月30日

財政問題に絞った臨時幹事会を開催し、当面の対処方針について確認した。

■瑞穂区労連定期大会

10月30日

高田幹事が参加し、愛労連を代表して連帯のあいさつを行った。

■名労連設立事務局会議

10月31日

8人が参加した。名労連加盟に向けた討議状況を見つ、個別対応が必要な組織について確認し、連絡を取っていくこととした。役員選考について議論を開始する予定だったが、時間足らずとなり次回かが議論を開始することとした。

■愛高教10.31県庁前街宣

10月31日

9月24日に続いて、雨の中愛高教が準備した雨合羽を着て2回目の県庁前宣伝が行われた。愛労連の仲間30名を含めた約100名が参加をし、次々とマイクを握りリレートークを行った。「主務教諭設置をするな、義務特手当を引き下げるな・みんなに払え、義務特手当給料の調整学減らすな、先生ふやせ、教員評価制度・賃金リンクするな、希望と承諾の・人事異動を守れ」とレスポンスコールを行った。

参加：愛高教寺田副議長、松本幹事他約70名。愛労連＝愛知国公8名、自治労連2名、医労連1名、名古屋市職労3名、愛教労8名、地域労組きずな1名、愛労連3名
役員：西尾、柴田、寺田、竹内、磯村、高木、高田、松本

■中村地域センター定期大会

10月31日

佐賀事務局次長が参加し、愛労連を代表して連帯のあいさつを行った。

■建交労保育パート支部大会

11月2日

佐賀事務局次長が参加し、愛労連を代表して連帯のあいさつを行った。

■あいち九条の会・県民のつどい

11月3日

毎年恒例の「県民のつどい」が名古屋市公会堂で開催された。今年度のつどいは、戦後・被爆80年を踏まえた一連の平和のとりくみの一つとして位置づけた。集会の成功に向けて、各単産に要員派遣を依頼し、年金者組合7名、自治労連2名、愛知国公1名、愛高教1名、愛知県医労連2名、全国一般1名、JMITU1名が運営にあたった。参加者の高齢化が一層すすんでいること、平和のとりくみが連続したことも影響してか、各単産からの労働者（現役世代）の参加者の減少傾向が顕著にみられた。

■あいち総がかり行動運営委員会

11月4日

11月19日の集会及び、11月24日に開催するデモ行進申請有料化問題学習会への

■労働法制改悪反対学習会

11月5日

愛知・労働法制改悪反対実行委員会の主催で"ワーク・ライフ・バランス"が危ない！STOP!労基法解体オンライン学習会がオンラインで開催された。高市首相が就任早々に「労働時間規制の緩和」に向けた検討を厚生労働大臣に指示するもと、樽井直樹弁護士（東海労働弁護団幹事長）が、直近の厚労省「労政審」の議論状況や昨年末に公表された「労基研報告」に潜む問題点をひも解きつつ、労基法解体の危うさを指摘した。

■2025秋季年末闘争秋の地域総行動

11月6日

県内約90カ所での宣伝校を実施。ピラはケア労働者の大幅賃上げを中心にしたもので配布した。

■原水協69宣伝行動

11月6日

愛労連、愛知国公、県平和委員会、愛知のうたごえ協議会、愛商連、県原水協事務局から、7人が参加。リレートークのなかで、軍拡を進める高市内閣への批判を述べながら、核兵器で平和は守れない、核兵器を無くしていくことこそ、平和が守れると訴えた。

■秋の自治体キャラバン名古屋市交渉

11月6日

約40人が参加した。介護と国保問題を重点に行い要請をおこなった。

■天白地域センター定期大会

11月6日

西尾議長が参加し、愛労連を代表して連帯のあいさつを行った。

■社保協四役会議

11月6日

労働会館東館403でおこなわれ、参加者は8人。①次回理事会にむけての各分野のとりくみについて確認した。②秋の自治体キャラバンの名古屋市と愛知県との交渉について、参加者の確認をおこなった。名古屋市との交渉については発言者などの確認もおこなった。

■みなと医療生協労組スト

11月6日

支援を含めて12人が参加。協立病院前でのアピール行動を行った後、東海道通りまで寝る歩きを行った。支援には、愛高教・生協労連・港地区労・年金者組合・医労連・愛労連が駆けつけた。東海テレビが取材した。

■名南会労組スト

11月6日

支援を含めて16人が参加した。名南病院前でアピール行動を行った。支援には、愛高教・生協労連・港地区労・医労連・愛労連が駆けつけた。東海テレビが取材した。

■A i 新聞編集委員会

11月7日

オンラインで4人が参加。12月10日号の企画打合せをおこなった。

次回委員会 12月4日(木) 19:00～ @オンライン

■憲法と平和を守る街宣A

11月8日

名古屋市中区栄でおこなわれ、参加者は年金者組合、名中センターなど計6人。軍拡ではなく、憲法の理念の実現へ税金は使われるべきなどと訴えた。

■消費者大会講座「ノーベル平和賞受賞報告」

11月8日

大学生協東海会館にて開催。大学生協の学生を中心に40人以上が参加した。日本被団協被爆二世委員会委員の大村義則さんの講演「今日の聞き手は、明日の語り部、～ノーベル平和賞受賞報告と平和を語り継ぐ想い～」を聞いた。世界情勢が危機的な今こそ世界を正しい方向へ押し戻すとき、草の根の平和運動と平和を語り継ぐことが大切、などが話された。学生からは「草の根の平和運動」だと難しそうに思えるかもだが、「みんなでよりよい社会を作っていく」と考えると大学生協の考えと同じで身近に感じられるのでは、などの感想が出されていた。

■第71回愛知母親大会

11月9日

東別院会館にて開催。午前中は8分科会、3見学分科会が開催された。午後は、オープニングの県立名古屋西高等学校津軽三味線部による演奏で、若い世代の素晴らしい演奏に盛り上がった。開会宣言、議長、主催者、来賓挨拶後は、表明玉弁護士講演「ジェンダー平等の実現をめざして」を聞いた。女性協も田巻紘子弁護士のジェンダー問題についての分科会を担当。各団体からの活動交流では、建交労保育パート支部が会計年度職員の雇い止め問題について訴えをおこない、発言途中で運動への激励の拍手が出るなど共感を得られた。会場とオンラインあわせてのべ600人以上が参加した熱気溢れる大会となった。

■愛労委公正任命を求める要請・宣伝

11月10日

7人(愛労連2、医労連、自治労連、JMITU、ふれあい、愛知争議団)で要請をおこなった。労働委員会に申し立てた事件で起こってきたことなど、具体的な事例を示して知事の公明正大な任命を求めた。県側は労働福祉課の担当課長他2名が対応した。

要請終了後には県庁前で宣伝を行った。

■A i 四役会議

11月11日

8人が参加した。財政問題及び春闘にむけての議論を行った。

■JMITUオハラ分会愛労委審問

11月11日

県庁西庁舎でおこなわれ、JMITU側の参加者は12人。審問終了前の最終確認がおこなわれた。審問終了後にはまとめの小集会がおこなわれ、これまでの審問の振り返りに加え、今後予想される中労委でのたたかいについても言及された。

■第104回栄総行動

11月12日

オアシス21の地上部分でおこなわれた。参加者は約50人。各争議からの訴え、集会決議文の提案・採択などおこなわれた。

■全労連第12回幹事会

11月12-13日

2026国民春闘方針1次案や春闘討論集会から年始の春闘序盤のとりくみについて議論し確認した。当面のとりくみについては、最賃闘争、労働法制闘争、ケア労働者の大幅賃上げアクション、

「対話と学びあい集中期間」の進捗や今後のたたかいについて具体化した。レバカレの総括については、参加者にはとても好評であり、この機運を今後の運動につなげ継続できるように単産や地方のとりくみが重要であることを確認した。

■秋の自治体キャラバン県交渉

11月13日

愛知県白壁庁舎でおこなわれ、キャラバン側参加者は約35人。キャラバンの要請項目にそって、介護、国保、生活保護、子ども子育て支援、予防接種、地域医療などについて、県の考えを聞くとともに要望を伝えた。県側からは前向きな回答が得られなかったとの評価。

■オンライン労働学校「学びの森」

11月13日

129期労働学校「学びの森」教室第1回を労働会館会議室で開催した。全体テーマは「ひろがる視野 ぶれない『ものさし』」。全6回で月2回木曜日19時～。第1回は、「ものの見方・考え方（1）一事実から出発する」生活がくるしいのは自己責任？それとも外国人のせい？と題し、岡山県学習協事務局長の長久啓太さんから話を聞いた。講義のあとは分散感想交流をおこなった。愛労連も共催し、青年活動の強化にと声を掛け、検数労連や青年協から参加があった。

■共済会事務局会議

11月13日

共済会事務所でおこなわれ、参加者はJMITU、建交労、きずな、愛労連、事務局から計7人。①この間の共催の増減、給付実績、とりくみ状況など確認した。②秋の拡大月間について、各組合の学習会・講習会の報告や今後の計画について協議した。また、おうちの安心共催の特約キャンペーンの押し出しについて確認した。③11月22日の共催学校について、内容など協議した。

■全労連東海北陸ブロック第4回幹事会

11月14日

12月13日～14日に開催するブロック総会の運営や分担について確認した。総会に提案する議案のうち運動方針について議論し概ね確認した。また、役員人事についても幹事会としての考え方を確認した。

■過労死等防止等防止対策推進シンポジウム

11月14日

過労死等防止対策推進シンポジウムが中小企業振興会館メインホールにて開催された。愛知労働局から「ハラスメント防止対策等について」報告が行われ、基調講演として「雇用社会に蔓延するハラスメントの背景に迫る～新聞記者の視点から～」と題して東海林智氏（毎日新聞社会部記者）が講演を行われた。東海林智氏は、取材経験を通して見えてきた過労死・過労自死やハラスメントの深層を語った。法律整備が進んでも被害は減らず、特に非正規や弱い立場の人ほど標的になりやすい現状を指摘。派遣社員のセクハラ、不動産営業のノルマ・パワハラ、コロナ下で困窮したシングルマザーなど、多くの事例から労働者の分断と貧困がハラスメントの温床になっていると述べた。

企業や行政は過ちを認めず、謝罪が再発防止の出発点だと強調。過労死遺族の苦しみを伝え続けることが社会を変える力になるとし、関心を持ち続ける重要性を訴えた。その後「企業からの取り組み事例発表」笑顔で働ける会社を目指して春日井製菓株式会社 総務管理部人事課 佐藤愛氏がお話しされた。佐藤氏は、制度周知や復帰前面談で不安を軽減し、時短勤務の工夫で周囲の負担も抑えつつ、子育てしながら笑顔で働ける職場づくりを進めていることが話された。

過労死遺族の声として、兵庫から遺族が訴えた。小売業でバイヤー兼販売員として長時間労働やサービス残業を強いられた夫は、30歳で突然死した。生後5ヶ月の子を抱えた妻は深い喪失感と経済的困難の中、労災認定に9年半かけて闘った。今も再現夢に苦しむが、「過労死は他人事ではない」と訴え、十分な睡眠と人間らしい働き方の大切さ、二度と遺族を生まない社会の実現を強く望んでいると声を上げた。

東海林氏の講演に対して質疑応答では、労働者の分断を防ぐには労働組合による包摂と発言の場づくりが重要とされた。ハラスメント加害者は異動させるべきと指摘され、怒りに任せないためのア

ンガーコントロール教育の必要性も示された。過労死遺族への後悔には、苦しむ人を支える活動への参加が励ましになると回答。立証の難しさには、メール保存や医療機関受診など証拠確保が鍵とされた。高市首相の発言は悪いメッセージとして批判され、教員の過重労働改善には安全衛生委員会の実効性強化が重要とされた。過労死相談に取り組まない労組は裏切りであり、責任ある対応が求められると強調された。

■第28回パート・臨時・非常勤などの元気が出る集会 11月16日

愛労連パ臨連が主催する「第28回元気が出る集会」が労働会館で開催された。昨年度は「あいち非正規公務員オータムミーティング」との協働開催としたため2年ぶりの集会となった。今集会ではNHKスペシャル「未完のバトン」に関わり愛労連（建交労保育パート支部）を取材されたフリーディレクターの吉峯美和さんを招き、これまで製作に携わられた女性運動や非正規のたたかいに関する「映像」を見ながら、参加者との「対話」形式を模索する新たな講演の講演となった。「しゃべり場」形式のグループ討論も話が尽きず、いずれも「対話と学びあい」を実践する絶好の機会となった。参加者は会場：31名（吉峯さん含む）、Zoom：5名、合わせて36名が参加した。

■クール・クライメートあいち第2回総会 11月16日

会場とオンラインを合わせて20人が参加した。2023年11月の結成から2年が経過してしまっただ、この間のとりくみをまとめるとともに今後のとりくみとして、引き続き若者気候訴訟の支援とともに学校断熱や再エネ推進、碧南&武豊火力発電所見学、気候変動関連の学習や情報発信をすすめていくことを確認した。

若者気候訴訟弁護団の藤川誠二弁護士から裁判の現状報告、世話人の河村公隆北海道が医学名誉教授から「碧南火力発電のアンモニア混焼による大気汚染・健康被害への懸念」についてミニ学習が行われた。

■全労連東海北陸ブロック会計監査 11月16日

古池会計監査が愛労連事務室を訪れ、監査を実施した結果、正確に処理されていることが確認された

■はたらく女性の中央集会in愛知実行委員会 11月17日

全労連会場、各実行委員をオンラインにてつないで開催。11月に開催される「はたらく女性の中央集会in愛知」について、アピールや基調報告内容、当日の流れなどについて話し合った。

はたらく女性の中央集会in愛知 11月29日（土）～30日（日）

1日目分科会 労働会館、2日目全大会 ウイルあいちホール

次回実行委員会 11月28日（金）17：30～ @労働会館

■社保協理事会 11月17日

保険医協会伏見会議室でおこなわれ、参加者は年金者組合、福保労、国公、名古屋市職労、民医連、保険医協会など16人。①この秋の署名について確認した。②各分野の課題について、情勢や今後のとりくみなど確認した。

■Ai女性協幹事会 11月19日

各組織の活動報告後、とりくみの総括、今後のとりくみに話し合った。1月12日に開催予定の女性協新春のつどいについて、つどいの構成や講演の内容についてなどを話し会った。名古屋大学法学部教授の田村哲樹さんに

次回幹事会は、12月10日（水）19：00～ @愛労連応接室

■安保破棄実行委員会 11月19日

5人参加。11月15日の特定利用空港・港湾への抗議行動宣伝と申し入れ報告。各団体からの活動報告。情勢討議、大軍拡・高市発言などに対する運動について。長斜程ミサイル配備問題での一点共闘（3月7日、小牧で議論・調整）、辺野古新基地工事中止・名護市長選勝利 沖縄行動11月28日～30日に青山さん（愛知国公）が参加、その報告も含めて「名護市長選決起集会」を12月12日（金）の1830～2030まで労働会館本館で実施。

■9の日宣伝

11月19日

金山駅北口でおこない、参加者は愛知国公、平和委員会、共産党、愛労連の計5人。平和的な外交をと訴えた。学生も多く、ティッシュの受取が良かった。100個とチラシが配布できた。

■あいち総がかり行動11.19集会

11月19日

約200人が参加した。高市政権補足後、初めての集会になったことから、各分野から高市政権の危険性について、職場や地域など各現場の実態からの告発が続き、それがアメリカ追従と軍事強化につながっていることが明らかにされた。集会後、参加者は久屋大通と大津通をデモ行進した。

■春の自治体キャラバン実行委員会

11月20日

7人が参加した。昨年の結果をまとめたものの活用について議論したが結論は得られなかった。2026年のとりくみについて、日程について第1次案を持ち帰ることとした。県との懇談については、例年より遅らせ、市町村の結果を以て懇談する方向とした。

■社会的な賃金闘争対策委員会

11月20日

8名参加。全労連の最低賃金発効日の先送り・分散化是正を求めるとりくみ確認。愛労連署名の校正・記載確認（次回決定予定）、家計簿の項目内容議論（整理して12月3日の幹事会～12月7日春闘討論集会提案、国会議員要請（1月15日～16日）は今年中に事務所（東京）に郵送。次回委員会は12月24日（水）1500～福祉保育労。

■Ai 青年協幹事会

11月20日

リモートでおこない、参加者は医労連2、建交労、愛労連の計4人。第36回定期総会及び、青年協35周年記念企画の内容について協議した。①35周年記念企画では、首都圏青年ユニオン・尾林さんの講演のあとトークセッションをおこなうことを確認し、尾林さん、元全労連青年部部長、青年協役員とファシリテーターとして愛労連の佐賀事務局次長が参加する。②総会の議案・次第・総会宣言案を確認した。③来期の役員体制については医労連以外は見通しが立っていないが、引き続き各組織に役員の送り出しを訴えるとした。④愛労連や全労連青年部の今後のとりくみについて確認し、12月の東海北陸ブロック総会には澁谷幹事が参加する事を確認した。

■消費者大会実行委員会

11月20日

7名参加。第56回大会の今後のとりくみについて検討した。今後のとりくみについてテーマや方法、開催時期などについて話し合った。今後は、減災館見学、原発問題、PFOS問題などを検討中。参加が呼びかけられた。

12月3日（水）12：40～15：00 @名古屋大学減災館

「気候危機で～増える災害、防災／減災～減災館見学」

ギャラリートークは「戦争と地震－80年目の真実」担当：竹村雅之教授

■核兵器禁止条約署名提出行動

11月21日

被団協・原水協・原水禁3者による「日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求める署名共同提出のつどい」が行われた。3者が一緒に署名を提出することは、歴史的にも画期的なこと。核兵器禁止条約への署名・批准を内閣総理大臣に求める累計344万9012筆の署名を外務省の審議

官に提出した。署名提出集会であいさつした被団協の田中熙巳代表委員は、政府の非核三原則の見直し検討に言及し、「見直しを軽々しく言う、非常に由々しきことだ。核兵器禁止条約の批准を求めることだけではなく、今の政府を何とかしなくてはいけない」と語った。また、「核兵器は兵器の名にも値しない悪魔の道具だ。日本政府はその抑止力に頼っている」と指摘。「悪魔の道具を使って国を守ろうとしていることを訴えて批准への世論を広げてほしい」と呼びかけた。

署名提出には全国各地の被爆者と被爆二世ら100人以上を含む311人が参加し、松本恭典外務省軍縮不拡散・科学部審議官に手渡した。長崎から駆け付けた被爆者の横山照子さんは「『核兵器のない世界をこの目で見て死にたい』と言いながら亡くなっていった人たちの姿がよみがえる。今この時期に核兵器禁止条約を批准してほしい。核兵器をなくさなければ地球が減じる。私たちは（破壊力の甚大さを）広島と長崎で経験している」と述べた。閉会あいさつは愛友会会長・被団協代表理事の金本さん。金本さんは、「今日参加したかった被爆者がいます、支援者がいます。全国にいます。天国にもいます。原爆許すまじを立てて歌って全国のみなさんに届けたい。政府が応えるまで何回でも行いたい。今日はそのスタートです。」と話し、『原爆許すまじ』を参加者で合唱。その後、国会前でも集会を開き、市民や労組組合員ら700人が「被爆者とともに」と書かれたプラカードを掲げて参加した。被団協の濱住治郎事務局長は7月に発表した、原水協、原水禁との3者による共同アピールに触れ、「その流れが今回の集会にも続いている。大変うれしい」と発言。核兵器禁止条約への速やかな批准の決断を政府に迫ろう、と訴えた。愛知からは27名が参加した。内労働組合からは10名。内訳は福祉保育労2、自治労連1、名古屋市職労2、金融ユニオン1、東海法労1、知多労連1、事務局2。

■金融ユニオン名労連オルグ

11月22日

会議に竹内事務局長が参加し、名労連結成の目的と意義、この間の議論の経過について報告し結果を訴えた。名労連に参加していくことを確認した。

■愛知共済会共済学校

11月22日

労働会館本館でおこなわれ、参加者はJMITU、建交労、タクシー協議会、きずな、全国一般などから計27人。①今年度改定された全労連共済テキストに沿って、共済の理念や制度・手続きについて説明を受けた。②実務研修として、おうちの安心共済について、全労連共済ホームページをつかって見積もりなどおこなった。

共済学校修了後には労働会館東館5階ホールで懇親会がおこなわれた。

■名労連第3回単産地域代表者会議

11月23日

33人が参加した。綱領・規約・規則関係については労働委員会事務局から指摘された点について整合性をとることとした。また大会の委任状の扱いについては、代議員総数の2/3以上とし、その内出席代議員が半数以上が必要とすることにした。

■あいち総がかり行動デモ行進有料問題学習会

11月24日

約30人が参加した。自由法曹団の伊藤勤也幹事長からこの間と経過について報告された後、あいち総がかり行動共同代表の中谷雄二弁護士から「デモ行進申請の有料化は何が問題なのか？」をテーマに講演。その後、会場のフリートークで今後のとりくみについて意見を出し合った。

■伊賀市議会百上議員訪問

11月25日

伊賀市議会議員の百上まなさんがFacebookにて住民課の窓口業務を委託から直営に戻したとの報を知り、公共の再生を求める愛労連運動とまさにドンピシャなタイムリーで画期的であり事情を伺いに、伊賀市へと出向き、百上議員と懇談を行った。愛労連からは西尾議長、佐賀事務局次長、自治労連高木書記長、自治労連本部内田執行委員が参加した。伊賀市稲森市長が、委託費が経費削減になっていないこと、公共を再生する立場から、直営化へと動きだしたとのこと。担当職員も住

民の戸籍を守る重要な仕事であり直営で行うべきとの姿勢を持ち市長にも働きかけてきたとのこと。百上議員とは今後も情報交換ができる関係性ができた。百上議員が、新春学習会のトークセッションで公共をテーマにしたゲストスピーカーを引き受けてくださることとなった。また、滋賀県の甲賀市も今年10月から窓口業務を直営に戻したとのこと。「公共の再生」を求める運動を構築していく足がかりとなった。

■革新県政の会・県要請

11月26日

愛知県に対して予算要望書を提出し、これに基づいた懇談を3時間にわたっておこなった。参加は会から23人、県当局からは35人が参加した。愛労連からは公契約条例や最低賃金、労働委員会の公正任命などについて要望した。

■Ai女性協労働局要請

11月26日

女性協幹事など7名が参加。愛知県労働局側9名参加。「女性労働者が仕事と生活を両立させて男女平等にはたらし続けるための施策の拡充と指導の強化を求める要請書」を提出し、13項目の要請懇談を行った。愛知労働局職員増員依頼、長時間労働調査公表、有休休暇取得違反公表、妊娠婦への特別な配慮、男性育休取得促進、子の看護休暇について、ハラスメント防止対策強化、女性に多い非正規雇用労働者の労働条件向上、最賃審議会のあり方、県民の日ホリデーへの対策、学生への周知、健康診断について等要請。合計60分懇談を行い、女性労働者が直面している問題点などを話し合った。

■全労連・春闘共闘2026国民春闘討論集会

11月26-27日

全労連、国民春闘共闘委員会の26国民春闘討論集会をリアルとZoom参加で開催した。賃上げ要求を月額3万3000円（10%以上）、時間額250円（17%）以上を提起。圧倒的な職場で賃上げ交渉が行われていない現状を変えようと呼びかけが行われた。最低賃金要求は、従来の1500円から「今すぐ全国一律1700円以上、めざせ2000円」への引き上げが提起された。発言では、医労連から年末一時金回答が過去最低水準に落ち込み、厚生労働用の賃上げに関する調査でも15産業のうち医療・福祉分野が最低。ケア労働者には賃上げの実感がまったくない。人材の他産業流出が加速。診療・介護報酬の10%増を訴えた。自治労連からは、賃金制度改悪で能力・実績主義の強化で格差が拡大し、生計費が隅に迫りやられていると指摘。全国いっせい生計費調査を実施し、あるべき賃金水準を明らかにし、魅力ある公務を取り戻すと訴えた。全教は、給特法は残業代不支給制度を温存するもの、主務教諭は職場を分断するもの。給特法再改定、教職意に都教育予算増、主務教諭廃止などを求める署名を開始すると訴えた。検数労連からは港湾を兵站基地にさせない取り組みの中で問題が発生した場合に労使で学習会を早急に実施する協定書を日本運行協会と締結したと報告。愛労連からは西尾議長が、ケア労働者の大幅賃上げ報酬10%以上の改定を求める。ストライキを構え回答引き出し、記者会見など社会的なアピールを強化。最賃は生計費原則重視最賃1700円以上の提起に歓迎をしめす。トヨタ内部留保60兆円を社会に還元させる、軍拡予算増ではなく暮らし優先をと訴えた。

■秋の自治体キャラバン実行委員会

11月26日

労働会館本館でおこなわれ参加者は14人。2025年キャラバンの回答や運営上の特徴的なことなどの確認、今後のまとめの分担・スケジュールなど確認した。まとめたデータは愛知社保学校で公表されることとした。愛知社保学校は3月1日(土)に労働会館東館ホールで開催予定。

■憲法と平和を守る愛知の会世話人会

11月26日

8人参加。10月、11月の毎週土曜日の宣伝報告。1月10日の愛労連担当は翌週の17日に変更確認。各団体からの報告。愛労連はNEWSで秋季年末闘争、平和大会、過労死シンポの報告。情勢討議。次回は当初予定の12月24日を変更して12月17日（水）1600~愛知社会文化

センター（大須）

■A i 労働相談センター全体会議

11月27日

9人参加。冒頭、福祉保育労の西田書記次長から改正育児介護休業法のミニ学習会。新規相談：9月は53件、10月は48件で昨年ほぼ同様。相談内容の共有化討論。次回は1月26日（月）1300~403号室

■クール・クライメート愛知県懇談

11月27日

いっせい行動での懇談結果をもとに愛知県経産局水素社会実装推進課との懇談を持ち、課長以下2名が対応した。活発なコミュニケーションが取れたが、経産局なので脱炭素への貢献よりも産業のサポートがメインなスタンスだった。再エネの普及は環境局の管轄との立場だった。いっせい行動では両方にアピールできる貴重な場であり、来年は両方に関係する要望の出し方を工夫していく必要がある。

■あいち総がかり事務局会議

11月27日

6人が参加した。11月19日の集会の振り返りでは高市政権発足後の集会でもあり、各分野から高市政権の問題について告発された。デモ行進申請有料化問題について今後のとりくみを議論し、すでにある考える会と歩調を合わせて行くこととした。

■はたらく女性の中央集会in愛知実行委員会

11月28日

■クール・クライメートあいち事務局会議

11月28日

8人が参加した。経産局水素社会実装推進課との話し合いの振り返り、文科省の学校断熱のレクチャー、若者気候訴訟第5回期日の対応などについて議論し具体化した。第5回期日には付いては、抽選に外れた人のために動画上映することにした。

■はたらく女性の中央集会in愛知

11月29-30日

はたらく女性の中央集会が愛知での開催となり、1年間実行委員会での準備を重ねた。初日分科会の参加がオンライン含め約380人、2日目の全体会はオンライン含め340を超え、2日間でのべ合計700人を超える参加となった。分科会は、平和、CEDAW、非正規問題、地域活動についての4つで、各会ではグループ交流などもおこなわれた。見学分科会は、晴天の下、名古屋城と市政資料館の歴史を学んだ。

2日目の全体会は、文化行事として愛知教職員合唱団「きぼう」による「もしも名字が選べたら」などのオリジナルソングの合唱後、記念講演は、ハラスメント問題にとりくむ岡村晴美弁護士から「戦後80年、ジェンダー平等で暴力のない社会へ」～司法の現場から～と題した話を聞いた。学校など狭い世界で全体主義の秩序を学習させていることで、ブラック企業と呼ばれる職場を当たり前を感じる大衆が生み出されていることなどが話された。その他、ハラスメントやDV問題、共同親権の問題点なども訴えられた。その後、各団体からの訴えでは、愛知からは、教育、会計年度任用職員保育士、郵政非正規問題、子どもたちにもう1人保育士を、学童保育、医療問題が訴えられた。韓国民主労総の女性委員会が、この集会に賛同して来日しており、一緒に舞台上に上がり訴えをおこなった。アピールと決議案を採択し盛り上がる中集会を終えた。来年は石川で開催予定。

■憲法と平和を守る街宣A~C

11月29日

栄スカイル前でおこなわれ、参加者は年金者組合、愛教労、千種名東労連、名中センターなど計8人。軍事費を増やし武力で他国と争うのではなく、外交・話し合いで外国との問題は解決しようなど訴えた。

■A i 青年協35周年記念企画・総会

11月30日

結成35周年を記念し、労働会館東館ホールとリモートでトークセッションを開催し、参加者は青年協、建交労、自治労連、国公、生協労連、全労連青年部など計15人程度だった。

首都圏青年ユニオンの尾林哲矢さんの「若者のおかれた状況と首都圏青年ユニオン」という講演、講演後には佐賀事務局次長の進行で労働組合の次世代について考えた。

総会は、労働会館東館ホールとリモートで開催し、参加者はリモート含め17人。出席代議員は自治労連4、愛高教2、医労連、建交労2、検数労連2、東海法労。傍聴は国公、生協労連。代議員の欠席は福保労、全印総連、愛教労、港地区労。来賓として全労連青年部、愛労連が参加した。

議案提案では2025年度の活動総括、2026年度の運動方針の提案、財政報告、2026年度役員選挙がおこなわれた。役員選挙では新たな追加はなく、医労連からの2人（議長・澁谷成美、事務局長・川崎洋平）のみとなり、年度途中での補充めざしてとりくみを進めていく。

■韓国民主労総女性委員会とのランチミーティング

11月30日

はたらく女性の中央集会in愛知に参加するために来日していた、韓国民主労総女性委員会の6人と、集会後にランチミーティングを開催し、意見交換などの交流をおこなった。全労連女性部役員や愛知の女性役員などあわせて28人が参加し、食事を共にしながらなごやかに懇談、運動の課題や、各国の問題点、今後についてなどを話し合った。

■平和大会実行委員会

12月1日

10月25、26日に開催された「日本平和大会in 愛知」の総括実行委員会。15人参加。中央と愛知の実行委員会から開会集会、フィールドワーク、つどい、ピースシャウト、分科会、閉会集会、デモ行進、財政などの総括文にもとづき討論した。来年は横須賀で開催される。

■あいち総がかり行動運営委員会

12月1日

情勢討議では、高市首相の「台湾有事」発言、スパイ防止法、18兆3034億円規模の補正予算が28日に閣議決定されたことなどについて議論した。議題では、11月19日の集会振り返りで参加は約100人、ニュース12月号の内容、デモ行進の有料問題、12月19日（金）の一斉街宣、1月の企画などについて議論した。2月は総会を開催することとし屋外集会はやらないこととした。

■サマセミブロック実行委員会

12月2日

リモートでおこなわれ、参加者は静岡2、愛知2、石川2、福井の計7人。第32回サマーセミナーの振り返りや第33回以降のサマセミについて協議した。

①第32回サマセミについては、参加者からのアンケートなどを確認しながら③日間の振り返りをおこなった。おおむね楽しかったとの声だったが運営についてなどの改善点もだされた。②実行委員会のとりくみかたについては、各県での検討した案がブロック実行委員会に持ち寄られなかったことなど反省点が出された。③来年のサマセミは石川県内で開催されることを確認し、その翌年は福井での開催にむけて今後検討を進める。

■社保協四役会議

12月2日

労働会館東館403会議室でおこなわれ、参加者は医労連、年金者組合、保険医協会、民医連などから計8人。①各課題の情勢や今後の取り組みについて確認した。②年金裁判について、11月28日の解散集会の報告がされた。約100人が参加し、今後の課題を確認し、運動を続けることになった。③生保裁判について、11月30日にシンポジウムがおこなわれたが、今後12月9日に緊急院内集会がおこなわれる。④理事会・四役会議の日程を確認し、社保協総会についても日程・内容の確認をおこなった。次回総会では役員の改選となる。

■労働会館忘年会

12月2日

単一協議会（愛自交・JMITU・全国一般・医労連）が主催する労働会館忘年会が、サイプレスガーデンにて開催され66名が参加した。今年は生協労連が単一会館に入り、にぎやかになった。乾杯あいさつを竹内事務局長が務めた。参加は、労働組合からは事務局団体に加えて、年金者組合、生協労連、愛労連事務局4人が参加した（1名招待）。各団体報告や歌、マジックなどがあり親睦を深めた。

■2025秋の争議支援総行動

12月3日

佐賀事務局次長・煤本幹事（全国一般）＝日本アクリル争議・青木幹事（東三河労連）＝大王パッケージ争議が「全労連・東京地評の争議支援総行動」に参加した。いずれも本社前で当事者及び支援労組らが会社側に法律に基づく誠実な対応を行うように訴えた。

■消費者大会見学講座「名大減災館 見学会」

12月3日

気候危機で増える災害、防災を学ぶとして、名古屋大学減災館を見学した。ギャラリートークで、名古屋大学の竹村雅之教授から「戦争と地震～80年目の真実」を聞いた。当時の新聞報道から予想されること、地震について全国には報道されていないが、地元の新聞では救援や復興などを報道していたことなどが話された。

■A i 新聞編集委員会

12月4日

オンラインで4人が参加。1月10日号の企画打合せをおこなった。
次回委員会は調整中

■日本平和大会ピースシャウト総括会議

12月5日

リモートでおこなわれ参加者は5人。①ピースシャウト当日の良かった点、もう一つだった点など協議した。②ピースシャウト2025のミーティングのこれまでにについて確認した。また、今回のつながりを今後のとりくみに活かしたいと要望も出された。

■革新愛知の会総会・記念講演

12月6日

総会に先立って、日本共産党の緒方靖夫副委員長が「極右・排外主義にこうして欧州のたたかいから学ぶ」と題して講演。欧州でも新自由主義政策の破綻で極右が勢いを増していることをあげ、極右政党が激しく体制批判と既存政党批判をすることが、社会に不満を感じる人に受け入れられていると現状を話した。その上で、ドイツやベルギーの左翼政党は、ベルギー労働党は、極右政党が台頭する中で、2024s年挙で極右政党と同時に支持を拡大し、12から15に増やした。極右が得意なフィールドでたたかうのではなく、賃金、年金、住宅、税金といった、誰もが直面しうる普遍的な階級問題に焦点をあて、対話によって支持を広げてきたことが話された。フロアーから医労連の矢野書記長が「ボーナスカットで年収ダウンとなり、退職者増が心配。軍拡ではなく医療介護や社会保障の拡充を。3月春闘回答日はストライキを構えてがんばる。地域の病院を守る活動への協力を」と訴えた。最後の閉会あいさつ小林武世話人は、組織の違いを超えてつながり共同を広げることが、高市政権の歴史的な悪政を変えるものだと話した。西尾議長が司会を務めた。

■国際人権学習会

12月6日

総会に先立ち、異常な物価高騰が続く中、野宿者をはじめとする生活困窮者の人権を守る活動をとりのみ続けてきたNPO法人ささしまサポートセンターの石黒好美さんを招いて恒例の学習会を行った。続いて開催された総会では新代表に元愛労連副議長の福田秀俊さん（国民救援会）が選出された。副代表には引き続き佐賀事務局次長が選出された。

■2026国民春闘討論集会

12月7日

刈谷市産業振興センターで開催し70人が参加した。主催者あいさつで愛労連の西尾議長は、国会議員の定数削減、軍事費予算増、米価、高齢者医療、生活保護費の削減、名護市長選挙など私たちに影響がある政治の諸問題に触れたあと、「ケア労働の一時金削減を跳ね返し、労働者全体の大幅賃上げの実現。公共の再生への動きなど私たちの運動で変化もある。『対話と学びあい』で26春闘を切り開こう」と呼びかけた。

全労連事務局次長の布施恵輔さんは、「対話と学びあい」で仲間を増やして要求を実現する春闘をめざして」と題して、国際・国内的に起こっている変化を分かりやすく紹介し、仲間づくり、組織の変革をはかるため「グループ討論＝対話と学びあい」を行った。12グループにわかれ「自らの生活実感と賃上げで生活をどう変えたいか、賃金以外で実現したい要求」で討論した。

「対話と学びあい」トークセッションで、松本陵子さん（愛高教書記次長）、薄美穂子さん（福祉保育労東海地本書記長）、安海芙由美さん（建交労愛知保育パート支部副委員長）、塩森真由美さん（自治労連愛知自治体一般労組大府分会分会長（写真左））が実践と成果を報告。さらにグループ討論で「自分は何をするか、何を变えられるか」議論した。

■非正規公務員労働相談ホットライン

12月7日

今年度の「非正規公務員全国一斉ホットライン」は、岩手、宮城、山形、東京、千葉、埼玉、愛知、岐阜、京都、富山、滋賀、山口、香川、熊本、大分、佐賀、沖縄、鹿児島19会場に体制が拡充され取り組まれた。全国で87人（昨年は41人）の相談員が対応し、165件（途中集計）の相談に応じた。また、当日も含めてメール相談が172人からあった。アクセス数（総呼数）380回で対応率は45.3%だった。46回線（全労連会場10回線、地方18会場36回線）で対応したが、ひとり一人の相談が切実で濃厚な相談となり時間がかかることもあり、すべての相談に対応することはできなかった。

寄せられた相談データの分析をすすめ、あらためて記者会見などを準備して社会的な発信を行う準備をすすめている。なお、愛労連春闘討論集会と日程重なった愛労連会場では自治労連OBのみなさんをはじめ、関さん（年金者組合）の協力得て、6本の相談を受け付けた。

■母親大会赤紙配り

12月7日

栄三越前での宣伝に18名が参加した。開戦日に合わせて戦争中の召集令状「赤紙」を模したビラを200枚配布した。リレートークもおこない、赤紙一枚で戦場に送られた時代を繰り返してはいけないことを訴えた。「防衛費を増やすより、手厚い子育て支援を」などの訴えがあった。中日、赤旗などの取材があった。

■A i 四役会議

12月9日

この間の春闘討論集会やパート臨時の元気が出る集会、青年協学習会など会議運営をトークセッションやグループ討論を取り入れた運営に努めていることを報告し意見交換を行った。今後の主な日程、春闘学習会や臨時大会の持ち方や流れを確認した。機関誌学校について四役で議論をした。

加盟組織の旗開きなど担当を割り振りした。

■ケア労働者プロジェクト西尾市議会陳情

12月9日

愛労連ケア労働対策会議から西尾市議会に意見陳述を行った。「医業現場の危機打開に向けた財政支援を求める意見陳述」と「介護・障害福祉分野の処遇改善と公的支援の強化を求める意見陳述」を医労連の池田さん、「保育士・学童保育支援員処遇改善を求める意見陳述」を建交労田村さんが行った。「保育・学童保育」の陳情は『趣旨採択』となった。「医療現場」と「介護・障害」については、国が現在の報酬改定等の動向をみていく、他産業とのバランスもあるためという理由で不採択となった。

■9の日宣伝

12月9日

金山駅北口で実施。参加者は革新愛知の会、平和委員会、共産党、愛労連の計4人。台湾有事などの高市首相の発言などを批判し、外交で武力の衝突を回避しようなど訴えた。

■全労連幹事会

12月10日

オンラインで開催された。評議員会に提出する25秋季年末闘争の経過と教訓、26国民春闘方針、上半期の決算報告などについて議論した。また、レバカレの総括を開始し、NPT再検討会議への代表派遣、2026レイバーノーツの代表派遣について確認した。

■Ai女性協幹事会

12月10日

各組織の活動報告後、とりくみの総括、今後のとりくみに話し合った。1月12日に開催予定の女性協新春のつどいについて、グループ交流を入れる方法などについてなどを話し会った。3.8国際女性デーの実行委員会へ連帯することが承認された。

次回幹事会は、1月12日（月祝）新春のつどい後 @愛労連応接室

■共済会事務局会議

12月10日

共済会事務所でおこなわれ、参加者はJMITU、きずな、建交労、愛労連、共済会事務局から計7人。①共済の増減と給付の実績を確認した。②11月22日の共済学校の振り返りをおこなった。当日出された「古希祝」について今後検討していくこととした。③秋の拡大月間について協議した。おうちの安心共済について、名古屋市退職者会から25人の特約加入があったと報告された。④2月の共済拡大全国交流集会の参加者を確認した。

■東海研・産業構造研究会

12月10日

5月に予定される「東海自治体学校」の分科会運営にあたり、昨年度のテーマであった「愛知の製造業中心の産業構造をジェンダー視点で考える」をブラッシュアップしてとりくむことについて議論を行い確認した。研究会から東海自治体学校の実行委員として佐賀事務局次長が選出された。

■全）秋の組織強化・拡大交流集会

12月11日

対話と学びあいを基礎にしたたたかう労働組合の効果・拡大を実践し、26春闘へ繋げるために、学習と交流をおこなった。まず、大阪府職労の小松康則さんを講師にむかえ「参加型会議のすすめ方」を学んだ。大阪では幹事会でもグループ討論をおこない、そこでの議事もGoogleドキュメントで共有し欠席者にも伝え感想を聞く、など全員参加型会議にしている、大会もオープンスペーステクノロジー（OST）を活用しテーマ別に対話の時間を作っているなどが話された。その後、グループに分かれて、組織強化拡大への困難や、今後、挑戦・提起したいことなどが話し合われた。

■オンライン労働学校「学びの森」

12月11日

129期労働学校「学びの森」教室第3回を労働会館会議室で開催した。全体テーマは「ひろがる視野 ぶれない『ものさし』」。全6回で月2回木曜日19時～。第3回は、「社会にも法則性がある一階級という視点」と題し、関西勤労者教育協会の妹尾知則さんから話を聞いた。階級闘争が原動力となって社会は発展してきた、歴史の主人公は人民大衆、などが話された。講義のあとは分散感想交流をおこなった。

■建交労学童保育支部名労連オルグ

12月11日

約20人が参加して竹内事務局長が面労連結成の目的と意義、経過について説明し質疑が行われた。参加者からは「規約に青年協・女性協の規定があるが、結成後ただちに立ち上げるのか」「結成後、現在の地域組織はどうなるのか」「地域協議会という緩やかな組織では結集が弱まるのではないか」などの質問が出された。

■名護市長選決起集会in愛知

12月12日

1月25日に予定されている名護市長選挙にむけて、沖縄統一連事務局長の瀬長和男さんからオンラインで現地の報告がされ、辺野古新基地「オール沖縄」と全国の闘いや、選挙の全国的意義など報告された。11月28～30日まで沖縄行動に参加した、愛知国公の青山さんからは、沖縄行動に参加しての報告と現在の辺野古の状況などが報告された。辺野古の闘いは全国の仲間の力が必要、多くの支援をと行動提起がされた。

■道労連非正規公務員問題学習会

12月13日

道労連では、26春闘の主要なとりくみとして非正規公務員労働者の組織化を提起するため、見出しの学習会をオンラインで開催した。講演は北海学園大学の川村教授が道内自治体の制度運用の実態と、せめて民間非正規労働者並の労働法制適用の必要性を説明し、労働組合だけでは突破できない運用面での改善には地方議員との連携が必要だと呼び掛けた。それを受け、元非正規公務員でもある石狩市議会議員の神代市議が、北海道での「議員ネット」としてのとりくみを紹介。愛労連佐賀事務局次長は全労連会計年度任用職員組織化プロジェクトメンバーとして、12月7日に実施したホットラインの結果（中間報告）を報告した。

■全労連東海北陸ブロック幹事会

12月13日

7人全員が参加した。ブロック総会の段取りを確認するとともに、労働相談員研修会を寝中傷対策で開催すること、最賃キャラバンの日程（東海6月11日12日、北陸6月10日又は11日）を調整すること、組織拡大交流集会を10月3日～4日に岐阜県で開催することを確認した。

■全労連東海北陸ブロック総会

12月13-14日

2025年12月13日から14日の2日間、富山県の氷見市ふれあいスポーツセンターにて全労連東海北陸ブロック2026年度総会を開催しました。

7つの地方組織などから、46人（愛知10名、岐阜4名、静岡8名、富山12名、石川6名、三重2名、福井3名、全労連1名）が参加し、女性の参加率は31.4%でした。各県労連・県評が活動報告を行い、労働相談、災害支援、組織拡大、賃金問題、平和運動、外国人労働者の権利、青年部活動などについて議論しました。特に最低賃金の引き上げ、ケア労働者の処遇改善、非正規労働者の組織化、平和と人権の重要性が強調されました。新旧役員の交代も行われ、次年度の活動方針を確認しました。

2日目は全労連黒澤事務局が記念講演を行いました。黒澤さんは労働組合の本質的な役割は労働者の組織化であり、労働者間の競争を排除し、団結を通じて労働条件を改善することが重要だと訴えました。特に非正規労働者の組織化、賃金引き上げ、対話と学び合いの重要性を強調し、労働者の自覚と団結を呼びかけました。

その後、分散討論をおこない、参加者たちは組合の役割と課題を熱く語りました。非正規労働者の処遇改善、賃金引き上げ、若手の組織参加促進などが焦点として出されました。「一人の要求を全体で共有し、団結を強める」という話も出されました。組織拡大と労働者の権利擁護に向けて、対話と学び合いの重要性を強調しました。次年度の活動に向け、意欲的な決意を示しました。

■憲法と平和を守る街宣A

12月13日

国公2、医労連1、愛労連事務局2など9人参加。西尾議長が軍拡予算を社会保障にまわすべきと訴えた。

■全労連女性部春闘討論集会

12月14日

全労連会館2階ホールとオンライン併用で開催され、11単産29地方組織67人が参加した。午前中は女性労働者実態調査報告をもとに、職場の女性労働者の実態と労働組合で何ができるかについてグループ討論を行い、午後からの春闘討論集会と女性部委員会で26春闘方針と女性の要求項目が確立された。

■社保協理事会

12月15日

保険医協会伏見会議室でおこなわれ、参加者はリモート合わせて17人。①大軍拡より社会保障の拡充をもとめるたたかいとして、秋の署名を確認。今後「大企業や富裕層に偏った税制を改め、公正な税負担により国民生活の向上や社会保障制度の拡充などの財源確保を求める」請願署名（社会保障学住所名）がとりくまれると報告された。②各分野の情勢や今後のとりくみについて確認した。③3月1日に開催される愛知社会保障学校について、記念講演の講師を協議した。今後1週間程度候補者の案を募り、年内に依頼していく。④知っとくパンフについて、在庫を大量に抱えているため、今後無料配布もおこない、各組織での活用が呼びかけられた。

■秋の自治体キャラバン半田市議会陳述

12月15日

秋の自治体キャラバンの陳情書への意見陳述に西尾議長が参加した。

■ケア労働者プロジェクト半田市議会陳情

12月15日

愛労連ケア労働対策会議から半田市議会に意見陳述を行った。「医業現場の危機打開に向けた財政支援を求める意見陳述」と「介護・障害福祉分野の処遇改善と公的支援の強化を求める意見陳述」を医労連の浜島さん、「保育士・学童保育支援員処遇改善を求める意見陳述」を西尾議長が行った。社保協の陳述とケア労働の陳述が混同してしまい、陳述の順番がズレてしまい、陳情書と陳述がちぐはぐになってしまった。採択はいずれも不採択となった。理由は、おっしゃることはごもっともだが、財政根拠がなく半田市としては推薦できないという理由。他に年金者組合が補聴器助成について、意見陳述を行った。傍聴組織、中日新聞が取材にきていた。

■社保協地域医療委員会

12月16日

医労連会議室でおこなわれ、参加者は医労連、国公、全医労、民医連、愛労連、社保協から計6人。①法制報告で12月の補正予算関連の状況、県内の公立病院の決算状況など確認した。愛知県内の公立18病院はすべて赤字決算で平均10億円の赤字となっている。②県内の再編・合理化推進状況を確認した。③次回会議は2月18日13：30から医労連会議室でおこなわれる。

■安保破棄実行委員会常任幹事会

12月17日

12月4日、名古屋港管理組合に特定利用港湾の指定撤回を求める申し入れ。12月12日、名護市長選挙決起集会を安保破棄愛知県実行委員会とともに開催し、労働会館とオンラインで30人が辺野古新基地建設ストップ、市長選挙勝利への決意をともにしました。沖縄統一連の瀬長和男さんの報告、は、辺野古の座り込みに寝袋を持参して泊まり込みをした「寝袋議員」と親しまれ市民と共にたたかってきた方です。

青山さんは、集会や広報活動を行った現地の行動を報告するとともに、辺野古埋め立てのずさんさを指摘した。加盟団体のとりくみ、情勢議論、12月20日(土)11時～名古屋港駅前、2月23日(祝)13時～学習会、3月7日(土)午後、小牧駅前のラピオでミサイル製造・保管・配備反対の集会、名護市長選の支援連帯活動(1月13～16日、1月19日～22日)、1月24日(土)10時から日米地位協定改定を求める署名行動(民主会館)、安保破棄実行委員会の総会を4月23日(木)18時30分～予定(労働会館)、次回は1月21日、2月18日、3月18日＝いずれも10時～。

■革新県政の会代表常任幹事会

12月18日

2月3日(火)18：30から労働会館東館ホールで県知事選挙1年前集会を開催することとした。内容はニューヨーク市長選挙結果についてと愛知県財政について2本の情勢報告を行い、全体討論で議論を進めることとした。また、候補者擁立を急ぐため選考方法を含め議論を加速させることとした。

12月18日

対話学びあい集中期間11月～2月、非正規・女性・若者の組織化重視の意思統一を行った。国公では非正規の実態調査に取り組み、非正規の組織化に取り組んでいきたいとの報告が行われた。わくわく講座第1章「だから労働組合」をYouTubeで視聴し意見交換を行った。

12月18日

4人が参加。国際女性デーにむけて、とりくみが重なる今年はどうのように開催していくかの話し合いをおこなった。女性の休日についてのとりくみが呼びかけられている6日と国際女性デーが近いので、3月6日に、両方のアピールをおこなっていくこととした。チラシ配り、交流会などを予定。

(予定) アピール行動 3月6日(金) 16:30~ @金山駅北口

交流会 〃 18:30～ @労働会館本館会議室

12月18日

愛労連事務室にて2026年度会計の第1三半期監査を行った。現金預金・各種伝票などについて正確に処理されていることが確認された。

12月18日

労働会館本館でおこなわれ、参加者は13人。2025年自治体キャラバンのまとめ冊子作成にむけて、アンケート項目のまとめ一覧表の確認をおこなった。次回実行委員会にむけて修正などおこない、今後まとめ文章も作成していく。

12月18日

労働会館東館409会議室でおこなわれ、参加者は建交労、JMITU、全国一般、きずな、年金者組合などから計11人。①報告事項として、各共済の増減、給付実績、共済学校のまとめ、全労連共済理事会、事務局員の年末一時金支給など報告された。②25秋と26春の拡大月間について、各組合のとりくみ状況を確認した。JMITUは「更新案内・継続手続きのおねがい」を組合員に配布・郵送で届けていること、全国一般は加入者に共済の案内・説明していること、きずなは会議に合わせて共済の案内などおこなっていることなど報告された。③2月の共済拡大全国交流集会の参加者について確認し、集会では全労連の黒澤事務局長の組織拡大についての講演もおこなわれると報告された。

12月18日

129期労働学校「学びの森」教室第4回を労働会館会議室で開催した。全体テーマは「ひろがる視野 ぶれない『ものさし』」。全6回で月2回木曜日19時～。第4回は、「資本主義社会とは（1）一賃金と搾取」と題し、関西勤労者教育協会のみつくりかつのりさんから話を聞いた。労働者の団結が弱ければ、賃金は生理的必要ギリギリのところまで引き下げられる、団結したたかうことが必要、などが伝えられた。

12月18日

6名参加。第56回大会の今後のとりくみについて検討した。消費生活フェアに8000人が来場したことなどが報告された。今後のとりくみについてテーマや内容などについて話し合った。今後は、愛知県と名古屋市へと行政懇談会、原発問題、PFOS問題などを検討中。参加が呼びかけられた。

2月2日（月）10：00～12：00 @未定 行政懇談会名古屋市

2月5日(木) 10:00~12:00 @未定 行政懇談会愛知県

■春の自治体キャラバン実行委員会

12月19日

2026年度の要請内容およびアンケートの分担を確認しつつ、公契約条例に関わる部分と学校教育について概ね内容を確認した。奨学金制度について引き続き取り上げるかについては再度検討することとした。

次回は1月29日(木)10:00から自治労連会議室。

■レバカレ月イチオンライン企画②愛高教

12月19日

レバカレ月イチオンライン企画の2回目は「愛高教、組織強化」と題して愛高教松本陵子書記次長がお話し、グループトークを行った。松本さんは一対一の対話を丁寧に行い、相手の話を聴く、聴く、聴くことを「濃厚対話」と呼び、相手の温度感空気感を確かめながら、「濃厚に」「傾聴し」「対話する」ことを位置づけて関わっているエピソードが話された。「忙しい」と組合に背を向ける人たちにも、雑談もが組合活動だと、本音を引き出し、教員担った初心の気持ちを聴いて、その実現のために組合活動・要求で打ち破るんだと仲間たちが日々変化している様子が話された。松本さんは自分の知らない感情や経験を相手から学ばせてもらうという謙虚な姿勢が、向き合った仲間が松本さんを信頼し組合を信頼し労働組合入り労働組合に自覚的に参加し、新たな仲間を引き連れて、新たな行動を展開し労働組合の活動がその人によって、深まってきていることが実感できる内容であった。松本さんは、他の産別組合の行動にも積極的に参加をしていることが愛高教自身に風を吹かせ組織の強化にもつながっているのだと感じた。

次回は1月23日は「心理的安全性のある会議運営」全国福祉保育労働組合の講座が行われる。

■特定利用港湾反対名古屋港宣伝

12月20日

平和委員会が主催し、名古屋港駅で宣伝を行った。

■全国一般アクリル爭議支援共闘会議

12月23日

東京都労働委員会の決定に対する今後の対応を検討した。ゼロ回答の決定であまりにも不当な判断であり中労委に再審査申立を行い中労委での解決をめざす。また、ダウ社の米労組にも協力してもらい解決に向けた要望をしてもらう。

■A i 青年協幹事会

12月23日

愛労連応接室とリモートでおこない、参加者は医労連2、建交労、福保労2、愛労連の計6人。新年度となった青年協の1年間の目標、とりくみスケジュールなどについて協議した。①当面のとりくみの具体化をおこない、3月8日に給与明細学習会、4月11日に春の学習交流会、5月10日に新歓☆地引き網ツアーをおこなうこととした。②青年協の新年度の役割分担や会議のスケジュールを協議し、今年度の幹事会は金曜日に固定する事とした。また、オブザーバー参加を広く呼びかけることも確認した。③サマセミブロック実行委員会や全労連青年部など外部のとりくみについて参加を確認した。

■A i 社会的な賃金闘争対策委員会

12月24日

浅生さんから賃上げと物価についてミニ学習。1月27日、愛知県公契約に関する協議の場があるので傍聴を申し込む。全国一律最賃署名と2つの団体署名が進行中。3月スタートの愛労連署名の議論(2回目)、家計簿で生活費調査の冊子の議論、1月15～16日の地元国会議員要請の参加確認。3月までに愛知県知事へ要請(ケア労働も重視した内容)、1月31日全労連最賃デー(憲法と平和宣伝とバッシング)。次回は2月5日(木)10時～12時。

■名古屋越冬突入集会

12月28日

約70人が集まり突入集会が行われた。愛労連からは西尾議長がカンパを持って参加した。自治

労連からも武藤委員長、名古屋市職労から津田・笹原両氏が参加していた。

■総がかり行動運営委員会 1月5日

オンラインを含め15人が参加した。12月19日の一斉街宣の振り返りとともに1月19日の集会の段取りや、

■2026国民春闘スタート宣伝 1月6日

名古屋駅前で8時～9時まで実施。寒さが身に染みる日になったが、全労連作成の「賃上げ交渉しよう」のビラ768枚（ティッシュ入れ）を配布。自治労連、国公、生協労連、愛高教、医労連、愛教労、年金者、JMITU、建交労、福祉保育労、尾中、名高教、事務局から30人参加。中日新聞、しんぶん赤旗が取材、7日報道した。

■米軍のベネズエラへの大規模攻撃に抗議する緊急宣伝 1月6日

米軍が1月3日、南米ベネズエラの首都カラカスで大規模攻撃を行い、マドゥロ大統領らを拘束し、米国に連れ去ったことに対し、安保破棄実行委員会と愛知県平和委員会は6日、12時から名古屋市栄で「国際法違反の侵略行為」として抗議の宣伝活動を行い35人が参加した。西尾議長、松本幹事がスピーチした。CBCテレビ、中日新聞、毎日新聞、しんぶん赤旗が取材・報道した

■Ai新聞編集委員会 1月8日

オンラインで3人が参加。愛労連新聞1月10日号の振り返りと、2月10日号の企画打合せをおこなった。

■中地域新年合同旗びらき 1月8日

中センターにて中地域合同旗びらきが行われた。労働組合以外に、愛視協、新婦人、救援会が参加をして各組織の取り組みを紹介交流した。愛労連からは西尾議長が来賓あいさつを行った。

■福祉保育労旗びらき 1月8日

愛労連から柴田副議長が参加し来賓としてのあいさつを行った。

■社保協四役会議 1月8日

労働会館東館403でおこなわれ、参加者は保険医協会、民医連、自治労連など計7人。理事会に向けての各分野のとりくみについての協議をおこなった。①大軍拡より社会保障の拡充を求めるたたかいについて、宣伝行動を配置するとし、日程を協議した。当面1月18日の金山駅北口、2月18日の東別院前での宣伝など確認した。②知トクパンフの活用について、税制の改定をうけて修正文書の用意など確認した。③国保の課題について、愛知県あての署名が22000筆をこえたことなど確認した。④高額療養費の問題について厚労省のHPから「声」が遅れるため、直接意見を伝えることが呼びかけられた。⑤3月1日の社保学校について会場発言について協議した。⑥今後の理事会、四役会議の日程を調整した。

■若者気候訴訟第5回口頭弁論 1月8日

傍聴枠80人に対して97人が列をつくった。弁論では原告の川崎彩子さんと山本大貴さんが意見陳述を行った。弁護団からは、気候変動の影響について生命や健康被害について提起した。弁論後、桜華会館で報告集会を行った。

今後の口頭弁論は、第6回が4月20日(月)14:30、第7回が8月6日(木)14:30からとなる。

■全国一般旗びらき 1月9日

愛労連から濱島副議長が参加し来賓としてのあいさつを行った。

■知多労連旗びらき 1月9日

愛労連から佐賀事務局次長が参加し来賓としてのあいさつを行った。

■JMITU旗びらき 1月9日

愛労連から濱島副議長が参加し来賓としてのあいさつを行った。

■東海法労旗開き 1月9日

愛労連から若井副議長が参加し来賓としてのあいさつを行った。

■9の日宣伝 1月9日

金山総合駅北口で3人（平和委員会・革新愛知の会・愛労連）が参加して宣伝を行った。署名は2筆寄せられた。

■安保法制違憲訴訟打ち合わせ 1月9日

竹内事務局長が高裁での原告意見陳述を行うことになり、その内容について担当の金井弁護士と打ち合わせを行った。

■Ai単産・地域代表者会議 1月10日

44人参加（15単産19人、14地域19人、事務局6人）した。議案の冒頭では「成果を生み出しているが、実質賃金は上回っていない。これを実現するには職場の力関係だけでなく、産業・地域・全国の力関係を変えて、政治・行政を動かすことが必要」と強調。賃金要求案は、「企業内・産業内最低賃金は時間額で1800円以上、月額27万円以上」「賃上げ要求は、月額3万3000円以上（約10%以上）、時間額250円以上（約17%以上）」「最低賃金を全国一律1800円以上、めざせ2000円」と提案した。要求額に確信を持つために、2月に「家計簿で生活費調査」を実施します。結果を対話や団交にも活用する。

討論では「賃上げと家計簿」「地域で要求書交流会」「平和」「ケア労働者の賃上げ」「非正規の組織化」「格差是正」「組織拡大」「ストで地域から応援」「給特法」など11人が発言した。

■Ai・春闘共闘新春旗びらき学習会 1月10日

労働会館東館で旗びらき学習会を開催し122人（オンライン8）が参加した。愛労連の西尾議長はあいさつで「初の女性高市首相に期待はあるが、26年度予算で軍事費は過去最大の9兆円超、一方で社会保障や教育は切り捨てられている」「変化をつくるのは私たち自身『おかしい』と言った力は必ず未来をつくる」と訴えた。

第一部では、竹信三恵子さん（ジャーナリスト、和光大学名誉教授＝写真）から「命と暮らしを守る力」（ジェンダー平等・平和・労働者の未来）と題した講演です。「初の女性首相」について「反ジェンダー平等の政策の束を引っさげた初の女性首相という矛盾」と酷評しました。「女性の貧困率は男性をほぼ上回り高齢期で特に拡大」「日本の非正規公務員の4分の3は女性」「平和なしでは社会保障は増えない→女性が外で活躍する基盤の喪失→男性の経済力への依存の強化→男性の負担と女性嫌悪→戦争への道」と話された。

第2部は「ジェンダーの視点から『公共の再生』を考えるトークセッション。ビデオレターで三重県伊賀市議会議員の百上真奈さん、「公共サービス」の市場化に問題意識を持ち市民と一緒に市政を動かしてした経験を語った。自治労連愛知県本部の執行委員長の武藤貴子さん、愛知県立高等学校教職員組合執行委員長の堀直予さん、愛知県医労連書記長の矢野彩子さんが現場の実態と改善運動を熱く話した。

■革新県政の会・市政の会・革新懇共同新春のつどい

1月10日

各界から102人が参加した。政党からは藤原規真衆議院議員（立憲）、本村伸子衆議院議員（共産）、上村英明衆議院議員（れいわ）をはじめ、社民党、新社会党、緑の党なから代表が参加し、高市政権の軍拡路線と悪政に対して大きな共同をつくって対峙していくことを語りあった。

■きずな新春旗びらき

1月11日

労働会館本館会議室にてきずな旗びらきが行われた。昨年結成45周年を迎える1年前のプレ企画が盛大に行われ地域労組きずなの意義が深まったが、きずなに集まる仲間の力で最賃1800円の峰の到達、仲間増やしに全力でがんばり6月28日45周年定期大会を迎えようと思いを固め合った。

■反核・平和新春のつどい

1月12日

民主会館で開催。講演は、関西学院大学法学部教授の富田宏治さんから「2026年の反核・平和の課題」を聞いた。台湾有事、世界情勢、非核三原則見直し論についてなどとともに、生きづらさから右傾化する若者へは対話を重視することが大切、などが話された。文化企画もおこなわれ50人以上が参加し盛況だった。

■Ai女性協新春のつどい

1月12日

労働会館本館にて50名以上の参加が参加し、女性協幹事は今年も着物を着て、花やお菓子、多様な出店など和やかに開催された。オープニングは「手話っち乱舞隊Break Through」の手話ダンス。記念講演は、名古屋大学法学研究科教授の田村哲樹さんから「夫婦別姓のその未来へ～ジェンダー×家族を語ろう～」を聞いた。夫婦別姓が法制化されることのみが大事なのではなく、家族、職場などでも民主主義が存在しているかどうか、親密圏での民主主義的な対話の重要性が話された。グループに分かれての感想交流の時間を作り、参加型で良かったと好評だった。

■Ai女性協幹事会

1月12日

8人が参加。新春のつどいの振り返り、今後のとりくみに話し合った。トヨタ総行動、母親大会要請行動、3・8国際女性デーなどを予定。

次回幹事会は、2月11日（水）トヨタ総行動後を予定。

■社保協地域医療委員会

12月16日

医労連会議室でおこなわれ、参加者は医労連、国公、全医労、民医連、愛労連、社保協から計6人。①法制報告で12月の補正予算関連の状況、県内の公立病院の決算状況など確認した。愛知県内の公立18病院はすべて赤字決算で平均10億円の赤字となっている。②県内の再編・合理化推進状況を確認した。③次回会議は2月18日13:30から医労連会議室でおこなわれる。

■安保破棄実行委員会常任幹事会

12月17日

12月4日、名古屋港管理組合に特定利用港湾の指定撤回を求める申し入れ。12月12日、名護市長選挙決起集会を安保破棄愛知県実行委員会とともに開催し、労働会館とオンラインで30人が辺野古新基地建設ストップ、市長選挙勝利への決意をともにしました。

沖縄統一連の瀬長和男さんの報告、は、辺野古の座り込みに寝袋を持参して泊まり込みをした「寝袋議員」と親しまれ市民と共にたたかってきた方です。

青山さんは、集会や広報活動を行った現地の行動を報告するとともに、辺野古埋め立てのずさんさを指摘した。加盟団体のとりくみ、情勢議論、12月20日（土）11時～名古屋港駅前、2月23日（祝）13時～学習会、3月7日（土）午後、小牧駅前のラピオでミサイル製造・保管・配備反対の集会、名護市長選の支援連帯活動（1月13～16日、1月19日～22日）、1月24日（土）10時から日米地位協定改定を求める署名行動（民主会館）、安保破棄実行委員会の総会を4月23日（木）18時30分～予定（労働会館）、次回は1月21日、2月18日、3月18日

■消費者大会実行委員会

12月18日

6名参加。第56回大会の今後のとりくみについて検討した。消費生活フェアに8000人が来場したことが報告された。今後のとりくみについてテーマや内容などについて話し合った。今後は、愛知県と名古屋市へと行政懇談会、原発問題、PFOS問題などを検討中。参加が呼びかけられた。

2月2日(月) 10:00～12:00 @未定 行政懇談会名古屋市

2月5日(木) 10:00～12:00 @未定 行政懇談会愛知県

■春の自治体キャラバン実行委員会

12月19日

2026年度の要請内容およびアンケートの分担を確認しつつ、公契約条例に関わる部分と学校教育について概ね内容を確認した。奨学金制度について引き続き取り上げるかについては再度検討することとした。

次回は1月29日(木)10:00から自治労連会議室。

■レバカレ月イチオンライン企画②愛高教

12月19日

レバカレ月イチオンライン企画の2回目は「愛高教、組織強化」と題して愛高教松本陵子書記次長がお話し、グループトークを行った。松本さんは一対一の対話を丁寧に行い、相手の話を聴く、聴く、聴くことを「濃厚対話」と呼び、相手の温度感空気感を確かめながら、「濃厚に」「傾聴し」「対話する」ことを位置づけて関わっているエピソードが話された。「忙しい」と組合に背を向ける人たちにも、雑談もが組合活動だと、本音を引き出し、教員担った初心の気持ちを聴いて、その実現のために組合活動・要求で打ち破るんだと仲間たちが日々変化している様子が話された。松本さんは自分の知らない感情や経験を相手から学ばせてもらうという謙虚な姿勢が、向き合った仲間が松本さんを信頼し組合を信頼し労働組合入り労働組合に自覚的に参加し、新たな仲間を引き連れて、新たな行動を展開し労働組合の活動がその人によって、深まってきていることが実感できる内容であった。松本さんは、他の産別組合の行動にも積極的に参加をしていることが愛高教自身に風を吹かせ組織の強化にもつながっているのだと感じた。

次回は1月23日は「心理的安全性のある会議運営」全国福祉保育労働組合の講座が行われる。

■特定利用港湾反対名古屋港宣伝

12月20日

平和委員会が主催し、名古屋港駅で宣伝を行った。

■全国一般アクリル爭議支援共闘会議

12月23日

東京都労働委員会の決定に対する今後の対応を検討した。ゼロ回答の決定でありにも不当な判断であり中労委に再審査申立を行い中労委での解決をめざす。また、ダウ社の米労組にも協力してもらい解決に向けた要望をしてもらう。

■Ai 青年協幹事会

12月23日

愛労連応接室とリモートでおこない、参加者は医労連2、建交労、福保労2、愛労連の計6人。新年度となった青年協の1年間の目標、とりくみスケジュールなどについて協議した。①当面のとりくみの具体化をおこない、3月8日に給与明細学習会、4月11日に春の学習交流会、5月10日に新歓☆地引き網ツアーをおこなうこととした。②青年協の新年度の役割分担や会議のスケジュールを協議し、今年度の幹事会は金曜日に固定する事とした。また、オブザーバー参加を広く呼びかけることも確認した。③サマセミブロック実行委員会や全労連青年部など外部のとりくみについて参加を確認した。

■Ai 社会的な賃金闘争対策委員会

12月24日

浅生さんから賃上げと物価についてミニ学習。1月27日、愛知県公契約に関する協議の場があ

るので傍聴を申し込む。全国一律最賃署名と2つの団体署名が進行中。3月スタートの愛労連署名の議論（2回目）、家計簿で生活費調査の冊子の議論、1月15～16日の地元国会議員要請の参加確認。3月までに愛知県知事へ要請（ケア労働も重視した内容）、1月31日全労連最賃デー（憲法と平和宣伝とバッティング）。次回は2月5日（木）10時～12時。

■名古屋越冬突入集会 12月28日

約70人が集まり突入集会が行われた。愛労連からは西尾議長がカンパを持って参加した。自治労連からも武藤委員長、名古屋市職労から津田・笹原両氏が参加していた。

■総がかり行動運営委員会 1月5日

オンラインを含め15人が参加した。12月19日の一斉街宣の振り返りとともに1月19日の集会の段取りや、

■2026国民春闘スタート宣伝 1月6日

名古屋駅前で8時～9時まで実施。寒さが身に染みる日になったが、全労連作成の「賃上げ交渉しよう」のビラ768枚（ティッシュ入れ）を配布。自治労連、国公、生協労連、愛高教、医労連、愛教労、年金者、JMITU、建交労、福祉保育労、尾中、名高教、事務局から30人参加。中日新聞、しんぶん赤旗が取材、7日報道した。

■米軍のベネズエラへの大規模攻撃に抗議する緊急宣伝 1月6日

米軍が1月3日、南米ベネズエラの首都カラカスで大規模攻撃を行い、マドゥロ大統領らを拘束し、米国に連れ去ったことに対し、安保破棄実行委員会と愛知県平和委員会は6日、12時から名古屋市栄で「国際法違反の侵略行為」として抗議の宣伝活動を行い35人が参加した。西尾議長、松本幹事がスピーチした。CBCテレビ、中日新聞、毎日新聞、しんぶん赤旗が取材・報道した

■Ai新聞編集委員会 1月8日

オンラインで3人が参加。愛労連新聞1月10日号の振り返りと、2月10日号の企画打合せをおこなった。

■中地域新年合同旗びらき 1月8日

中センターにて中地域合同旗びらきが行われた。労働組合以外に、愛視協、新婦人、救援会が参加をして各組織の取り組みを紹介交流した。愛労連からは西尾議長が来賓あいさつを行った。

■福祉保育労旗びらき 1月8日

愛労連から柴田副議長が参加し来賓としてのあいさつを行った。

■社保協四役会議 1月8日

労働会館東館403でおこなわれ、参加者は保険医協会、民医連、自治労連など計7人。理事会に向けての各分野のとりくみについての協議をおこなった。①大軍拡より社会保障の拡充を求めるたたかいについて、宣伝行動を配置するとし、日程を協議した。当面1月18日の金山駅北口、2月18日の東別院前での宣伝など確認した。②知トクパンフの活用について、税制の改定をうけて修正文書の用意など確認した。③国保の課題について、愛知県あての署名が22000筆をこえたことなど確認した。④高額療養費の問題について厚労省のHPから「声」が遅れるため、直接意見を伝えることが呼びかけられた。⑤3月1日の社保学校について会場発言について協議した。⑥今後の理事会、四役会議の日程を調整した。

■若者気候訴訟第5回口頭弁論 1月8日

傍聴枠 80 人に対して 97 人が列をつくった。弁論では原告の川崎彩子さんと山本大貴さんが意見陳述を行った。弁護団からは、気候変動の影響について生命や健康被害について提起した。弁論後、桜華会館で報告集会を行った。

今後の口頭弁論は、第 6 回が 4 月 20 日(月)14:30、第 7 回が 8 月 6 日(木)14:30 からとなる。

■全国一般旗びらき 1月9日

愛労連から濱島副議長が参加し来賓としてのあいさつを行った。

■知多労連旗びらき 1月9日

愛労連から佐賀事務局次長が参加し来賓としてのあいさつを行った。

■JMITU旗びらき 1月9日

愛労連から濱島副議長が参加し来賓としてのあいさつを行った。

■東海法労旗開き 1月9日

愛労連から若井副議長が参加し来賓としてのあいさつを行った。

■9の日宣伝 1月9日

金山総合駅北口で 3 人（平和委員会・革新愛知の会・愛労連）が参加して宣伝を行った。署名は 2 筆寄せられた。

■安保法制違憲訴訟打ち合わせ 1月9日

竹内事務局長が高裁での原告意見陳述を行うことになり、その内容について担当の金井弁護士と打ち合わせを行った。

■Ai単産・地域代表者会議 1月10日

44 人参加（15 単産 19 人、14 地域 19 人、事務局 6 人）した。議案の冒頭では「成果を生み出しているが、実質賃金は上回っていない。これを実現するには職場の力関係だけでなく、産業・地域・全国の力関係を変えて、政治・行政を動かすことが必要」と強調。賃金要求案は、「企業内・産業内最低賃金は時間額で 1800 円以上、月額 27 万円以上」「賃上げ要求は、月額 3 万 3000 円以上（約 10% 以上）、時間額 250 円以上（約 17% 以上）」「最低賃金を全国一律 1800 円以上、めざせ 2000 円」と提案した。要求額に確信を持つために、2 月に「家計簿で生活費調査」を実施します。結果を対話や団交にも活用する。

討論では「賃上げと家計簿」「地域で要求書交流会」「平和」「ケア労働者の賃上げ」「非正規の組織化」「格差是正」「組織拡大」「ストで地域から応援」「給特法」など 11 人が発言した。

■Ai・春闘共闘新春旗びらき学習会 1月10日

労働会館東館で旗びらき学習会を開催し 122 人（オンライン 8）が参加した。愛労連の西尾議長はあいさつで「初の女性高市首相に期待はあるが、26 年度予算で軍事費は過去最大の 9 兆円超、一方で社会保障や教育は切り捨てられている」「変化をつくるのは私たち自身『おかしい』と言った力は必ず未来をつくる」と訴えた。

第一部では、竹信三恵子さん（ジャーナリスト、和光大学名誉教授＝写真）から「命と暮らしを守る力」（ジェンダー平等・平和・労働者の未来）と題した講演です。「初の女性首相」について「反ジェンダー平等の政策の束を引っさげた初の女性首相という矛盾」と酷評しました。「女性の貧困率は男性をほぼ上回り高齢期で特に拡大」「日本の非正規公務員の 4 分の 3 は女性」「平和なしでは社会保障は増えない→女性が外で活躍する基盤の喪失→男性の経済力への依存の強化→男性

の負担と女性嫌悪→戦争への道」と話された。

第2部は「ジェンダーの視点から『公共の再生』を考えるトークセッション。ビデオレターで三重県伊賀市議会議員の百上真奈さん、「公共サービス」の市場化に問題意識を持ち市民と一緒に市政を動かしてした経験を語った。自治労連愛知県本部の執行委員長長の武藤貴子さん、愛知県立高等学校教職員組合執行委員長長の堀直予さん、愛知県医労連書記長の矢野彩子さんが現場の実態と改善運動を熱く話した。

■革新県政の会・市政の会・革新懇共同新春のつどい

1月10日

各界から102人が参加した。政党からは藤原規眞衆議院議員（立憲）、本村伸子衆議院議員（共産）、上村英明衆議院議員（れいわ）をはじめ、社民党、新社会党、緑の党なから代表が参加し、高市政権の軍拡路線と悪政に対して大きな共同をつくって対峙していくことを語りあった。

■きずな新春旗びらき

1月11日

労働会館本館会議室にてきずな旗びらきが行われた。昨年結成45周年を迎える1年前のプレ企画が盛大に行われ地域労組きずなの意義が深まったが、きずなに集まる仲間の力で最賃1800円の峰の到達、仲間増やしに全力でがんばり6月28日45周年定期大会を迎えようと思いを固め合った。

■反核・平和新春のつどい

1月12日

民主会館で開催。講演は、関西学院大学法学部教授の富田宏治さんから「2026年の反核・平和の課題」を聞いた。台湾有事、世界情勢、非核三原則見直し論についてなどとともに、生きづらさから右傾化する若者へは対話を重視することが大切、などが話された。文化企画もおこなわれ50人以上が参加し盛況だった。

■A i 女性協新春のつどい

1月12日

労働会館本館にて50名以上の参加が参加し、女性協幹事は今年も着物を着て、花やお菓子、多様な出店など和やかに開催された。オープニングは「手話っち乱舞隊Break Through」の手話ダンス。記念講演は、名古屋大学法学研究科教授の田村哲樹さんから「夫婦別姓のその未来へ～ジェンダー×家族を語ろう～」を聞いた。夫婦別姓が法制化されることのみが大事なのではなく、家族、職場などでも民主主義が存在しているかどうか、親密圏での民主主義的な対話の重要性が話された。グループに分かれての感想交流の時間を作り、参加型で良かったと好評だった。

■A i 女性協幹事会

1月12日

8人が参加。新春のつどいの振り返り、今後のとりくみに話し合った。トヨタ総行動、母親大会要請行動、3.8国際女性デーなどを予定。

次回幹事会は、2月11日（水）トヨタ総行動後を予定。

■サマセミブロック実行委員会

1月20日

リモートでおこない、参加者は石川4、愛知、静岡3、福井の計9人。①第32回サマセミの振り返りをおこない、記録集の作成について協議した、分担を決め、次回案を持ち寄る。②第33回サマセミin石川についてT時・場所を確認し、どんなサマセミにしたいか参加者の率直な意見を出し合った。「コストを意識しつつも、労働組合の楽しさなど感じてもらいたい」「各県青年組織の強化につなげる」など意見がでた。そのほか内容についても希望がだされ、能登の復興、伝統工芸体験、観光など意見が出された。③今後の実行委員会のスケジュールなども確認し、「各県各組織の4月新歓でサマセミをアピールし、労働組合の楽しい様子なども新人に伝えたい」などの声も聞かれた。

■秋の自治体キャラバン実行委員会

1月20日

労働会館本館でおこなわれ、参加者は自治労連、医労連、福保労、年金者組合、保険医協会、民医連などから計15人。①2025キャラバンのまとめ冊子の作成について、各項目の一覧表作成、まとめ文書案について内容を確認した。今回確認した修正などを1月28日までに提出する。②2026年の秋の自治体キャラバンについて、5月29日に第1回実行委員会をおこなうこととした。

■全労連評議員会 1月21-22日

春闘方針とともに、報告文書として組織財政検討委員会の設置等が確認され、「全国一律最賃と賃金引き上げに向けた中小企業政策の提言」（案）が提起され、4月の第15回幹事会で決定していくこととした。

■東三河労連新春のつどい 1月21日

70人（15組合・9協力団体）が参加し盛大に行われた。愛労連を代表して竹内事務局長から参加し、連帯のあいさつを行った。

■安保破棄実行委員会常任幹事会 1月21日

5人参加。1月6日米軍のベネズエラへの攻撃に抗議する宣伝を30人余りで栄で実施、CBCテレビ、中日、毎日に報道された。名護市長選応援の報告、新聞記事を使った情勢討議、特定利用港湾・空港問題、ミサイル配備反対の行動（3.7 小牧）、日米地位協定改定を求める署名のスタート集会（1.24 民主会館）、4月23日（木）18:30～労働会館本館で安保破棄実行委員会総会を行い（会計年度は10月～9月）議案の素案を討議、次回内容を確認する。

■平和行進実行委員会／原水協理事会 1月21日

オンラインと合わせて開催。平和行進や、ビキニデーに向けてのとりくみについてなどが検討された。今後も多くのとりくみを予定。NPTへの参加は、全体で150人を超える代表団になる予定。

次回理事会&平和行進実行委 2月12日（木）18:30～ @愛知民主会館

■核兵器禁止条約（TPNW）発効5周年記念行動 1月22日

愛労連、愛高教、JMITU、千種名東労連、県平和委員会、反核医師の会、北医療生協、県原水協から12人が参加。とても寒い中だったが10筆の署名が集まった。総選挙が行われようとしている中、非核3原則の見直しをしようとする高市政権、核兵器保有を述べる官邸筋がいる下で行われる選挙だけに、私たちの現在と未来を託せる方を選ぶべきと訴えた。「（核兵器を）持ったらダメに決まってるやろ！」（大阪の人）と話す人など、署名への反応はまずまず。署名を持って対話をする必要があることがわかる行動となった。

■名労連設立事務局会議 1月22日

結成に向けた加入決定促進のためにオルグの必要性を確認した。2月15日のスタートアップ集会の具体化を行った。次回は3月13日（金）10:00より福保労会議室にて。

■名北労連旗びらき 1月23日

若井副議長が愛労連を代表して参加し、連帯のあいさつを行った。

■瑞穂区合同新年会 1月23日

西尾議長が愛労連を代表して参加し、連帯のあいさつを行った。

■A i 第73回臨時大会 1月25日

刈谷市産業振興センター401会議室で開催し、代議員・特別代議員・来賓・傍聴などあわせて

143人が参加した。代議員・特別代議員における女性の比率23.5%であった。はじめて方針提案を事務局長だけでなく幹事会から3人の役員が3つのテーマについて補強提案した。発言は27人（内2本は文書発言：単産20・地域5・補助組織2）が行い運動方針を豊かにした。春闘方針や補正予算、役員補充選挙など4つの議案と総選挙勝利をめざす特別決議、2026国民春闘闘争宣言を全会一致で採択した。

■労働相談センター全体会議

1月26日

10人参加（センター相談員7、建交労1、全国一般1、健康センター1）。

新規相談11月＝34件、12月＝40件で25年中は480件（去年は674件）となった。相談内容の共有化。次回は3月25日（水）13：00～15：00、403号室にて。

■中村地域合同旗びらき

1月26日

佐賀事務局次長が愛労連を代表して参加し、連帯のあいさつを行った。

■クール・クライメート事務局会議

1月26日

4月20日（月）の第6回口頭弁論期日について議論し、次回も抽選に外れた方のための動画上映を行うこととした。作品はNHK作成の温暖化の学習教材（<https://sdgs.nhk-ep.co.jp/futurekidtakara/story/>）を上映することとした。前11話（1話6分）あるので、半分ずつ2回に分けて上映する。

6月に碧南火力発電所見学ツアーを計画することとした。

■年金者組合新春のつどい

1月27日

名古屋市公会堂にて年金者組合新春のつどいが行われ470名を超える組合員が集った。コーラスなど多種多様な出し物があった。鏡割で乾杯。あいさつは愛労連西尾議長、愛知社保協小松事務局長が行った。総選挙を前に、改憲阻止、マクロ経済スライドの廃止、年金引き上げ、最低保障年金制度創設、社会保障充実を求めていると会場全体で確認した。

■愛知県公契約条例協議の場

1月27日

委員は6名（愛知県経営者協会専務理事兼事務局長、慶應義塾大学教授、愛知県建設業協会会長、名城大学都市情報部名誉教授（座長）、公認会計士・税理士・行政書士、愛知ビルメンテナンス協会会長、連合愛知副事務局長＝この日は欠席）。権から愛知県公契約条例の取組状況、県内市町村の公契約条例制定状況の説明。

座長が発言し、そのあと、委員全員が発言。愛知ビルメンテナンス会長の吉田氏は最賃について「ハワイは2200円、ドイツは2300円、日本より韓国が高い。ベトナムの実習生の若い人は日本に来ない。日本も最賃を2000円くらいにしてほしい」と述べた。傍聴者4人（うち2人は随行か？）

■春のキャラバン実行委員会

1月29日

9人が参加した。要請書の鏡文について概ね確認した。次回の実行委員会で要請書とアンケートを完成させることとし、分担分を2月19日までに事務局に集中することとした。

■自由で公正な選挙県警への申し入れ

1月29日

5人（救援会3、新婦人1、愛労連1）で県警に申し入れを行った。ビラまきを禁止する告知が集合ポストにあった場合のビラまきも最高裁判決違法とは判断されなかったことなどを踏まえ、選挙活動を萎縮させるような取締はしないよう強調してきた。各団体から憲法や国際人権規約などに照らしての日本の選挙の制約の多さや、実態を踏まえた要請をおこなった。

■オンライン労働学校「学びの森」

1月29日

129期労働学校「学びの森」教室第6回を労働会館会議室で開催した。全体テーマは「ひろがる視野 ぶれない『ものさし』」。全6回で月2回木曜日19時～。第6回は、「私が変わる、社会も変えるー現代日本のせめぎあい」と題し、岡山学習協の長久啓太さんから話を聞いた。労働運動の再生なくして日本社会をよりよい社会にかえていくことはできない、主権者らしい主権者に成長する「不断の努力」を、まわりの仲間とコツコツ続けていくことが必要、などが話された。講義のあとは分散感想交流と4回以上の出席者への表彰がおこなわれた。

■愛知春闘共闘役員会

1月30日

6人が参加した。トヨタ総行動から3月12日の全国統一行動までのとりくみについて確認をした。

■原水協財政部会

1月30日

参加は5人。総会に向けて決算状況と次年度予算について説明を受けた。世界大会や3.1ビキニデーへの参加、事業活動、効率的な財政執行が実り単年度収支は黒字となった。

■第1次最賃デー名駅宣伝

1月31日

名古屋駅前で宣伝行動。19人参加（自治労連3、国公2、建交労2、きずな1、愛教労1、生協労連1、医労連1、名中センター1、名北1、西三河1、事務局6。）全労連作成の最賃ビラ約200枚配布。単産・地域からスピーチ、風が強い中であつたが奮闘。シールアンケートは44人が協力し、時間給で働く方に聞いた「最賃いくりに引き上げるべき」では1300円が8人、1500円が14人、1800円が5人、2000円が7人だった。しんぶん赤旗が取材した。

■消費者大会名古屋市懇談会

2月2日

7名参加。名古屋市側24名参加。第56回消費者大会行政懇談会申し入れ書の回答をもとに、名古屋市との行政懇談会を計2時間行った。消費税率引き下げ、消費者行政体制強化、市主催審議会の開かれた運営、避難所体制強化、再エネ促進、原発政策転換、マイナ保険証廃止、食料自給率の向上・米不足問題、学校給食無償化、名古屋城木造天守閣再建中止、医療費負担軽減、PFAS調査依頼、などについての話し合いを行った。市民のためにも名古屋市職員の正規職員増での体制強化をと訴えた。

■あいち総がかり行動運営委員会

2月2日

12人が参加した。1.19集会は参加者が100人だった。寒さもあるが参加者が減っており今後に向けた意見をフリーに出し合った。2月19日は宣伝なので分担について確認した。3月14日の総会について、講師や準備について確認した。

■はたらく女性の中央集会in愛知 第11回実行委員会

2月2日

オンラインにてつないで開催。「はたらく女性の中央集会in愛知」についての総括をおこなった。来年は11月14日（土）～15（日）に石川県金沢市で開催予定。

■トヨタ総行動トヨタ・グループ企業要請

2月3日

トヨタ本社およびアイシン・トヨタ車体・デンソー・トヨタ紡織・豊田自動織機に対し要請をおこなった。要請書は、トヨタ・アイシン・デンソーが受けとった。価格転嫁のとりくみについてさらなる努力を求めた。トヨタには初めて全労連議長が要請に入った。

■Ai社会的な賃金闘争対策委員会

2月5日

9名参加。1.31の最賃アクション、1.27愛知県公契約に関する協議の場、家計簿生活費調査他、経過報告。全労連個人署名、団体署名の集約状況。最賃審議会労働者委員の任期途中辞任

問題と要請、愛労連署名の最終確認と署名用紙の送付枚数、県知事への要請、4. 9 第二次最賃デーの具体化、4. 17 最低生計費試算調査合意形成会議、次回は3月4日（水）10時～福祉保育労。

■消費者大会愛知県懇談会

2月5日

第56回消費者大会行政懇談会申し入れ書の回答をもとに、愛知県との行政懇談会を計1時間行った。消費税率引き下げ・インボイス制度廃止、消費者行政拡充・相談員の正規化、開かれた審議会運営、最低賃金1800円、労働行政について、自治体職員の非正規雇用を正規雇用へ、避難所運営、マイナ保険証中止、米不足問題、学校給食無償化、再エネ転換について、原子力政策の転換、医療費・介護保険改善、PFAS問題、平和外交などについての要請を行い、話し合いと担当部署への要請を行った。

■愛労連新聞第7回編集委員会

2月5日

オンラインで4人が参加。3月10日号の企画打合せをおこなった。

■原水協69行動

2月6日

金山駅北口でおこない、参加者は自治労連、愛知国公、平和委員会、新婦人、原水協、愛労連の計9人。高市首相が、非核三原則の見直しを求めていることを知っていますかと尋ねると、直ぐに署名するなど、反応はまずまずだった。非核三原則を守り、実行を求める署名が10人ほどから寄せられた。また、行動には、17筆の署名が届けられた。

■9の日宣伝

2月9日

3人参加。選挙結果と憲法「改正」問題でスピーチ、署名は3人の方から。向こうから来てくれた。30代女性「与党がたくさん議席をとって怖い気がする」
40代男性「消費税はなくしてほしい」。支援者らしき方：60代男性2人「国会内では厳しので国会外でがんばらないと」「よく踏ん張った。帰ってはっきりするのでこれから楽しみ。これから飲んで帰る」

■社保協四役会議

2月9日

理事会に向けての打ち合わせを行った。

■第47回トヨタ総行動／早朝宣伝・決起集会

2月11日

早朝宣伝は刈谷駅と三河豊田駅で行われ、それぞれ35人で1925枚、25人で262枚のビラを配布した。名古屋市中区の久屋大通公園・光の広場での「2026国民春闘勝利決起集会」は300人が参加。愛労連の西尾議長、全労連の秋山議長のあいさつのあと、15人（単産・青年協・名古屋市職労・農民連・東京公害患者の会、静岡県評・女性協・パ臨連非正規公務員PJ、検数労連の中央）によるリレートーク、集会アピールを採択し、デモ行進した。デモ行進のコールはBGM付きで、デモを見ていた2人の青年男性に声をかけたら「給料安いので参加します」と飛び入りした。

■尾中地区労連春闘学習決起集会

2月12日

10人が参加した。愛労連の佐賀事務局次長が「2026年国民春闘をたたかうにあたり～総選挙の結果もふまえ～」というタイトルで講演、意見交流を行い、加藤尾中地区労連事務局長による春闘方針の提案され採択した。

■愛知共済会事務局会議

2月12日

共済会事務所でおこなわれ、参加者は、きずな、建交労、JMITU、愛労連、事務局から計7

人。①この間の活動報告、共済の増減、任意共済の給付状況の確認をおこなった。②秋の共済拡大月間のとりくみについて確認した。火災共済の特約加入者は216人となった。③今後の会議日程について事務局会議、理事会、総会の日程を決めた。

■母親大会名古屋市要請行動

2月13日

17名参加。名古屋市側19名参加。第71回愛知母親大会にて採択された大会決議に盛り込まれた母親・女性の切実な要求を名古屋市政に反映するための要請を行い、その回答をもとに計2時間懇談を行った。消費税、年金、障害者施策の充実、米問題、マイナ保険証、教職員の定員増・正規化、給食無償化、子どもの居場所作り、最賃、ジェンダー問題、原発問題、核兵器禁止条約署名批准、名古屋港の軍事利用について、など話し合いを行った。

■安保法制違憲訴訟控訴審原告尋問

2月13日

控訴審での原告尋問が行われ7人が証言に立った。それぞれがこれまでの人生や経験を振り返りながら、安保法制によって被った精神的被害を証言した。愛労連の竹内事務局長も原告の1人として証言台に立ち、安保法制のもとですすめられる有事体制の具体化について労働運動の現場実態と視点から苦痛を訴えた。

■憲法と平和を守る街宣A

2月14日

愛知国公2、検数労連1、名中1など合計11人が参加した。寒波後の暖かい日だったからか人通りも多く、いつもよりチラシの受取りが多かった。

■名労連結成スタートアップ集会

2月15日

労働会館本館で「名労連（仮称）結成に向けたスタートアップ集会」が行われた。参加は単産（単組・支部）31人、地域組織から17人、事務局など総勢55人。司会は、愛知国公事務局次長の青山浩さんが努め。竹内愛労連事務局長が「経過報告と加入に向けた説明」を行ったのち、グループ討論で「モヤモヤ」を出してもらった。会費、それぞれの組織の解散の時期と手続き、役員はどうなるかなどのモヤモヤが出された。竹内事務局長は、こうした意見を受けて、3つの視点で報告しました。

①会計については、5月30日の結成に向けて何組織と何人の組合員が加入するかで予算を考えることになる。②意思決定の機関として大会、評議員会、幹事会が考えられ、必要に応じて代表者会議の配置も考えられる。専従者の配置については現段階では組合費の納入人数がわからないので確定できない。③地域組織の解散のタイミングは、当日の午前を予定ところもあるが、5月30日前後で考えていただければよいのではないかな。

全体討論では、「数の力を背景に要求でたたかって行くという期待は大きい」「選挙は心配な結果になったが、組合はここにあり。組織拡大にもつなげたい」「区に限った運動をしてきたが、名古屋という地域で一緒にがんばれるのは嬉しい。生みの苦しみはあるが名労連に期待している」など結成に向けた機運の高まりを示す発言が続いた。

■愛知県原水協定期総会

2月15日

民主会館とリモートを併用しておこなわれ43人が参加。学習会は、被爆者支援ネットの長尾忠昭さんが話し手となり、被爆体験を語り継ぐとりくみが紹介された。高校生平和ゼミナールから募金の訴え、愛友会理事長の金本弘さんからの挨拶後、総会がおこなわれ運動方針が提案された。今年は被団協70年、NPTにも代表派遣をおこなう、高市政権となり大軍拡の道を進もうとしている今こそ、非核・平和の日本に、と訴えられた。決算報告・予算提案・採択の後、70分程討論がおこなわれた。労働組合が平和運動にとりくむ大切さなどが発言されるなど、各地域や団体から多彩な発言があった。

■クール・クライメートあいち事務局会議

2月16日

6人が参加した。3月8日の原発ゼロ名古屋アクションへのブース出展、4月6日の第6回口頭弁論、6月6日に計画する碧南火力発電所見学ツアーについて議論した。見学ツアーについては大型バスを出すこととし、40名規模でとりくむこととした。次回の事務局会議は3月19日(木)午後2時から愛労連応接室およびオンラインにて。

■社保協理事会

2月16日

保険医協会伏見会議室でおこなわれ、参加者は19人。①春の通常国会に提出する各署名について確認し、推進のための宣伝行動の日程を確認した。今後OTC類似薬の保険外しをさせない署名が始まる。また、「国の責任でゆきとどいた社会保障制度の実現を求める国会請願署名(仮)」も7月以降1年間とりくまれる。②介護の課題について、この間のとりくみについて報告された。今後は介護署名の提出行動が3月18日、5月26日に予定。③子ども子育て支援の課題について、子ども子育て支援金制度をめぐる署名が始まり、要請行動が3月2日におこなわれる。④生活保護の課題について、最高裁勝利報告集会が3月29日に開催される。また、最高裁勝利後の厚労省の対応について、訴訟も視野に運動が検討されていると報告された。

■Ai女性協第7回幹事会

2月18日

6人が参加。とりくみの振り返りと各組織の活動報告、今後のとりくみなどを話し合った。女性の休日映画上映会について担当決めなどをおこなった。

次回幹事会は、3月18日(水) 19:00～ @愛労連応接室

次々回幹事会 4月15日(水) 19:00～ @愛労連応接室

■メーデー実行委員会

2月18日

労働会館東館403会議室およびリモートでおこない、参加者は国公、自治労連、うたごえ、東海共同、愛労連から計8人。① 第97回愛知県中央メーデーの会場を「ヒサヤオオドリパーク テレビトーヒロバ」(名古屋市中区栄・テレビ塔北エリア)とする。② 財政について、参加組合・団体の会費について一人あたり50円とする。③ 実行委員会役員について、昨年と同じ組合・団体に要請する。④ 集会の議長団を生協労連(男性)、愛高教(女性)に要請する。⑤ デモ行進は2コースで実施し、コースについては検討し、次回具体案を示す。⑥ 今後の実行委員会の会議日程について、第2回実行委員会は3月27日(金)18:30から、第3回実行委員会は4月21日(火)18:30からとした。

■全労連第14回幹事会

2月18日

リアルでの1日開催となった。午前中は、コミュニティ・オーガナイズ・ジャパン(COJ)講師で「ちやぶ台返し女子アクション」の中村果南子さんを招き、「ハラスメントをなくす第三者介入ワークショップ」を90分かけて行った。全労連としては職場におけるハラスメントだけではなく、労働組合活動におけるハラスメントをなくしていくために全国で100カ所の開催を目標に推進していく。

会議では、2.26 国民春闘の山場に向けた方針の補強と具体化について議論した。「レバカレ」の次回開催についての議論は、全国的に議論が追いついておらず、次回の幹事会で行うこととした。

■社保協宣伝

2月18日

東別院交差点でおこなわれ、医労連、民医連、保険医協会などから参加者は約20人。OTC類似薬の保険適用除外拡大に反対する署名や保険証復活を求める署名など社保協のとりくむ各署名への協力を呼びかけた。

■社保協地域医療委員会

2月18日

医労連会議室でおこなわれ、参加者は医労連、全医労、国公、民医連、社保協、愛労連の計6人。
①医療・介護の賃上げ状況、「11万床削減」状況などが報告された。病床削減については、医労連と全医労が情報公開請求などおこなったことなど報告された。②県内の再編・合理化状況について確認した。県内における名市大の拡大などが報告された。③今後のとりくみについて、5月17日の東海自治体学校で地域医療分科会をおこなうことなど確認した。また、次回会議は5月27日10時からとなった。

■単一協議会幹事会

2月18日

労働会館の修繕が加速している。エアコン故障によりあらたに5台の買い換えが必要。エレベーターの修繕で本館がベルトの交換、東館が本体の交換を行う。今年度の忘年会場所の検討を行った。次の床掃除が5月6日に実施される。

■大軍拡・増税NO！連絡会連続学習会第1回

2月18日

東海大学の永山茂樹教授が「憲法九条平和主義をアジアの中で考える」と題して講演。
第1回を2月17日（火）18時より開催し、124人が参加した。総選挙結果を踏まえて、今後の運動の力にする連続学習会の第1回目として位置づけられ、議席数とは裏腹に、世論調査では改憲への関心は極めて低く、物価高対策などの暮らしの充実が求められている。永山氏は、アジアの視点から見る平和主義と立憲主義について触れながら、憲法9条の平和主義を日本国内の問題としてだけでなく、アジア全体の問題として捉え、議論することの重要性を示唆した。憲法に「軍」や「自衛隊」を書き込むことは、軍事に「公共性」と「正当性」を付与することを意味し、それによって現在は否定されている軍事を理由とした人権制約や財政支出が原則的に可能となり、180度転換してしまう危険性を指摘。日米同盟基軸からの脱却こそが平和秩序の構築だと話した。

■3. 8国際女性デー実行委員会

2月18日

3人が参加。女性の休日映画上映会について当日の流れや準備などについて話し合った。
昼の部は上映会と感想交流（The Clotheslineワークショップ）、その後街宣、夜の部は上映会と山本恵子さん（元NHK解説委員）のミニトーク&感想交流会をおこなう。

3月6日（金）昼の部 13：30～15：30 @労働会館本館会議室
街宣 16：30～17：30 @金山駅北口
夜の部 18：30～20：30 @労働会館本館会議室

■春の自治体キャラバン実行委員会

2月19日

9人が参加した。要請書・アンケート項目・議会陳情書への議論を行った。新たに氷河期世代の中途採用者の低賃金や将来の低年金問題についてアンケートに盛り込む事とした。また、議会陳情では、最賃引上げについて県知事が積極的な要望を行うよう求める意見書も取り入れることとした。

■サマセミブロック実行委員会

2月19日

リモートでおこない、参加者は石川2、静岡2、福井、愛知2の計7人。①昨年開催された第32回サマセミの記録集の作成について、進捗状況を確認した。遅くとも5月ごろの完成をめざす。②今年石川県内で開催される第33回サマセミについて、内容の具体化をおこなった。3日間の構成、各県の担当パートを決めた。次回、各パートのたたき台を持ち寄る。次回ブロック実行委員会は3月19日。

■あいち総がかり行動一斉街宣

2月19日

栄・名古屋駅・金山で一斉宣伝行動を実施した。金山総合駅には20人が参加。総選挙後の情勢を受けて、参加者がそれぞれ高市政権の戦争する国づくりに反対する訴えを行った。

■A i 青年協幹事会

2月20日

リモートでおこない、参加者は医労連2、建交労、福保労、愛高教、愛労連の計6人。主に今後のとりくみについて協議した。①3月8日の学習交流会について、具体化をおこなった。次第、グループワークの内容・やり方、学習のあとの交流会についてなど決めた。②4月11日の春の交流会について具体化した。とりくみの内容、全体のスケジュール、参加費など協議した。石川県からDJを招聘し、労働組合をさらにかっこよくするための話し合いなどをおこなう事とした。③5月10日の新歓☆地引き網ツアーにつちえ参加費や天候不良時の代替案など協議した。

■2026国民春闘勝利愛知自動車デモ

2月22日

愛知自動車デモ出発集会・パレードを近物レックスにて開催した。全産業水準の賃金・労働条件への到達で安全安心な子関運輸産業を求めて声をあげた。愛労連から西尾議長が参加をした。谷藤副議長、尾崎幹事、加藤勇幹事が主催・参加した。

■3. 1ビキニデー愛知県代表団会議

2月22日

被災72年2026年3・1ビキニデー愛知県代表団会議が現地参加とオンラインにて民主会館にて開催された。代表理事の大村義則さんから「日本被団協結成70年 被爆者とともに戦争も核兵器もない世界めざして 3. 1ビキニデー成功させよう」と題して講演が行われた。ビキニ被災から72年、歴史を学び、核兵器禁止条約の輪が広がるもとで高市政権で「非核三原則」見直し議論が検討され、台湾有事の発言をめぐり、自衛隊が米に「核の脅し」要求をしたことが明らかになり、日本側から核の使用を申し出ることを初めて明文化されるなど、核抑止力が強まっている。「戦争は外交の失敗である、軍備増強は本末転倒。」と話し、今年のビキニデーの位置づけの大きさが語られた。代表理事で愛労連西尾議長が参加代表としてのあいさつを行った。司会は寺田代表理事（愛高教）が行った。参加は全体で30人。愛高教2、JMITU1、国公1、事務局1が参加した。

■わくわく講座スクーリング&A i 組織拡大強化推進委員会

2月24日

オンライン含め20人が参加。わくわく講座のスクーリングとして、全労連副議長・全労連女性部長の高木りつさんから「労働組合と私」と題した話を聞いた。グループで分かれての対話交流を含めた学習会をおこない、少人数を活かして、労働組合の大切さをしっかり話し合うことができた。

次回委員会&わくわく講座閉校式 3月25日（水）18：30～ @労働会館本館会議室

■愛知共済会理事会

2月25日

労働会館東館409でおこなわれ、参加者はきずな2、JMITU、建交労、全国一般、自治労連、愛労連、事務局2の計9人。①報告事項として、この間の共済の増減、給付実績、2月に行われた全国交流集会などが報告された。②秋の拡大月間の総括と春の拡大月間にむけての協議をおこなった。秋からの重点課題であるおうちの安心共済の特約加入について、おうちの安心共済加入者の約25%となっていた。春の月間についての目標を確認した。また、学習会・講習会をおこなった際の全労連共済からの補助金が3000円から4000円に引き上げられた。③共済会ニュースの発行に向けて協議した。3月中旬の発行をめざし、内容の具体化をおこなった。

■春の地域総行動

2月26日

県内各地域でとりくみ、早朝宣伝を軸に行動した。東労連とあつた労連がとりくみを具体化することができなかった。

■消費税・インボイス廃止請願県議会請願提出

2月26日

■全医労・全国統一宣伝行動

2月27日

全国統一ストライキを前にした団交で前進回答を引き出したことからスト回避となったが、早朝の宣伝行動を実施した。名古屋と豊橋でも実施され、支援参加もたくさんあった。

■第2弾最賃国会議員要請

2月27日

今回の衆議院総選挙で新たに当選した議員などを訪問し、全国一律最賃署名の紹介議員を引き受けてもらえるよう要請をおこなった。

■第27回あいち社会保障学校

3月1日

労働会館東館ホールとリモートでおこない、参加者は約80人。愛労連内組織からは、自治労連、医労連、年金者組合、福保労、生協労連、国公、金融ユニオンから参加があった。福井県立大学の北明美名誉教授による記念講演「社会保障を切り捨てる『手取り増』論の欺瞞」、2025あいち自治体キャラバンのまとめ、会場からの報告（医療・介護、生活保護裁判、保育、自治体職場の状況、障害福祉のとりくみ・オンライン署名）がされた。

■3. 1ピキニデー集会

3月1日

3.1ピキニ事故から72年。2026年ピキニデー現地への愛知県代表団の参加はのべ141人。国際会議に8人、東富士基地オプショナルツアーに13人、日本原水協全国集会49人、3.1ピキニデー集会70人、オンライン参加75人の愛知からのべ141人が参加した。

27日の国際交流会議ではアメリカ、フランス、コスタリカ、韓国、日本の代表から報告があった。世界の安全保障がアメリカとロシアなど核大国によって蹂躪されている。力の秩序に置き換えられ、いかに阻止するか国を超えて力を合わせる事が重要との内容だった。28日は午前には東藤基地オプショナルツアーへ、午後から日本原水協全国集会が開催された。草の根の運動交流でNP T再検討会議参加の代表団が登壇した。愛知からは金本弘愛友会理事長、福祉保育労2名も登壇した。福島県浪江町は被災15年たった今も除染がすすめられておらずふるさとを奪われた悲痛な実態が明らかにされた。愛知県代表団も登壇し、代表委員で西尾議長が愛知の反核・平和運動を報告した。3月1日は午前には焼津駅から弘徳院まで墓参行進し久保山愛吉さんの墓前祭を行った。全体集会には愛知参加者からの報告が行われ、運動、学習、交流を行った。「あのピキニ署名のように」を合言葉に、国民的な共同の行動とし非核の日本を実現しようと呼びかけられた。エバーグリーン静岡の高校生や環境活動家の武元匡弘さんからの特別報告など内容は多岐に渡り草の根の運動への確信を深め強めていくことが確認された。

■A i ケア労働対策委員会記者会見

3月2日

記者会見では、政府の賃上げ施策では不十分な実態を訴えた。豊橋市職労病院支部、北医療生協労組、みなと福社会分会、天白共同学童センターから現場に従事している直接の声を訴えた。

愛知県労働福祉課を通して、5単産と愛労連の連名で「ケア労働者の大幅賃上げ・賃金格差是正および報酬改定10%以上を求める――誰もが安心して働き、暮らし続けられる愛知県政の実現に向けた要請書」の提出を行った。要請内容についての懇談は4月下旬から5月にかけて行う予定。翌日の中日新聞が報道した。

■あいち総がかり行動運営委員会

3月2日

オンライン参加を含め15人が参加した。3月

■A i 編集委員会

3月2日

オンラインで3人が参加。4月10日号の企画打合せをおこなった。

■米とイスラエルによるイラン攻撃に抗議行動

3月2日

愛知県平和委員会、安保破棄愛知県実行委員会は、トランプ米政権がイスラエルと共に、イランに対する大規模な軍事攻撃を開始したことに対して名古屋市の栄で昼休み抗議行動を行った。参加者からスピーチ。反米政権とみなし主権国家を武力で転覆してしまうという、国連憲章や国際法に違反する侵略戦争であると訴えた。33人超が参加。中日新聞と赤旗が報道した。

■愛知県知事選挙1年前スタート集会

3月3日

来年2月に予定される愛知県知事選挙に向けて、革新県政の会がスタート集会を開催し、25団体・3地域から46人が参加した。

集会では、日本共産党県議団の山口事務局長と川口創弁護士が情勢報告を行い、県の来年度予算の問題点や米・ニューヨーク市のマブダニ市長誕生の背景や取り組みについて学んだ。討論では各分野から現状と県政革新の必要性について語られた。

■A i 社会的な賃金闘争対策委員会

3月4日

7名参加（3名は中央行動）。ミニ学習（愛知県最低賃金改定理由の比較検討＝浅生）、前回以降の経過（地元国会議員の要請など）、全労連署名・団体署名の集約状況、賃金課回答（3月25日、930～1000：審議委員の任期途中辞任問題への要請にかかる）、家計簿で生活費調査集約と合意形成会議（4月17日 20時～）、愛労連署名の団体要請（4月23、24日で調整）、全労連最賃デー（4月9日18時から使用の1800円Tシャツ作成）、次回委員会（4月13日の週で調整）。

■非正規公務員の人事評価を問う院内集会

3月4日

新たな政権の枠組みとなり「ジェンダー平等」のバックラッシュが懸念されるもと、非正規公務員の当事者による団体「非正規公務員ヴォイセズ」などが主催する「非正規公務員の人事評価を問う院内集会」に、非正規公務員1万人プロジェクトとして全面的に協力を行い、院内集会の企画・運営を後ろ支えした。参議院会館の会場は、予想を大幅に上回る100名を超える参加者で超満員となり、国会議員・秘書、多くのメディアが参加・取材した。なお、YouTube同時配信の視聴者数は500名を超え、関心の高さが裏付けられる結果となった。愛労連からは柴田副議長（愛知国公）、佐賀事務局次長、自治労連・建交労（各1名）の4名が参加した。

■2026春闘勝利！3・5中央総決起行動

3月5日

愛労連から西尾議長・佐賀事務局次長、知多労連1名、（春闘共闘会議（名高教）1名）が参加しました（単産からの参加者は除く）。午前の「最賃署名地元議員要請」では、日本維新の会の関健一郎衆議院議員事務所を訪ね、議員本人と面談しました。午後からは、カモメ広場（旧人事院前）に場所を移しての総決起集会、星陵会館での意思統一集会を経て、それぞれの単産が企画する国会行動に参加しました。

■社保協宣伝

3月5日

八事興正寺前でおこなわれ、参加者は年金者組合、民医連、保険医協会など12人。マイナ保険証一本化反対署名、介護署名、OTC類似薬保険外し拡大反対署名などとりくんだ。

■革新市政の会市施設利用料等値上げ反対宣伝

3月5日

革新市政の会が名古屋市積書前で市民サービスや福祉の後退を許さず、市民の暮らし最優先の市政を求めて抗議宣伝を行い44人が参加した。

名古屋市は来年4月からの生活保護利用者への水道料金減免の廃止（今年は国の補助金で維持）や名古屋城や動物園をはじめあらゆる施設やサービスの利用料などの値上げを予算化しており抗議しました。

■国際女性デー非正規公務員制度はジェンダー不平等の象徴記者会見 3月6日

非正規公務員1万人プロジェクトは、国際女性デーを前に3年連続で「非正規公務員制度はジェンダー不平等の象徴記者会見」を開催しました。社会的発信として、①「トイレに行ったら雇止め」、②「5年経ったら雇止め」などを例示し、県内自治体で起こっている違法行為と脱法的運用の実例を告発しました。記者発表に先立ち、3月3日には県内すべての自治体首長に宛て「会計年度任用職員の処遇改善と雇用の安定を求める緊急の要請書～自治体での「ジェンダー平等」の実現、「男女の賃金格差」の是正に向けて～」を送付しました。会見に臨んだのは、愛労連から西尾議長と磯村幹事、自治労連から2名、建交労から2名、はむねっと渋谷典子監事の7名。運営側として愛労連事務局・愛知国公が参加しました。なお、取材は中日新聞・朝日新聞・しんぶん赤旗、WEBでNHK名古屋放送局・ジャーナリストの小林美希さんが参加され、3月8日付朝刊で、「国際女性デー」特集として、「中日新聞」「朝日新聞」が会見の様子を報じました。

■「女性の休日」映画上映会&交流会&街宣 3月6日

2026年3月6日、日本でも1975年にアイスランドでおこなわれた「女性の休日」を！と全労連女性部の呼びかけに、愛知でも映画上映会と交流、街宣などがとりくまれました。昼の部、映画上映とジェンダー見える化ワークショップに約200人、夜の部、映画上映とジャーナリストの山本恵子さん（元NHK解委員・ジェンダー・男女共同参画担当）ミニトークには約120人、二部の間に行われた金山駅街宣には約30人が参加するなど、対話交流の時間もあり、多数の参加で盛り上がった。各地でも様々なとりくみがおこなわれ、ジェンダー平等について日本全体で考えられた日となった。

■長距離ミサイルを作るな！配備するな！3.7小牧集会 3月6日

敵基地攻撃用長射程ミサイルを製造している三菱重工小牧北工場のある小牧市内のまなび創造館で開催され310人が参加した。主催は愛知県平和委員会や不戦へのネットワークなど6団体による実行委員会。集会には長射程ミサイルの配備が狙われている熊本と静岡の代表も参加しました。

■原発ゼロNAGOYA ACTION 3月7日

名古屋市中区の矢場公園で開催され約200人が参加した。集会では、各地で脱原発の運動にとりくむ団体がアピールした。原発をなくす愛知の会の松田正久代表世話人は、中部電力の浜岡原子力発電所の西海道をめぐる基準地震動データねつ造を批判。中電は原発を動かす資格はないと述べ、原発再稼働を絶対に許さないと訴えました。

集会後、参加者は買い物客でにぎわう大須周辺を「平和のために原発とめよう」と訴えてデモ行進しました。

■A i 青年協春闘決起交流集会 3月7日

労働会館本館でおこない、参加者は医労連2、自治労連2、福保労、生協労連、愛労連の計7人。生協労連東海地連の森野書記次長を講師に給与明細のみかたなどを学んだ。講演後はグループワークで自分の賃金について最賃や平均との比較、26春闘での自身の要求や実現するための決意などの語り合いをおこなった。

■9の日宣伝 3月9日

金山駅北口でおこない、参加者は愛労連、革新愛知の会、共産党から計5人。現在のイラン情勢などから平和の大切さなどを訴えた。

■社保協四役会議 3月9日

労働会館東館403でおこなわれ参加者は7人。理事会にむけて主要課題の協議をおこなった。①署名については、保団連の提起したOTC類似薬の保険外し反対署名、中央社保協新年度から始ま

る社会保障拡充を求める署名について協議した。②この間の宣伝行動について確認した。4月は宣伝行動を配置せず、5月1日のメーデーなどでとりくむこととした。③介護について、介護保険料の逆進性についての小規模の学習会をおこなうこととした。④2026年秋の自治体キャラバンの名古屋・愛知県との交渉日程を確認した。

■第52回東海自治体学校実行委員会 3月9日

5月17日に名城大学で開催する「第52回東海自治体学校」実行委員会が自治労連で開催された。愛労連は、昨年に引き続き「愛知の産業構造とジェンダー平等」の分科会を担当する。

■最賃国会議員要請（日野議員） 3月10日

衆議院選挙後に懇談することとなっていた国民民主党日野さりあ事務所を、佐賀事務局次長と青山さん（愛知国公）で訪問した。議員秘書との懇談では、議員が関心を抱く「愛知のジェンダーギャップ」についてが話題となり、ケア労働の賃上げがすすまないこと、最低賃金近傍で働く労働者の多くが非正規女性であることなどで意見を交わした。愛労連には、ケア労働者や保育運動、（長久手市と立地では）コープあいち労組など、懇談を準備できる環境があることを伝えた。

■Ai四役会議 3月10日

愛労連新聞コラムや、あいさつの確認。・春闘の回答状況について報告。ガソリン代の高騰が懸念事項。医労連ベアゼロへのスト実施と支援。JMITU2支部スト。・愛労連役員体制の補強について議論。・中京非正規ユニオンハゲ天支援する会共同代表に西尾議長の配置を確認。

■JMITU川本製作所支部ストライキ 3月10日

好業績をつづける川本製作所ですが、労働者への分配は不十分な水準に留まったままです。26春闘の賃上げ交渉では、初任給一辺倒だった賃上げ原資の配分を見直させ、全職員が対象となる一律4万円のベースアップという画期的な回答を引き出しました。しかし、これまでの抑制額とベースアップ額との不均等、合わせて会社側がそれとバータで提案する夏期一時金0.3ヵ月削減に固辞したため、川本製作所支部はストライキを敢行する判断を行いました。ストライキには、愛労連と各単産・地域から檄が届けられ、佐賀事務局次長が連帯と激励に駆けつけました。

■「特定利用港湾」早朝宣伝・集会・デモ 3月11日

名古屋港の特定利用港湾指定に反対する宣伝行動、集会、デモ行進が名古屋駅周辺でおこなわれた。参加は自治労連、検数労連、国公、平和委員会、原水協など延べ50人。特定利用が軍港化・兵站基地につながり、有事の際に攻撃対象となるなど危険性から、特定利用反対を訴えた。

■だまっちゃおれん!3.11屋外集会・デモ 3月11日

だまっちゃおれん原発事故人権侵害訴訟の主催で開催され130人が参加した。集会には東海地方の原発問題などにとりくむ団体や市民が集まった。集会後、参加者は「原発事故は終わっていない」とデモ行進を行った。

■医労連・国共病組東海ストライキ 3月12日

1人が15分間のストライキを決行した。16人が支援に駆けつけた。

■医労連・国共病組名城ストライキ 3月12日

1人が29分間のストライキを決行した。13人が支援に駆けつけた。名城病院前でとりくんだストライキ集会の支援には、愛労連事務局、自治労連・愛知国公・生協労連・福祉保育労・名古屋市職労などが駆けつけた。愛労連を代表して佐賀事務局次長が連帯と激励のあいさつを行った。

■医労連・名南会労組ストライキ**3月12日**

5人が1時間のストライキを決行した。13人が支援に駆けつけた。若い組合役員が奮闘した。

■医労連・南医療生協労組ストライキ**3月12日**

3人が1時間のストライキを決行した。15人が支援に駆けつけた。ベア回答なく、南生協病院前でやる初めてのストライキ。応援や休憩中の参加含め、当該労組からは8人が参加。愛知国公の中部国際空港の組合からは、夜勤明けで駆けつけてくれ、「医療も管制官も、マンパワーが足りないのはミスになる。職員増やしてというのは共通」と激励のあいさつがあった。若い組合役員が奮闘。

■医労連・みなと医療労組ストライキ**3月12日**

5人が1時間のストライキを決行した。16人が支援に駆けつけた。みなと医療生協病院前で開催したストライキ行動には、愛労連事務局、建交労・生協労連・愛高教・JMITU・年金者組合、港地区労などが駆けつけた。愛労連を代表して若井副議長が連帯と激励のあいさつを行った。ストライキの様子はCBCが取材し、ニュースのなかで紹介した。

■JMITU通信産業本部愛知支部ストライキ**3月12日**

1人が1時間のストライキを決行した。11人が支援に駆けつけた。

■全国統一行動名古屋駅アクション**3月12日**

参加は43人（福祉保育労10、生協労連4、愛高教4、国公3、医労連3、建交労2、検数労連2、自治労連1、愛教労1、タクシー1、東海法労1、JMITU1、千種名東1、名中センター2、事務局5）。この日指名ストの集会（医労連・JMITU）と福祉保育労のなかまの動画をプロジェクターで映した。参加者からのスピーチ、愛労連最賃署名、シールアンケート、ティッシュ入れのビラを約1000配布した。しんぶん赤旗が取材した。

■全国一般回答促進要請（ナトコ・東信化成）**3月13日**

ナトコペイントおよび東信化成への要請を行った。いずれも賃上げには前向きな意思が表明されたが、イラン情勢をめぐって4月には生産が止まるかもしれないという危機感も表明された。

■2026第1回全労連春闘回答速報番組YouTube**3月13日**

国民春闘共闘・全労連2026春闘賃上げ春闘番組が行われた。ナビゲーターに黒澤事務局長、高木副議長、コメンテーターに中澤静岡県立大学短期学部准教授、回答速報を稲葉幹事が行った。医労連道東勤医協、福祉保育労あゆみ分会、日本医労連、建交労、首都圏青年ユニオン、生協労連関連一般労働組合関東、JMITU、愛労連から西尾議長が発言した。アメリカ・ニューヨーク州看護師協会1万5千人が賃上げを求めて闘い抜いたビデオメッセージが報告された。

■名労連設立準備事務局会議**3月13日**

7人が参加した。スタートアップ集会の振り返り、地域組織の解散と加入手続きの方法論、地域協議会の運営と財政課題、加入申請書の作成と呼びかけ強化について議論した。愛労連幹事会に加入の呼びかけと加入書を出し、各産別から提出してもらうようによびかける。

■重税反対統一行動・税と社会保障を考える懇談会**3月13日**

愛労連も参加する「消費税をやめさせる愛知連絡会」が、第57回3・13収税反対全国統一行動にとりくんだ。午前で開催された「今こそインボイス廃止！消費税引き下げを！各界懇談会」（市労連会議室）に始まり、国税局までのアピール行動、午後の「国税局交渉」まで、一連の行動に加盟団体とSTOP！インボイスの会などが参加した。愛労連からは、午前の行動に佐賀事務局次長が参

加し、春闘の状況などを報告した。

■東海自治体問題研究所 産業構造研究会

3月13日

愛労連から東海自治体問題研究所産業構造研究会に佐賀事務局次長を派遣している。今回の研究会の主なテーマは、第52回東海自治体学校で研究が運営する「愛知の産業構造とジェンダー平等」分科会の運営について。愛知の「男女の賃金格差」に是正がみられないとの報道がなされるなか、NPO参画プラネットにも協力をいただきつつ、改めて労働者の視点から「ジェンダー平等」を考える企画をすすめています。各単産にも協力をお願いします。

■A i 青年協幹事会

3月13日

リモートでおこない、参加者は医労連2、建交労、福保労、愛高教、愛労連の計6人。①3月8日の春闘交流会の振り返りをおこなった。②4月11日の春の交流会についてスケジュールや内容など具体化をおこなった。③5月10日の「新歓☆地引き網ツアー」について内容や、天候不良時の代替案など協議した。④その他、青年協ニュース、春闘のとりくみなど確認した。

■憲法と平和を守る街宣A

3月14日

名古屋市中区栄・メルサ前でおこない、参加者は国公、自治労連、医労連、名中センター、年金者組合など10人ほど。イラン情勢からの平和の大切さや、O T C 類似薬の保険外しなどを批判し、軍事費でなく私達の生活に関わることに税金が使われるべきなどと訴えた。

■あいち総がかり行動総会&講演会

3月14日

名古屋市教育館で開催され111人が参加した。記念講演には、新潟国際情報大学の佐々木寛教授を招き「総選挙後の情勢と運動の課題」をテーマに学んだ。佐々木教授は、今ある政治と日本の危機について平和・エネルギー・ジェンダーギャップ・教育などの点から指摘し、民主主義の根っこを地域と市民の力でつくりなおすことをよびかけた。

■京都府知事選挙支援行動

3月15日

自治労連愛知県本部および愛労連から29人が参加した。現地での意思統一集会の後、3～4人でグループをつくりハンドマイク宣伝を行った。

■春の自治体キャラバン実行委員会

3月16日

8人が参加した。要請内容、議会陳情書および意見書案について最終確認し、さらなる変更や未提出分については16日中に提出することとし、18日までは各自治体に発送することとした。議会陳情で住民しか受け付けない自治体への窓口依頼を分担した。要請内容の解説、事前チェックシート、懇談レジュメについては次回の実行委員会までに各担当がまとめることとした。

■社保協理事会

3月16日

保険医協会伏見会議室でおこなわれ、参加者は医労連、自治労連、国公、年金者組合、福保労、民医連、保険医協会などから計16人。①各団体からの報告で医労連などから春闘のとりくみが報告された。②署名のとりくみについて、保団連の提起したO T C 類似薬の保険外し反対署名、中央社保協新年度から始まる社会保障拡充を求める署名について提案された。②介護について、3月18日の介護署名第2次提出行動について参加者など確認した。③その他、健康保険証存続のたたかい、国保改善、高額療養費などのとりくみについて確認した。④例年の秋でなく6月に開催される愛知高齢者大会について紹介された。

■3. 8国際女性デー愛知県集会実行委員会

3月17日

4人が参加。女性の休日映画上映会についての振り返りと会計報告をおこなった。とても良い企

画だった、女性たちが立ち上がり声を上げ権利を勝ち取る姿に元気が出た、感想交流もよかった、などの好評を得た。今後も、女性の休日や国際女性デーのとりくみがあれば続けてほしいとの要望もあった。

■ハゲ天裁判・支援する会結成総会

3月18日

中京非正規ユニオン（西三河労連加盟）組合員で飲食チェーン店ハゲ天に解雇され解雇撤回を求めて裁判を闘う戸田さんを支援するための「戸田さんを支援する会」結成総会が3月18日に労働会館本会に7名、リモート4名の計11名で開催された。共同代表には猿田正機さん（前健康センター理事長・中京大学名誉教授）と愛労連西尾議長が選出された。総会では、共同代表2名から労働組合を嫌悪する不当解雇撤回へ力を尽くそうとあいさつが行われた。弁弁護団の田巻紘子弁護士の報告文書を後藤事務局長が説明、原告戸田さんの訴えなどがあり、規約・役員体制の確認、行動提起が行われた。会への加入、裁判所への署名のとりくみ、裁判傍聴への呼びかけが行われた。

■A i 女性協幹事会

3月18日

5人が参加。とりくみの振り返りと各組織の活動報告、今後のとりくみなどを話し合った。女性協総会を7月12日（日）午後とすることとした。5月20日の東海大王製紙パッケージ労組ハラスメント裁判への支援を呼びかけた。

次回幹事会は、4月15日（水）19：00～ @愛労連応接室

次々回幹事会 5月13日（水）19：00～ @愛労連応接室

■安保破棄実行委員会

3月18日

5人参加。経過報告として、特定利用港湾に反対するとりくみとして地域での学習会、3月11日は名古屋港大行動（50人参加）、ミサイル配備反対3・7小牧集会（310人）＝両行動ともメーテレ報道。情勢学習、4月23日の総会の議案討議を行った。

■全労連地方選出幹事打ち合わせ

3月19日

全労連事務局を含め11人が参加した。今年度の地方労連事務局長交流集会開催に向けた議論を行った。交流集会は、6月3日（水）13：30からオンラインで開催することとした。テーマは組織拡大に向けて地方単産と地方組織の関係づくりや地方組織がオルガナイザーのトレーニングセンターとして生まれ変わっていくことを位置づけることとした。

詳細については4月13日（月）にもう一度打ち合わせを持つこととした。

■愛知共済会事務局会議

3月19日

共済会事務所でおこなわれ、参加者はきずな2、建交労、JMITU、愛労連、事務局2の計7人。
①この間の共済の増減、給付の実績を確認した。②春の月間について確認した。また、年金者組合へのオルグ、建交労学童保育支部へのオルグについて協議した。③総会にむけて規約などの見直しを進める件について、総会の総代定数、総代選出基準の見直し案を自秋事務局会議に提案されることとなった。

■令和の百姓一揆名古屋の陣

3月20日

パレードの後、学習会・基調講演は関根佳恵・愛知学院大学教授が「農業・食料政策の大転換―小規模・家族農業によるアグロエコロジー支援へ―」と題し講演した。アグロエコロジーとは食料自給率の低下といった課題に対し、生態系との仕組み、調和による農業の実践の必要性が語られた。フランスの職の社会保障制度の試みは、食を単なる「商品」ではなく、誰もが享受すべき「人権・社会資源」と捉え制度化されている取り組みが報告された。日本が目指す方向として小規模・家族農業への転換などが挙げられ、アグロエコロジーを基盤に自給率38%を打破する大きなヒントが語られた。

■愛知県消費者大会講演会

3月21日

ウインクあいちにて開催。50人が参加した。名古屋大学名誉教授 池内了さんの講演「原発は、今・・・電力事情と原発推進政策」を聞いた。世界と日本の電力事情、原発の不採算性、事故後の影響、電力会社のデータ捏造問題などから、原発推進に走らず、再エネなどの循環型社会を目標に。日本の技術者が、職業論理に合わせて人々の幸せのために技術を活かしているか、と問いかけた。事故から年数が経ち、原発の危険性を人々が忘れかけている、自分を戒めるとともに呼びかけを続けなければと話された。

■全国一般アクリル爭議支援共闘会議

3月23日

オンラインを含む10人が参加した。2月19日に中央労働委員会の小暮労働者委員が来名し、懇談を持った音が報告された。懇談では、都労委の命令に対して組合がどう感じているのか、裁判では地位確認の問題について判決内容は分かっているが、それまでの経過を知りたいと言うことであったので、説明をして、理解して頂いた。日本NCPへの申立に関わっては、2月10日付けで「最終声明案に対する意見書」を提出した。日本語の結論部分で、「雇用・労働者の生活に及ぼしうる影響を考慮し…」とあるが、英文では「環境と地域社会への影響を考慮し」とあくまでガイドラインの一般論を述べるにとどまっていることから。日本語のとおり「雇用・労働者の生活に及ぼしうる影響を考慮」と表記するよう求めた。

今後のたたかいについては、中労委での解決をめざしていく。都労委命令を覆させるには、ILO 87号条約に関わる訴えが大きな力になるのではないかという意見もあり準備していくこととした。

■消費者大会実行委員会

3月23日

8名参加。第56回大会の今後のとりくみについて検討した。今後は、FOS問題、震災問題などを予定。参加が呼びかけられた。

4月25日（土）13：30～15：30 @ウインクあいち

「水の安全は～PFOS/PFOA（有機フッ素化合物）の現状（仮）」

講師 天笠啓祐さん（日本消費者連盟顧問）

■全労連女性の春闘懇談会

3月23日

会場とオンラインあわせて33人が参加。全労連女性部実態調査報告後、リレートークをおこなった。労働組合ができること、として①労組結成と要求実現で組織拡大：JMITU alphabetユニオン②労働組合でハラスメントを認定・謝罪を勝ちとる：群馬県医労連。要求の見える化として、③全印総連の要求見える化机上コーン、社前宣伝、女性の休日へのとりくみ④日本医労連のクリアファイル⑤東京地評女性センターのとりくみなどが紹介された。それを受けてのグループ別の交流もおこなった。

■最賃審議会員途中辞任問題で労働局懇談

3月25日

対策委員（竹内・林・池田・市川）が参加し、愛知労働局賃金課と折衝。9時30分～10時まで賃金課会議室。2月9日に要請書を提出し、要請の主旨も説明が終わっているので、賃金課からの回答から始めた（賃金課3名、企画課2名）。

回答は、「任期期間の途中辞任問題」＝任期の2年については全うできるよう要請している。本人の内諾書もあり（規定の内諾書には2年の文字はないが）。②辞任の理由は書面に書いてはあるがプラバシー問題もあり明らかにできない。③2年任期であることは理解してもらっている。「任命問題」＝本人の経歴など精査して任命している。女性委員の比率は政府機関の女性比率40％～60％で問題ない。すべての産業労働者（産業名を説明）の実態が反映できるよう任命に責任を持っている。

愛労連からの指摘「推薦団体の責任も問われる（ポストの変更？）」「辞任が繰り返されていること」「辞任理由の詳細は聞いているのか」「（全産業というが）審議のなかで医療・福祉の労働者の実態が話されていない」。

この日の冒頭「最賃法でいう、賃金の低廉な労働者とは？」と確認したが回答がなく「本省に問い合わせる」。「前任が途中辞任は労働局職員の人事異動と同じと回答してこと」を昨年いなかった職員もいたので発言した。最後に「途中辞任は賃金課の職員の業務増」につながるのではないかとその思いを述べた。

■全労連単産・地方代表者会議

3月25-26日

16単産・46地方組織から146人（事務局を含む）が参加した。春闘前半の到達点を確認するとともに後半のたたかいについて意思統一した。特別報告では、回転寿司ユニオンの吉田書記長がマニュアル通りに仕事を進めることによって、経営がムリな労働を押しつけていることを可視化・浮き彫りにする遵法闘争にとりくみ仲間が増えて要求も前進していることを報告し、討論の中でも遵法闘争にとりくんだ成果等が触れられ、対話と学びあいを通じてストライキを打てる組織づくりをすすめつつも、今できるたたかいを効果的につづけている努力が語られた。

愛労連からは西尾議長が発言し、愛知でのたたかいと回答状況、ケア労働者の賃上げ強化、イラン戦争をめぐる経済情勢から労働組合だからこそこの闘いの強化が必要であることを強調した。

■A i わくわく講座閉校式

3月25日

わくわく講座を組織強化学習に活かそうと、委員もわくわく講座を受講し、わくわく講座閉校式と委員会を一緒に開催した。生協労連の森野秀朗書記次長から「労働組合の自己点検をしてみよう」と題した講演を聞いた。チェックシートで労働組合の自己点検をおこない、グループワークで振り返りや他組織の状況を聞き、学び交流をした。少人数を活かして、労働組合の大切さをしっかり話し合うことができた。

■A i 労働相談センター全体会議

3月25日

12人参加（相談員・建交労・全国一般・医労連・健康センター）。新規相談件数：1月＝29件（31）、2月＝52件（47）。単産への紹介は6組合9人。加入者は16人（うち医労連14人＝予定）。相談内容の共有化で討論、全労連労働相談員交流集会の参加確認（4.16）、次回全体会：5月28日（木）1300～1500（403）

■東海大王ハラスメント裁判支援要請オルグ

3月26日

大王製紙子会社の、大王パッケージと男性従業員2名を相手取り、女性従業員がセクハラ・パワハラに対する損害賠償を求めて提訴している裁判への支援を要請するオルグをおこなった。5月13日、20日に予定されており、20日にはハラスメント行為をおこなった、上司A、Bの証人尋問が予定されているので、傍聴席を女性で埋めて支援したいという労組からの訴えを14組織へおこなった。一緒に署名も呼びかけた。

■サマセミブロック実行委員会

3月26日

リモートでおこなわれ、参加者は石川4、愛知2、岐阜、静岡、福井の計9人。①第32回（2025年）のサマセミの記録集作成について、現状を提示し、改善点などを募った。次回実行委員会で完成させたい。②第33回サマセミについて具体化をすすめた。3日間の流れを確認し、初日は自己紹介からの交流、2日目は災害復興アクティビティとフィールドワーク、3日目は災害復興を含めた今回のサマセミの振り返りや今後について考えることとした。③参加者の各県目標を全体で70人（石川30、福井10、富山10、愛知10、静岡10、岐阜5、三重5）とした。④今後、チラシの作成を6月下旬ないし7月初旬に作成すること、参加を広く呼びかけブロック外からの参加も可能と確認した。

■全労連東海北陸ブロック幹事会

3月27日

7人全員が参加した。各県のとりくみ交流の後、当面のとりくみについて具体化した。5月20日(水)13:30～16:30に開催する労働相談員研修会(レジェンド編)については、みえ労連がホストを務め、内容は熱中症対策で開催することとした。最賃キャラバンは、北陸コースは6月10日(水)で確定し、東海コースは11日(木)三重・岐阜、12日(金)愛知・静岡で調整中。学習会については、秋田県庁と秋田県労連に依頼することとした。

今後の幹事会日程は下記のとおり

第2回幹事会 5月8日(金)14:00～オンライン

第3回幹事会 8月27(木)14:00～オンライン

第4回幹事会 11月20(金)10:00～オンライン

第5回幹事会 12月12日(土)午前 ※11日から前泊

■愛知県中央メーデー実行委員会

3月27日

労働会館東館403会議室でおこなわれ、参加者は自治労連、国公、愛高教、建交労、名高教、うたごえ、東海共同、愛労連2の計9人。①第97回愛知県中央メーデーについて、スローガン、役員体制、次第について具体化した。来賓として、ジェンダーと平和と憲法をテーマに要請することとした。②前回までに、組合員ひとりあたり50円ととしていた会費について異議が出されたことで再検討し、昨年までの一人あたり30円に加え、その他「協力金」を呼びかけるとした。③今後、第3回実行委員会までに、会場の使用についてやデモ行進のコースを関係各所に確認して準備を進める。

■長射程ミサイル配備をするな! 宣伝・申し入れ

3月27日

長射程ミサイルが健軍駐屯地(熊本県)と富士駐屯地(静岡県)へ31日に配備される計画を受けて、愛知県平和委員会と不戦へのネットワークが27日、名古屋市の防衛支局が訪れ、配備反対を国に求める申し入れを行った。申し入れに先立ち名古屋市合同庁舎前では25人が抗議行動を行い、西尾議長から専制攻撃となる長射程ミサイルは憲法違反であり、攻撃するミサイルを配備することは他国へのまたは他国からの侵略につながり撤回を」と求めた。NHK、メーテレ、しんぶん赤旗が取材した。報道機関は平和委員会矢野事務局長への取材やインタビューを時間をかけて行うなど、注目されていた。名古屋市職労から磯村委員長を含む4名、国公1、自治労連1、千種名東センター1名、事務局1名が参加をした。

■生活保護支援連絡会決起集会

3月29日

労働会館本館で開催され、参加者はオンライン含め約60人。連絡会の樽松事務局長からの「12年のたたかいを振り返って」の報告、全国アクション共同代表などを務める尾藤廣善弁護士の「生活保護裁判最高裁勝訴の意義」と題した講演、愛知弁護団の森弁護士の「不服申立と再訴訟について」の報告などがおこなわれた。

■革新県政の会代表常任幹事会

3月29日

事務局を含め10人が参加した。今後のとりくみとして、地域の要求掘り起こしと地域組織の再開や立ち上げめざし、名古屋を含め県内6カ所を目途に「地域別懇談会」を開催していくこととした。また、候補者選考委員会を愛労連・愛商連・新婦人・共産党・自由法曹団・代表・事務局で立ち上げ議論を開始することとした。

■フレッシューズ(新社会人) 宣伝行動

4月1日

午前8時から1時間、名古屋の伏見交差点でフレッシューズ宣伝を行い23人が参加した。労働基準法をはじめ労働法がイラスト入りでわかりやすく書いてある「働くあなたの権利手帳」を1002部配布した。各組合の代表が順にスピーチ。「就職おめでとうございます」「誰もが安心して働き続

けられる労働環境を作りましょう」「有給休暇は6カ月勤務すれば取ることができます」「1人で悩まずに労働組合に入って相談してください」「疲れちゃったなど、心がつぶやいたときは手帳も見てください。愛労連に相談を」「いざというときに力になる手帳です」などと優しく訴えた。

■愛教労辞令交付式宣伝

4月1日

愛教労・名教労の辞令交付式が名古屋教育センターで行われ、交付式に参加された教職員のみなさんに、11名の参加者で加入セットを配布した。「おめでとうございます」「元気に働ける教職員生活を一緒につくっていきましょう」など声をかけ、受け取りがよく準備した300のセットがあったという間になくなった。資料セットは全教共済のカレンダーやパインの飴ちゃん入りで目を引いた。

妊婦さんの先生もいた。かつては妊娠がわかったら不合格なんてこともあった、学校に手土産持参があたりまえだったとのエピソードを聞いて、時代を変えてきた労働組合は、やっぱりカッコいいなあと思える行動となった。

参加：愛教労・名教労7、医労連1、愛高教2、事務局1

■国共病組東海新規説明会

4月1日

先輩組合員4人と医労連、愛労連から2人の応援体制で新人説明会を行った。昼休憩の終わり15分を使って説明会を行い、対象者17人中看護師1名が加入した。

■名市大職組西部医療センター新規説明会

4月2日

名古屋市立大学教職員組合・西部医療センター支部では、オリエンテーションの昼休みの45分間で組合説明会を開催。参加した108人中55人（50%）がその場で加入書を提出しました。（研修医、コメディカル含む）。組合は、先輩＋名市大教職組＋医労連＋愛労連（西尾、竹内、市川）の19名体制でのぞんだ。

■春日井市職労本庁新規説明会

4月2日

春日井市役所にて説明会を実施。愛労連から2名が応援に入った。5名がその場で加入した。

■春日井市職労市民病院新規説明会

4月2日

支援要請を受け、新人説明会へ支援参加。病院の説明会からの自然な流れで労組説明会に入り、看護師43人中43人、技師8人中6人、合計51人中49人の加入となった。

■尾張健友会新規説明会

4月3日

新人研修の終了後、組合説明会を開催し配属部署にあいさつに行った後説明会会場に戻ってきた新人15人が参加し、そのうち7人が加入した。説明会会場に戻ってきってもらうためにうな重弁当を準備し参加を促した。新人さんが集まるのを待つ間、先輩職員が何気ない会話で会場の雰囲気と和ませ、4年目の介護士が説明原稿を読み上げる形で組合の紹介を行った。ここ数年は機能の説明方法であり加入書を書いてもらう雰囲気が作り切れず加入につなげられなかったが、マニュアル通りに実施し加入につなげることができた。4月21日第2弾の説明会を予定。

■NPT行動直前学習会

4月3日

4月27日から5月22日まで開催される、ニューヨークの国連本部での第11回核兵器不拡散条約（NPT）再検討会議にあわせて、米国や核兵器保有国に対し、核兵器廃絶の世界的な世論で圧力をかけるための代表団を派遣します。愛労連から代表団に参加する福祉保育労の3人が直前の学習交流会を開催し、愛知県平和委員会の矢野創事務局長から話を聞きました。矢野さんは、核保有国が核威嚇を背景に暴走している、核兵器では平和にならない、今こそ世界の流れである核廃絶をNYでも訴えてほしいと話しました。

■全医労名古屋医療センター新規説明会

4月6日

全医労名古屋で説明会を行いその場で9名が加入した。昨年より大幅増。会場が2つあったため、それぞれ全医労の若手役員がそれぞれ説明した。「書きながら聞いてね」で、説明中に加入用紙を書いてくれる新人さんが多かった。愛労連、国公、生協、愛高教など応援ふくめ20人体制で誘導した。

■港地区労名労連オルグ

4月6日

港地区労からは7人が参加し、愛労連から竹内事務局長が説明に赴いた。結成に向けた組織的な課題や財政などについて率直な疑問が出され、討議を深めた。

■単一協議会幹事会

4月7日

・本館第4、第5会議室用にアンプマイクを設置。・5月14日実施の生活保護連絡会相談ホットライン実施（東館ホール）について費用の負担要請があり、会議室使用料を単一で負担することとした。・労働会館防犯対策として監視カメラ4カ所設置のため工事日程を調整中。・労働会館部屋退去の状況を確認した入居団体の確保のため協議を集中して強めていく。単一忘年会日程を12月1日予定し会場を確認した。次回幹事会6月17日（水）

■愛労連新聞第8回編集委員会

4月7日

オンラインで3人が参加。5月10日号の企画打合せをおこなった。

■Ai・単産・地域代表者会議

4月8日

15単産21人、10地域11人、事務局から6人の37人が参加し、26春闘の現時点の報告、今後のたたかいを討論した。会議の冒頭、西尾議長は「憲法の力を職場に地域に広げ、戦争への道を突き進む政権を退陣させましょう」「26春闘で大幅賃上げを実現した職場がある。引き続き奮闘しましょう」と呼びかけた。

竹内事務局長が「2026国民春闘前半の到達と後半のたたかい」について、「JMITU川本支部で一律ベア4万円の賃上げ、建交労学童保育支部では1経営で定昇含む4万円の賃上げを実現」などを報告しました。討論では17人が発言、医労連書記次長の近藤直巳さんは「ストを背景に30年ぶりのベア実現」、東海法労副委員長の長尾忠昭さんは「アンケートを2千枚を法律事務所などに郵送し要求を聞いてきた。ベースアップ、一時金改善もあった」と報告した。春闘後半のたたかい、新入職員・社員の組合加入などを意思統一し、団結がんばろうで締めくくった。

■愛知共済会事務局会議

4月8日

共済会事務所でおこなわれ、参加者はきずな2、JMITU、建交労、愛労連、事務局2の計7人。
①この間の共済の増減、給付実績を確認した。②春の拡大月刊の各組織のとりくみ計画を確認した。
③総会にむけて、規約の改定について協議した。総会の成立要件・総代定数の変更を中心に今後協議を続ける。④事務局員の賃上げや来年度の全労連共済役員について今後協議する。

■春の自治体キャラバン実行委員会

4月9日

9人が参加した。当日資料に入れる解説文やチェックシート、事前学習会などの分担について確認した。

事前学習会は4月22日(水)18:30から労働会館本館会議室

次回は、5月25日(月)10:00から自治労連愛知県本部

■春闘第2次全国統一行動・最賃ビッグアクション

4月9日

全労連は3月12日の統一行動日に続いて、4月9日に第2次統一行動日を配置した。この統一行動に呼応し、愛知では「賃金上げろ！最賃ビッグアクションデー」とし名古屋駅前で実施。28

人参加（自治労連4、医労連4、生協労連2、JMITU2、愛高教2、国公2、建交労2、愛教労1、検数労連1、名中センター1、全国一般1、西三河労連1、事務局5）。新調した「Tシャツ 1800円以上」を着て宣伝した。単産の代表者が順に職場や仕事の状況をふまえスピーチ、1800円チラシなどが入ったティッシュ790個を配布した。通行人が横断幕をじっと見る姿や「1800円いいね！」と学生が共感する声を上げた。SNS（X）の発信も行った。小雨が降ったり、止んだりした不安定な空模様であったが無事終了。全員で集合写真を撮った。中日新聞、しんぶん赤旗が取材、両紙とも4月12日に報道した。（天候からシールアンケートは中止、署名は一部実施した）

■9の日宣伝

4月9日

金山総合駅で実施され、6人が参加した。

■2026春闘回答速報番組②

4月9日

今回は音声のみのラジオ形式で実施され、春闘中盤のたたかいや回答状況などについてとりくまれた。愛知からは名古屋市職労の永井優子執行委員が出演し、結成されたばかりの名古屋市職労会計年度任用職員協議会（ほこイカ会）のとりくみや組合員拡大について報告した。

■A i 青年協春のかわいい交流会

4月11日

労働会館本館・東館でおこない、参加者は福保労3、愛高教2、自治労連、東海法労、建交労、化学一般、全医労、青年協2、石川2、愛労連の計15人。第1部では青年協の紹介、DJによる音楽、ゲストの田中さんの「労働組合かわいい論と課題」講演、参加者交流などおこなった。参加者交流では、参加者各自の労働組合のかわいいところ、改善すべきところなどざっくばらんに語り合い、労働組合のめざすべき新たな3Kを考えた。第2部では労働会館東館5階で交流した。

■憲法と平和を守る街宣A

4月11日

名古屋市中区栄で実施。参加者は福保労、国公、年金者組合などから計15人。世界・国内の情勢から平和を守る大切さなど訴えた。

■NPT愛知県代表団会議

4月11日

4月27日から5月22日まで開催される、ニューヨークの国連本部での第11回核兵器不拡散条約（NPT）再検討会議にあわせて派遣をする、愛知県の代表団会議が開催された。事前の学習として、NPTに関わる経過と情勢、今の闘いについて大村義則愛知県原水協代表理事が講演した。

■愛友会被爆者行脚まとめ集会

4月11日

50年以上続けられている、被爆者が愛知県内全ての自治体を訪問する「被爆者行脚」のとりくみのまとめ集会がおこなわれた。金本弘愛友会理事長の挨拶や、2025年度の実行では、多くの自治体で首長や幹部が懇談で挨拶をするなど、成果を得ることができた、今年は被団協創立70周年なので、がんばってとりくみたい、などの決意が披露された。

■A i 四役会議

4月14日

全員参加。事務局体制の強化について報告し確認した。経費削減の進捗状況について報告・協議を行った。労働法制改悪と改憲原案の提出の動きと並行して私たちの権利と平和は一体で脅かされており、4.19集会、メーデー成功に向けて改憲阻止のうねりと連動し生活者の怒りの結節点とし行動を成功させる。メーデーへの参加が最大の平和を希求し、憲法改悪に反対する大きな原動力としていく。メーデー実行委員会としてメーデーの意義と参加のアピールをよびかける文書を発出し組合員に届けることを確認した。大府分会の役員が低評価であり実務と違う内容を指摘されており不当労働行為が行われていることを共有した。6月全国非正規集会、パ臨連総会のある6月を、同

一労働同一賃金を求めていくことを一体に一連の流れをつくる。愛労連新聞コラム担当の確認、自治体キャラバン愛労連担当の団長の担当を確認した。

■憲法と平和を守る愛知の会拡大世話人会 4月15日

9人参加。土曜宣伝、情勢討議、愛労連からは愛労連NEWSにもとづき春闘、最賃、会計年度任用職員（東京新聞）課題を説明。平和憲法を守ろう、高市モウムリなどの全国デモの盛り上がり、愛知でも名駅などでのデモ討議。

土曜宣伝はシール投票検討、4月と5月の担当を確認。

次回は5月27日（水）1600～社会文化センター

■全労連幹事会 4月15日

オンラインで開催され全役員が参加した。春闘の到達点を確認するとともに事前度運動方針の骨子について議論した。レバカレについては、単産・地方から寄せられた意見をもとに議論し、当面は2年に一度開催することとし、財政的な課題も踏まえ、地方開催とし開催地周辺の地方から参加してもらうことを主としていくこととした。正式は定期大会で確認していく。

■年金者組合緑支部名労連オルグ 4月15日

結成の意義などについて説明するために、結成事務局の青山愛知国公事務局次長が訪問した。

■Ai女性協幹事会 4月15日

7人が参加。とりくみの振り返りと各組織の活動報告、今後のとりくみなどを話し合った。女性協総会の内容や議案について検討した。メーデー、東海北陸ブロック女性交流会などへの参加を促した。

次回幹事会は、5月13日（水）19：00～ @愛労連応接室

次々回幹事会 6月17日（水）19：00～ @愛労連応接室

■憲法と平和を守る愛知の会 4月15日

学習会「地域別最低賃金の引き上げと全国一律に向けて」をテーマに中村和雄弁護士が話した。最賃法の内容をあらためて確認、歴史、制度の概要、諸外国の賃金・最賃額、全国のここ数年の改定状況など。Tシャツ投票、大阪・愛知・岩手・秋田から報告、竹内事務局長が国会議員要請と生計費資料の採用について報告した。黒澤国民春闘共闘・全労連事務局長からまとめを行った。

■平和行進実行委・原水協理事会 4月15日

オンラインと合わせて開催。平和行進や、NPT行動に向けてのとりくみについてなどが検討された。平和行進の全国通し行進者・東京～広島コースに愛知の三浦コト子さんが決定。三浦さんはNPT行動にも参加、帰国後すぐ行進予定。行進への参加、署名、ペナント支援などが呼びかけられた。

次回理事会&平和行進実行委 5月20日（水）18：30～ @愛知民主会館

■Ai社会的な賃金闘争対策委員会 4月16日

9人出席。①春の自治体キャラバンでの公契約と最賃引き上げ陳情、②4. 9アクションなどの報告、③家計簿で生活費調査の報告とまとめ、④最低生計費試算のための「ライフトーク2026」を5月20日（木）2000～2100、それまでにアンケートを10通以上集める、⑤愛労連最賃署名団体要請を5月23日（金）の午前に実施、⑥6月26日（金）1100～労働局に署名提出（決定）と午後、最低生計費試算結果の記者改憲、⑦宣伝：5月22日（金）1730～1830名駅宣伝、6月25日（木）800～愛知学園前宣伝（名城）、⑧次会委員会：6月4日（木）1000～1200（福祉保育労）

■全労連労働相談活動交流会

4月16日

8人（労働相談センター6、福祉保育労2）参加。①全労連から問題提起、②学習「ハラスメントを根絶するために」（講師：大和田敢太氏・滋賀大学名誉教授）、③3県から事例報告、④グループ討論、（愛知から2人発言）、⑤まとめ。

■名労連結成事務局会議

4月16日

7人が参加した。各単産・単組などでの議論状況を確認するとともにさらなるオルグについても議論した。各組合にある疑問に答えるための場として、結成に向けた最終説明会を5月8日(金)18:30から労働会館及びオンラインで開催することとした。質問があれば事前に寄せてもらうこととして、しめきりを5月7日までとした。

■サマセミブロック実行委員会

4月16日

リモートでおこなわれ、参加者は石川3、愛知2、静岡2、富山、福井の計9人。①昨年おこなわれた第32回サマセミの記録集について現状を確認し、修正点、今後のスケジュールを確認した。②今年のサマセミin石川についてスローガンを決定し、内容についても具体化を進めた。今後各県メーデー会場での配布用チラシを作成し、呼びかけを進める。③今後の日程について協議し、現地の下見を6月14日、次回実行委員会を5月21日とした。

■全労連最賃活動交流集会2026

4月17日

学習会「地域別最低賃金の引き上げと全国一律に向けて」をテーマに中村和雄弁護士が話した。最賃法の内容をあらためて確認、歴史、制度の概要、諸外国の賃金・最賃額、全国のここ数年の改定状況など。Tシャツ投票、大阪・愛知・岩手・秋田から報告、竹内事務局長が国会議員要請と生計費資料の採用について報告した。黒澤国民春闘共闘・全労連事務局長からまとめを行った。

■レバカレ月1オンライン「家父長制を考える」

4月17日

昨年秋に開催されたレバカレ2025の分科会で、春闘期に学びあいたいテーマをオンラインで再び開催する企画の第5回。「労働組合の中の家父長制を考える」と題して、誰もが対等・平等に参加できる活動には何が必要か、をオンライン中心で開催した。ブレイクアウトルームではなく、チャット欄に質問感想用フォームを用意し、誰もが匿名で気軽に意見を述べやすい形とし、多くのモヤモヤが集まり、その質問に主催者が答えた。

■あいち総がかり行動4.19集会&デモ

4月19日

「危ない高市政権 流されるな 押しとどめよう」をスローガンに久屋大通公園の光の広場で（名古屋市中区）、「憲法とくらしを政治にいかす 改憲NO！あいち総がかり行動」が主催する集会とデモ行進が行われ近年の集会を大きく上回る800人が参加した。

総がかり行動共同代表の塚田聡子弁護士は、「アメリカが日本に対し自衛隊派遣への圧力をかける中でも、高市政権は憲法9条があるから派遣できなかった。自民党はその9条を変えようとしている。憲法の理想をかかげ声を上げよう」と呼びかけた。

集会では憲法9条の読み上げや矢崎暁子弁護士が「民衆の歌」「アンパンマンのマーチ」を歌いました。デモ行進は、「改憲反対」「長距離ミサイル配備をするな」「武力で平和は守れない」などをコール。賑わう栄周辺を行進し、注目を集めました。中日新聞としんぶん赤旗が報道した。

■平和憲法を守る0419名駅前デモ

4月19日

総がかり行動の集会デモに続いて急遽開催がよびかけられ、名古屋駅前に860人が参加した。会場は4会場とされ、サイレントエリアや親子連れ参加も参加しやすい雰囲気作りなど工夫されていた。

■愛知県弁護士会役員就任披露宴

4月20日

愛知県弁護士会役員就任披露宴が行われ、長谷川龍信会長含め8名の新役員の披露が行われた。長谷川会長のあいさつは以下。「愛知県弁護士会2200人の会員 2006年全国の弁護士は2万2千人から司法制度改革により現在は4万7千人と2倍。弁護士が地域社会にどう貢献できるかは、・市民に身近な存在であること、・法律の専門家として紛争解決に務める。・弁護士の使命は基本的人権を擁護し社会正義を実現することが社会への貢献。・法律制度の改正に務めること人権擁護と社会正義の観点から様々な解決に取り組んでいく。取り組みとして、第1は外国人の人権、ビジネスと人権などの人権課題。ヘイトスピーチ／ヘイトクライムなど人種等を含む差別的行為は深刻な被害を受け人種差別撤廃条例の制定に向けて努力する。昨年度当会で始まったビジネスと人権に関する取り組みは企業という新しい領域における人権擁護と社会正義のための活動であり今年度も積極的に取り組む。ネット上の人権侵害についても取り組む。第2はスクールロイヤー事業、学校や教育委員会からの相談への対応は弁護士会でワーキング局が設置され適切な対応を持続的に進めるようセンター化をめざす。第3は行政分野と企業分野のとりくみ。行政分野は任期付公務員の他に自治体の監査員などこれまで弁護士が少なかった分野にも弁護士が役に立てるのではないかと考えている。民間事業では企業内弁護士の他に、不祥事があったときに第三者委員会が設置されることがあるが、その委員への就任要請に迅速に対応できるよう体制を整えていく。第4に法制上の課題として再審法改正問題について、解散・総選挙を経て様相が変わり現在も遅々刻々の情勢であり今後も紆余曲折が予想されるが弁護士会としてはえん罪、人権擁護の観点から引き続きこの課題に注力していく。選択的夫婦別姓の問題に関しては旧姓の通称使用を法制化する動きもありこちらも予断を許さない状況となっています。引き続き粘り強く取り組んでいく。その他に死刑廃止に関する問題。日本の死刑制度を考える懇話会の報告書の中で早急に国会の内閣のもとに法的な会を設置することの提言などを受け新しい局面に入っている。今年度も積極的に取り組んでいく。最後に当面の課題として、裁判のデジタル化についてこの5月21日から民事裁判書類の提出をオンラインで行うことができる、提出書類についても3月から刑事訴訟の証人のやりとりが行われる。弁護士業務に大きな変革をもたらすと共に市民の方々にも大きな影響がある。不便がないよう対処していく。」と述べた。

■社保協理事会

4月20日

保険医協会伏見会議室でおこなわれ、参加者は保険医協会、民医連、年金者組合、自治労連など16人。今後のとりくみについて確認した。①署名のとりくみについて現在とりくまれている署名の確認と2026年中央社保協総会以降にとりくまれる新署名について協議した。②社保協での宣伝行動について、5月1日のメーデー、5月3日の憲法集会など日程を確認した。③7月12日のあいち社保協総会について、記念講演の演者を協議した。④その他各課題の現状・今後のとりくみを確認した。

■消費者大会実行委員会

4月20日

14名参加。消費者大会実行委員会の規約の見直しと、今後の運営や会の在り方などについてコープあいちから提案があり、話し合いをおこなった。

5月29日（金）13：30～15：30 @イーブルあいち

■若者気候訴訟第6回口頭弁論&スタンディング

4月20日

法廷傍聴には、120人を超える人が駆けつけた。抽選に外れた方たちのために桜華会館で動画の視聴会を行った。

■メーデー実行委員会

4月21日

労働会館東館403とりもておこなわれ、参加者は名高教、建交労、自治労連、医労連、愛高教、うたごえ、きょうされん、東海共同印刷、愛労連から計12人。第97回愛知県中央メーデーに

ついて、開催時間変更に伴うスケジュール変更の確認、各要員の役割確認、メーデースローガン・宣言案の協議などおこなった。今回は、メーデー開催後の6月23日（火）18:30から。

■春の自治体キャラバン事前学習会

4月22日

2026年春の自治体キャラバンが5月8日（金）スタートすることから、キャラバンを成功させるための事前学習会が4月22日、労働会館で開催され31人（会場22人、Zoom9人）が参加した。

キャラバン実行委員長でもある愛労連の西尾議長は（写真）、国会前や全国各地で起こっているデモにふれ「憲法を守ろう」の運動の盛り上がりを強調、「憲法9条こそ平和の土台、働くルールの確立、当たり前を権力者に奪わせない」。三重県伊賀市政が公共の再生で前進している実態にもふれ、「人権が大切にされる地域を作ろう」とキャラバンの成功を呼びかけた。自治労連の高木書記長は、2025年のキャラバンについて、「十分ではないものの、処遇改善は着実に前進している」「どうやって市民の人権を守るかが大切。当該自治体の職員を励ましなが、より良い職場と地域を作っていく」とまとめ、今年のキャラバンの成功を訴えた。その後、各要請項目について、自治労連、愛労連、全国一般、福祉保育労、建交労、愛教労の担当から説明し、議会から国または県に上げる意見書についても説明が行われた。

■公務員賃金署名キックオフ集会

4月22日

人事院による民間給与実態調査が始まった4月22日、全労連公務部会が主催する「公務員賃金署名キックオフ集会」がオンラインで開催され100名程度（オンライン接続は90名程度を確認）が参加し、署名促進をすすめる意思統一をはかった。（公式には未確認）。今年度から「社会的な賃金闘争委員会」を設置した愛労連からも佐賀事務局次長がオンラインで参加した。26春闘における民間給与の引上げを反映し今年も月額給与のプラス勧告が見込まれるもと、一時金についても引上げられるかが焦点となる。また、秋にも民間では改訂された「同一労働同一賃金ガイドライン」が施行されることを踏まえ、公務職場に残るジェンダーや年齢による不合理な格差の是正などが「人事院勧告」に反映されるかも注視すべき事項。愛労連でも、公務単産だけでなく社会的な賃金闘争の3本柱のひとつと位置づけ、すべての単産で署名促進をすすめる必要がある。

■愛知共済会理事会

4月23日

労働会館東館409でおこなわれ、参加者は建交労、全国一般、きずな、年金者組合、愛労連、事務局から計10人。①この間の共済の増減、給付実績、とりくみについて確認した。②春の月間について、各単産のとりくみ状況・今後の計画を確認。きずなは45周年にむけて仲間増やしとともに共済加入にも力を入れる。また、愛知共済会としては建交労学童保育支部の名古屋市内各区ごとに共済加入のアプローチをしていく。③総会での規約改正を目標に規約改正案を協議したが、2026年7月の定期総会での改正は断念し、今後引き続き改正案を協議することとした。

■安保破棄実行委員会総会

4月23日

27人参加。記念講演は「大軍拡と改憲を許さない情勢と新署名運動・私たちのたたかい」と題して憲法共同センターの共同代表でもある秋山全労連議長。秋山さんは、9条の会など憲法闘争の歴史にふれつつ、「戦後最大の改憲の危機であること」「一方で国会前や全国で改憲反対の急速な運動が巻き起こっている」ことを報告、新署名の成功を呼びかけました。

決議案について、矢野事務局長が説明。「殺傷武器の輸出、長射程ミサイル、特定利用港湾」など諸問題のとりくみを報告しました。方針では、沖縄の辺野古基地建設反対のたたかい、学習活動など、また、財政報告と予算案、会則の見直しを提案しました。3人が発言、2026年の役員体制を確認しました。

■最賃署名団体要請

4月24日

5人が参加して友誼関係にある労働組合や民主団体、法律事務所など21団体を訪問し、最賃署名への協力を要請した。訪問後、数百枚単位で署名用紙を取り寄せてくれるところもあり、最低賃金引き上げに対する関心の高さを伺える行動ともなった。

■A i 青年協幹事会

4月24日

リモートでおこない、参加者は医労連2、建交労、福保労、愛労連の計5人。①4月11日の交流会の振り返りをおこなった。内容は概ね好評だったが、青年協幹事会での内容具体化が殆どされなかったことは今後の課題とした。②5月10日の地引き綱についての協議をおこなった。当日のスケジュール・内容の確認をおこなったが、提案時に具体的なものが示されておらず、内容・役割分担・用意するものなど確認が不十分なものとなった。③今後のとりくみについて協議し、7・8月にサマセミに向けた交流会、10月18日に総会にむけてのとりくみを予定。④5月31日に東京で開催される若者憲法集会について、民青同盟の谷本委員長からとりくみ参加の要請を受けた。

■消費税・インボイス宣伝

4月24日

消費税3%が実施された1989年4月1日から37年が経過した。当初、3月31日に予定していた恒例の「消費税減税・インボイス廃止のロングラン宣伝」は悪天候のため中止となり、あらためて4月22日に「今すぐ消費税減税を！インボイス制度は廃止！」の宣伝行動を栄スカイル前で行った。ホルムズ海峡封鎖に伴う原油価格の高騰によって、しばらくの間は物価への影響が懸念されるもと、物価高騰を上回る賃上げと同様に可処分所得を引き上げる策として最も有効な手立てが「消費税減税」であることは言うまでもない。残念ながら、選挙戦の最中に「消費税減税はわたしの悲願」と訴えたはずの高市早苗首相のトーンは下がるばかり。消費税減税及びSTOP！インボイスに関する署名集約をすすめ、国会への働きかけを強めることが重要となっている。

■東三河ナースウェーブ

4月25日

4月25日、豊橋市にて学習会と署名宣伝行動が開催され、9組織31人が参加した。学習会では日本医労連の米沢書記長が「産別統一闘争の歴史」を講演し、当事者意識を持った運動の重要性を強調した。

あわせて、西尾市長が表明した西尾市民病院の経営形態見直し検討についても報告があった。市民による要望書の提出など、公的医療を守る動きが共有された。続く駅前での宣伝行動では、深刻な人手不足や現場のジレンマを訴えるリレートークを行い、地域医療の守り手として処遇改善を求める署名90筆を集めた。

■NPT再検討会議代表団派遣（～5/4）

4月25日

ニューヨークの国連本部で4月27日から5月22日まで開催される、第11回核兵器不拡散条約（NPT）再検討会議にあわせて、米国や核兵器保有国に対し、核兵器廃絶の世界的な世論で圧力をかけるための代表団を派遣した。愛知からは、愛友会1、金融ユニオン1、北医療生協1、名南会2、平和委員会1、新婦人1、福祉保育労3、学生平和会議1、県原水協3、愛知県保険医協会3の17人が参加した。

会議傍聴、NYでのパレード、国連ロビーでの原爆展、現地高校訪問、中満泉国連事務次長との懇談、各種団体との交流など多彩なとりくみで世界のなかまとの交流と連帯をひろげた。核兵器廃絶は世界の多数の声であり、世界中の同じ思いで活動している人たちの話を聞くことが出来て勇気をもった、と感想が寄せられるなど、若い世代が参加して平和運動を引継ぎ広げていく大きな力ともなった。

■愛教労定期大会

4月29日

西尾議長が参加し、愛労連を代表して連帯のあいさつを行った。

■メーデー前夜祭**4月29日**

竹内事務局長が参加し、愛労連およびメーデー実行委員会を代表して連帯のあいさつを行った。

■愛労連新聞第10回編集委員会**4月30日**

オンラインで4人が参加。6月10日号の企画打合せをおこなった。

■第97回愛知県中央メーデー**5月1日**

ヒサヤオオドリパーク・テレビトーヒロバで開催され約800人が参加した。オープニングはうたごえ協議会の合唱。議長団は、生協労連の古家祐太朗さんと愛高教の松本陵子さんが努めた。開会宣言を副実行委員長の西脇敬さん（名港労協議長）が行った。実行委員長の西尾愛労連議長は「軍事一辺倒で外交不在の政治ほど危険な道はない」「止まらない物価高騰のなか、人間らしく暮らすには最賃・時給1800円以上が必要」などと訴えた。来賓で自由法曹団の伊藤勤也弁護士（写真上・リボンの方）は「労働者の権利向上は平和であってこそ前進できる」と話した。リレートークでは、①ケア労働（医労連）、②交通運輸（建交労）、③非正規公務員（自治労連）、④社会保障（年金者組合）、⑤反核平和（平和委員会）、⑥食と農業（愛知農民連）、⑦消費税・インボイス（ストップインボイス）、⑧教育（名高教）が現状や要求内容を訴えた。天候によりデモ行進は中止となった。

地域メーデーは5会場で開催され、西三河が中止となった。

■愛知憲法会議市民のつどい**5月3日**

名古屋市公会堂で開催され、会場に1600人、オンラインで100人が参加した。1部ではNHKの元ディレクターで「ETV特集」などを手がけてきた経験を大森淳郎さんが「戦時ラジオ放送」から学ぶことと題して講演。第2部では戦前の禁演落語と国策落語について演芸評論家の柏木新さんが説明し、落語家の林家三平さんが国策落語を演じた。

■あいち総がかり行動デモ行進**5月3日**

憲法集会後、生憎の雨天となったが、予想を上回る750人が参加、昨年までと違い若い人の参加が目立ちました。鶴舞から上前津、大須を行進、歩道には人が立ち止まり「戦争反対」の声を上げる人の姿があった。終点の若宮広場では、先に着いた行進者が後に来た行進者を出迎えあたたかい雰囲気になった。

■全労連東海北陸ブロック第2回幹事会**5月8日**

7県から全員が参加した。問近に迫った労働相談員研修会、最賃学習会、最賃キャラバンについて運営と分担を具体化した。全労連定期大会時にブロックとして懇親会を7月26日に持つこととした。

■名労連結成に向けた最終説明会**5月8日**

労働会館本館で開催され、単産と地域から23人が参加した。事前に寄せられた結成に伴う議論や手続き、財政、愛労連との関係、地域協議結成の準備など多岐にわたる質問に答えるかたちですすめられ議論が深められた。

■東海北陸ブロック女性交流集会in静岡**5月9日～10日**

ブロックの各県から30名が参加（石川5，福井2，三重3，愛知4，静岡16）。1日目はリニア新幹線を考える静岡県民ネットワーク共同代表の林克さんから、「水と環境置き去りで工事許可は許されない」と題した話しを聞いた。知事が変わり、対話の軸をずらし建設を加速している。調査も杜撰なまま、トンネル湧水量の想定が少なすぎ各地で水枯れが起きている、人口減少社会で本当に必要なのか、など問題が山積み。今後も、反対の署名集めや自然破壊の反対を訴えていくの

で協力をと話された。その後、各県女性部の活動報告から奮闘とともに継続の悩みなども発表された。2日目はグループに分かれてフィールドワークで交流し、ブロックの女性部の繋がりを強める活動の力となる交流会となった。

■A i 青年協新歓☆地引き網ツアー

5月10日

南知多町内海海水浴場で開催し、参加者は子ども含め43人。愛労連内からは福保労、建交労、自治労連、医労連、全医労、生協労連、愛高教、年金者組合（要員）が参加。県外からも自治労連（大津市労連、静岡市労連、島田市労連、浜松市職）、J M I T U（東京、京都、滋賀）、福保労（静岡）、医労連（石川）、化学一般（石川、静岡）の参加があった。①マイクロバスのレンタル・運転でタクシー協議会の協力を得て、マイクロバスを使っのツアーが実現した。現地に向かうまでの間にバスレクとして自己紹介ビンゴなどおこなった。②現地では地引き網、B B Q、モルック大会などで交流した。9月のサマセミや6月の滋賀県で開催される非正規全国集会の参加呼びかけなどもされた。③2年前に続いてしんぶん赤旗の取材が入り、5月13日の紙面に記事が掲載された。

■あいち総がかり行動運営委員会

5月11日

800人が参加した4.19集会、5.3デモ行進の振り返りを行った。いずれも近年なかった参加の広がりがあり、特に若い人の参加が広がっていることが特徴で、SNSによる周知・拡散の必要性が浮き彫りとなっている。6.19は光の広場で集会を開催することとした。

■A i 四役会議

5月12日

愛労連新聞コラムの担当、単産・地域組織大会あいさつ、愛労連事務局体制の強化および事務局次長（非専従）選出に関する進捗、全労連大会での発言内容について議論を行った。

■社保協四役会議

5月12日

労働会館東館403でおこなわれ、参加者は保険医協会、民医連、医労連、愛労連、事務局の計6人。理事会にむけて、社保協としてのこの間のとりくみ状況や各課題の情勢や今後のとりくみなどを確認した。

■全労連幹事会

5月13-14日

次年度運動方針（第1次案）の議論を行った。非正規の組織化キャンペーンを4年がかりでとりくむことや、高市政権による改憲策動をストライキを含むたたかいで阻止することなどが盛り込まれた。幹事会として対話と学びあいスクールの模擬研修を実施した。

■東海大王製紙P労組ハラスメント裁判第1回証人尋問

5月13日

48人の傍聴枠に50人が集まった。原告側証人として同じ労組の仲間がハラスメント目撃をしっかりと証言し信憑性を高め奮闘した。会社側は加害者をハラスメント研修担当に使い続ける、第三者調査が不十分など、いい加減さが際立った。裁判官もかなりいろいろ質問した。傍聴が多いと力を入れてくれる、5/20は原告と加害者が証言をおこなうので引き続き支援をと呼びかけられた。

■共済会事務局会議

5月14日

共済会事務所でおこなわれ、参加者はきずな、J M I T U、愛労連、事務局から計5人。①この間の共済の増減、給付の実績を確認した。②春の月間の各組織のとりくみについて確認した。③前回の理事会で来年の定期大会での改正をめざす事とした規約等について、理事会で出された意見を確認した。

■全国一般アクリル中労委第1回期日

5月15日

第1回の中労委調査があり、アクリル労組からは煤本委員長はじめ12名が調査に参加した。愛労連からは西尾議長が参加をした。団体署名は220筆集まり提出を行った。中労委として和解も視野に入れ争議の解決にむけ努力したいとの意向が示された。アクリル労組とジャクリル労組との差別問題を焦点・争点に、引き続き団体署名に取り組み、次回期日にむけて強化をしていくことを確認した。第2回期日は7月10日（金）13時より。支援共闘会議を6月23日（火）15時30分～行われる。

■レバカレ月1 オンライン「声かけの難関を乗り越えよう」 5月15日

昨年に開催されたレバカレ2025の分科会で、春闘期に学びあいたいテーマをオンラインで再び開催する企画の第6回。職場の仲間を組合に誘いたくても誘いにくい不安を乗り越え、声かけに踏み出す意識作りを学んだ。国公労連のわかりやすいイラストで表示されたテキスト「対話をすすめる5つのレシピ」をもとに、ペアに分かれてワークショップ形式での対話実践に挑戦した。

■When we fight 愛知の教育を語る会上映会 5月16日

ロスアンゼルス教員組合のアーリーン・イノウエさんを招いて開催された上映会には約105人が参加した。愛労連幹事会の開催日であったが位置づけて参加した。

■全労連単産・地方女性組織交流集会 5月17日

会場とオンライン併用にて開催。10単産・27組織、計75人が参加。午前中の学習会は「ジェンダー視点から考える働く女性の健康～初めて学ぶセクシャル・リプロダクティブ・ヘルス／ライツ～」と題し、土井希実さん（助産師）から話を聞いた。「わたしもOK、あなたもOK」な職場づくり、どんな人の個性も大切にされることは権利、ジェンダー視点で職場環境の見直しを、などが話された。午後は、行動提起や各組織の発言などがあった。

■第52回東海自治体学校 5月17日

愛労連は産業構造研究会「あいちの産業構造から読み解くジェンダーギャップ」分科会を担当しました

5月15日、名城大学ナゴヤドーム前キャンパスで開催された第52回東海自治体学校には、三重県伊賀市で「公共の再生」にとりくむ稲森市長をお招きし、市長本人から特別報告をいただきました。午後の分科会では愛労連がとりくみ続ける「製造業中心の産業構造と愛知のジェンダーギャップ」の関係性を専門家（研究者）と現場（愛労連女性協・青年協）の目線から紐解きました。

■名労連結成事務局会議 5月18日

結成大会に向けた最終的な打ち合わせとなった。当日の運営や分担、議題の整理などを行った。

■社保協理事会 5月18日

保険医協会伏見会議室でおこなわれ、参加者は保険医協会、民医連、自治労連、医労連、年金者組合、名古屋市職労などから18人。①7月開催のあいち社保協第46期定期総会について活動報告の提出について、記念講演について、各組織の代議員についてなど確認した。②その他の各課題についてこの間のとりくみ状況、今後のとりくみなど協議した。

■草の根69行動 5月19日

栄メルサ前で平和を訴えた。愛高教、名古屋市職労、新婦人、愛知国公、愛知県平和委員会、県事務局の9人が参加。核禁署名13筆、非核三原則署名4筆が寄せられた。

■あいち総がかり行動街頭デモ 5月19日

栄交差点でスタンディングデモとして行われ150人が参加した。参加者にスピーチを呼びかけ

代わる代わる平和と改憲阻止に向けた思いを訴えた。SNSやデモカレンダーを見て参加する人も多数合った。

■東海北陸ブロック労働相談研修会

5月20日

「職場における熱中症対策について」の勉強会（講師：全労働三重支部 佐藤祐馬さん＝雇用機会均等）、各県からの報告（愛知は長江相談員から、労働相談を機に、医労連で組合結成経過など）、グループ討議。参加は全体37人、愛知から9人(内1名リモート)＝労働相談員6、国公1、名北労連1、竹内事務局長。

■ライフトーク2026

5月20日

午後8時～9時10分。当事者5人参加・オンライン（建交労2・自治労連1・医労連1・国公1）、対策委員6人（うち1人はオンライン）。自己紹介、本日のライフトークの目的、事前アンケートの集計（17枚集約）にもとづき、①外食費、②家賃、③クリーニング代、④交通費、⑤教育娯楽費、⑥理美容用品費、⑦交際費・その他の順に参加者から発言した。一定の合意金額をトークした、6月4日の対策委員会で（案）について議論する。

■東海大王製紙P労組ハラスメント裁判第2回人証尋問

5月20日

48人の傍聴枠に支援者側が48人、記者や一般からも傍聴希望者が集まり抽選がおこなわれるなど注目を集めた。和解したはずのパワハラをおこなった上司B、セクハラをおこなった上司被告A、原告の尋問がおこなわれた。上司Bは謝罪し和解したにも関わらず、会社側の証人として原告の人格を非難する証言もあった。傍聴者からは「被告A上司Bも悪いことをしているのを理解していない」「被告Aの行動は気持ち悪い」「会社も裁判官に対してまともに答えず逃げ回っていた」「会社も申し訳ないことをしたと言う気が無いのが凄く分かる内容」などの感想が寄せられた。裁判後の報告集会では、多くの傍聴が原告の力になったと感謝が述べられた。

■安保破棄実行委員会常任幹事会

5月20日

経過では長射ミサイル配備反対、特定利用空港・港湾指定撤回で東海防衛支局に申し入れ、安保総会、各団体のとりくみ（愛労連は平和行進、NPT）など。情勢議論。今後、①9条署名、②特定利用港湾・空港問題では署名スタート集会、③ミサイル配備反対で9月27日(日)小牧平和県民集会、④日米地位協定改定、⑤沖縄知事選、6月5日～7日に支援行動、7月20日(祝)に集会ができないか。⑥公務員の兼業禁止問題と自衛隊予備官で学習会が開催できないか。

次回、6月17日（水）10：00 愛労連、8月24日（月）10：00～（7月は調整）

■平和行進実委／原水協理事会

5月20日

オンラインと合わせて開催。NPT行動の報告、平和行進や原水爆禁止世界大会に向けてのとりくみについてなどが検討された。あいち平和行進は5月30日～6月11日。行進への参加、署名、ペナント支援などが呼びかけられた。

次回理事会&平和行進実行委 6月17日（水）18：30～ @愛知民主会館

■サマセミブロック実行委員会

5月21日

リモートでおこなわれ、参加者は石川3、愛知2、岐阜、静岡2、福井の計9人。①第32回サマセミの記録集の作成について、確認した。今回の確認で感性として、今後各県にデータで送付することとした。②全体の流れ、各パート具体化の現状、参加費設定について協議した。各パートの具体化については、今後担当兼に持ち帰り具体化を進める。参加費設定については、フル参加で15,000円を下回りそうだが、今後詳細を詰めて決定する。一部から全体の日程終了後に置くのと地方を巡るなどのオプションルツァーの希望が出されたが、サマセミ実行委員会としては実施しないこととした。代わりに有志でサマセミ反省会（仮）をおこなう方向で検討を続ける。③6月14日の現地

下見など今後のスケジュールを確認した。次回実行委員会は6月18日とした。

■クールクライメートあいち事務局会議 5月21日

6月6日に実施する碧南・武豊火力発電所見学ツアーについて打ち合わせを行った。バスにまだ余裕があることから5月末まで参加を受け付けることとした。当日の運営や分担などについて確認した。

■第3次最賃デー（名駅宣伝） 5月22日

17:30～18:30まで実施。参加は19（自治労連5、建交労2、検数労連2、医労連1、国公1、愛教労1、千種名東1、事務局6）、署名15筆、シールアンケート協力24人。人通りが多く、横断幕やプラスターに注目。署名は、画板を持って立っているだけであったが「署名します」と来てくれる方がいて15人とこの場所では最近になり集約。シールアンケートは市職労の2人が頑張ってくれてくれた。生協労連の柳委員長が名古屋で会議があり、偶然立ち寄ってくれた。取材：赤旗、民報。

■Ai青年協幹事会 5月22日

愛労連応接室とリモートでおこない、参加者は医労連2、自治労連、愛高教、建交労、福保労、愛労連の計7人。①5月10日の地引き綱について振り返りをおこなった。②青年協の今後のとりくみについて、夏に工場見学や陶芸体験などをおこなう方向で今後具体化する。③サマセミについて、ブロック実行委員会での進捗状況を確認し、あいち実行委員会について協議した。サマセミ参加を広げる事を目標とし6月5日に実行委員会、夏頃にプレ企画をおこなうこととした。④青年協総会、代表委員会について日程を協議し、総会を11月29日(日)、代表委員会を10月17日(土)に開催する予定とした。

■あいち平和行進出発集会 5月22日

5月30日からスタートするあいち平和行進にむけて、愛友会理事長の金本弘さんの挨拶、NPT行動の報告、通し行進者から意気込みや、コール・歌の練習などで意思統一をおこなった。

■愛友会定期総会 5月23日

寺田副議長が参加し、愛労連代表して連帯のあいさつを行った。

■春の自治体キャラバン実行委員会 5月24日

愛知県と名古屋市以外はすべて訪問が終わった段階での会議であった。瀬戸市では窓口業務と図書館が再公営化されること、東海市では公契約条例制定に向けて準備がされていることなどいくつかの成果を確認することができた。

名古屋市との懇談は6月3日(水)、愛知県は8月7日(金)に実施する。愛知県については、県下の状況をまとめてから行う。

■全労連・メディア講座 5月24日

オンラインメディア講座第3期、第1回は「労働組合のジェンダー表現を安比デートしよう」と題して、神奈川新聞記者の松島佳子さんから話を聞いた。発言や表現は、たとえ発言者に悪気や差別する意図がなかったとしても、無意識の偏見をばらまき、差別を迫認し、誰かを傷つけたり苦しめたりすることにつながる恐れがある、なぜその表現がだめなのか、背後に潜む構造や問題を知ることが大事、などが話された。家父長制に支配された表現、ステレオタイプ化された女性像、性別役割分業、過剰な性別表示など様々な例をあげて、仲間と話し合い意識をアップデートする必要性が訴えられた。

■福祉保育労キンダーボルト分会結成お祝い会&記念学習会 5月24日

福祉保育労に、新たに児童養護施設で分会が結成された記念の学習会が開催され、オンライン含め44人が参加。「児童養護施設等社会的養護施設における組合運動の大切さと役割」と題して、全国福祉保育労働組合副委員長、児童部会制度政策提案会議委員長の武藤素明さんから話を聞いた。子どもの権利を守るためには職員増など職員の権利も大切。県や国への要請をおこなうなど、組合は経営面でも役立つ点を掲示板などでアピールを、な労働組合の大切さが話された。

■医労連あまこだ労組労働委員会 5月26日

労働委員会第8回調査が行われ調査が行われた。次回9回調査で、争点、証人、尋問期日証人を確認。次回は7月7日（火）13:00から

■社保協地域医療委員会(424) 5月27日

医労連会議室でおこなわれ、参加者は医労連、全医労、国公、愛労連、社保協から計6人。①情勢報告で自民維新が進める11万床削減について、これまでの削減状況や今後予想される削減数について確認した。その他、6月からの診療報酬改定に伴い、病院の予約キャンセル料について報告された。②県内各地域の医療機関について、県立がんセンターの建て替え構想や西尾市民病院、稲沢市民病院について確認した。③今年度の愛知県懇談について、10月までに懇談を実施するため、今後要請書の作成、申し入れをおこなう事を確認した。④次回は7月16日(木)10時から医労連会議室でおこなわれる。

■あいち総がかり行動事務局会議 5月27日

6月19日の集会及び7月から9月のとりくみについて議論した。6月19日の集会デモについては参加者が広がっており、600人の参加を想定することとした。デモ行進はサイレント梯団もつくることとした。7月19日はスタンディングデモ、8月19日は街頭宣伝、9月19日は集会・デモを計画することとした。県政課題の懇談を各種団体に呼び掛けていくこととした。

■革新県政の会代表常任幹事会 5月28日

県民本位の県政実現（2027年2月知事選）に向けた具体化として、各団体との県政課題の懇談、東三河、西三河、尾張（尾東・尾西）、知多地域での地域別懇談会の開催、県政ナイトあいち「ミニ学習」当面とりくんでいくこととした。SNSチームを再開し、県政課題について発信していくこととした。

■労働相談センター第6回全体会議 5月28日

9人参加。新規は3月38件、4月28件。建交労3名加入。相談内容を確認し、相談情報の共有で討論。次回2027年度第1回 7月29日（水）13時～15時。東館403会議室。

■第56回愛知県消費者大会第14回実行委員会 5月29日

14名参加。消費者大会実行委員会の規約の見直しと、今後の運営や会の在り方などについてコープあいちから提案があり、話し合いをおこなった。

6月19日（金）13:30～15:30 @イーブルあいち

■秋の自治体キャラバン実行委員会 5月29日

労働会館本館でおこなわれ、参加者は自治労連、医労連、福保労、年金者組合、名古屋市職労、保険医協会、民医連などから14人。①2025年のキャラバンの到達点について確認した。②2026キャラバンの実施にむけての養成項目・アンケート作成などの担当やスケジュールを確認した。③今後の実行委員会の日程を決めた。次回は6月24日(水)10:00からおこなわれる。

■名労連結成大会

5月30日

労働会館東館ホールで開催され、単産や地域組織から64人が参加した。激励のあいさつに駆けつけた愛労連の西尾議長は、名労連の結成を「名古屋の労働運動にとって歴史的な転換点」と位置づけ、各行政区・地域で、雇用・くらし・平和を守るために積み重ねられてきた努力と経験が一つの力として結集したことに敬意を表し、困難な時だからこそ「つながること」の重要性を再確認する必要があると述べた。地域労連は、職場の力だけでは届かない課題を、地域での共同と住民との連帯によって社会を動かす力に変える役割を持つと強調した。

記念講演には、全労連の竹下武事務局次長が駆けつけ、地方・地域組織活性化方針の中心点にふれつつ、「対話と学びあい」による組織づくり、地域組織が果たす役割、労働者の立ち上がりをつくり出すオルガナイザーの役割について講演した。

議案は、第1号議案綱領・規約・諸規則（案）、第2号議案加入組合の承認（案）、第3号議案地域協議会の設置（案）、第4号議案初年度運動方針（案）、第5号議案初年度予算（案）、第6号議案初年度役員（案）、第7号議案愛労連への加盟について（案）が提案され、すべての議案が圧倒的多数で承認された。

■憲法と平和を守る街宣

5月30日

5週目のため参加者が少なかったが5人で街宣をおこなった。人通りも多く、チラシの受取りが良かった。

■ケア労働者のための労働相談ホットライン

5月31日

全国一斉ケア労働者ホットラインを開催した。愛知の会場は色医労連、建交労、自治労連、福祉保育労、事務局の12名体制相談に応じた。相談内容は「ケアマネの担当が多く家族からハラスメント」「オムツ替えの負担増で離職が多い」など深刻な悲鳴が寄せられ、中日新聞にも報道された。

■あいち平和行進（奥三河地域）

5月31日

昨年好評だった奥三河コースを今年も開催。今年は全国通し行進者も山間部を車で移動しながらの行進をおこなった。新城市役所前集会では、新城市在住の被爆者の黒田レオンさんが被爆体験を語った。設楽町では、障害者施設のみなさんも一緒に行進。愛知県最奥地の豊根村では、山間部ののどかな街に平和の願いを込めた歌声を響かせてアピールした。東栄町では、浅生町議から東栄町が昨年平和宣言をおこなったことが報告された。碧南市役所から高浜市、西尾市でもとりくみが同時におこなわれ、全コースあわせてのべ349人が参加。募金は15,610円、ペナント7本が集まった。

■全労連東海北陸ブロック最低賃金学習会

6月1日

オンラインで開催し、55人が参加した。秋田県の最低賃金改定と発効日先送りの影響を学んだ。秋田県からは、人口減少・若者流出が深刻な中、県が最下位脱出をめざして地方最低賃金審議会に働きかけ、2025年度は過去最高の80円引き上げ、時給1,031円となったことが報告された。一方、発効日は2026年3月31日と全国で最も遅く、労働者が賃上げの恩恵を受ける時期が大幅に遅れた。県は中小企業支援として、賃上げ緊急支援金や省エネ・省力化、デジタル化補助を実施していると説明した。秋田県労連からは、発効日先送りにより労働者が5か月で6万円以上の賃金を失う実態や、自治体・県民からも「遅すぎる」との声が出ていることが報告された。参加者からは、発効日の原則化、中小企業支援の拡充、審議会への当事者参加、全国一律最低賃金制度の必要性が提起された。

■関健一郎議員に最賃署名提出

6月1日

全国一律最賃署名7000筆を関健一郎議員の地元事務所で議員本人に受けとってもらった。手

交後も会計年度任用職員問題や学校図書館の問題などについて詳しく聞いてもらった。

■あいち平和行進（岡崎市～安城市） 6月2日

台風接近で開催が危ぶまれたが、小雨程度で無事に行進がとりくまれた。岡崎市役所前の出発集会からスタート。集会での挨拶では中根市議が自作の旗を掲げながら平和の尊さを訴えた。岡崎城前まで行進し、電車で移動。南安城駅前での引き継ぎ集会後、安城花ノ木公園まで行進し集会。安城副市長、石川市議、白谷市議、森下市議が参加し挨拶をおこなった。その後の豊田駅前での行進では、昨年参加した高校生が大学生となった今年も行進に参加し、原爆の火を持ち先頭を歩いた。みよし市でも開催され、全コースあわせてのべ257人が参加。募金は161,278円、ペナント45本、折り鶴33,380羽が集まった。

■学習協常任理事会 6月3日

8人が参加。総会に向けて、議案内容の確認と、総会でのとりくみ内容、方法についてなどを話し合った。

次回常任理事会 7月1日（水）19：00～ 労働会館本館会議室

■春の自治体キャラバン名古屋市懇談 6月3日

名古屋市西庁舎で春の自治体キャラバン実行委員会と名古屋市との話し合いが行われた。懇談は自治労連愛知県本部の武藤貴子委員長のあいさつで始まり、高木強書記長の司会で、職員の賃金・労働条件、公契約制度、住民サービスの充実を中心に意見交換した。市側からは総務局、財政局、経済局、健康福祉局、子ども青少年局、教育委員会事務局などが出席した。

職員体制について、要請側は正規職員の確保、育休代替の正規配置、会計年度任用職員の不安定な任用の見直しを求めた。市は、必要度・重要度の高い事業に重点配置し、育休代替の正規配置も実施していると説明した。会計年度任用職員については、5年目上限後の一定基準到達者を公募によらず任用できる見直しを令和11年4月採用から実施予定と回答した。

また、要請側は時給1800円以上・月額27万円以上への賃上げ、会計年度任用職員の均等待遇、休暇制度の拡充、勤務時間管理の適正化を要請した。事前アンケートでは、正規職員25,902人、フルタイム会計年度任用職員225人、パートタイム8,361人、正規職員による育休代替547人などの実態が示された。市は人事委員会勧告や国・他都市との均衡を踏まえ対応するとし、休暇制度では部分休業や子どもの看護等休暇の拡充を説明した。

■全労連地方労連事務局長交流会 6月3日

全労連の常任幹事や事務局を含め51人が参加した。集会では、全労連「私たちの地方・地域組織の活性化をめざして－強化・拡大に向けた対策方針－（案）」（2026.7.25-27第33回定期大会での確認めざし討議中）について改めて全労連から説明された。対策方針では、①地方・地域組織の「役割と意義」の再定義化、②強化・拡大と運動強化のすすめ方（具体化の方向性）、③全労連の役割を考える、この三点について、討議を深めた。

■A i 社会的な賃金闘争対策委員会 6月4日

まず2026年版愛知県最低生計費試算結果案について浅生氏から報告を受け、6月26日の記者会見での発表に向けて内容を確認した。あわせて、公契約条例制定の状況を確認し、東海市が来年4月から条例制定予定であること、県内でも複数自治体が検討段階にあることが報告された。前回以降の取り組みでは、ライフトーク2026、NHKによる最低生計費・最低賃金取材、5月22日の名古屋駅ビッグアクション、東海北陸ブロックによる秋田県との懇談などを共有した。6月5日の愛知県要請では、ケア労働者の賃上げと最低賃金引き上げを連続して要請し、知事のイニシアチブ発揮や県独自の中小企業支援を求める方針を確認した。6月12日の東海北陸ブロックキャラバンでは、最低賃金をただちに1700円以上へ引き上げること、発効日先送りを認めず、原則どおり早期発効を

求めることを確認した。さらに、6月26日に労働局へ提出する要請書案について、最低賃金法上の「労働者の生活」や単身者生計費、意見陳述の実施、ケア労働者の実態反映、審議資料の偏りなどを論点に協議した。最後に、署名1万筆達成、大学前宣伝、労働局要請、県政記者クラブでの記者会見など、今後の行動計画を確認した。

■A i ケア労働対策委員会

6月4日

6月5日の愛知県との懇談の打ち合わせを行った。6月改定の評価においては政府は1万9000円引き上げと言うが定昇分も含まれている。しかしそもそもが定昇を含めても19,000円にも届いていないこと。5月の賃金よりも改定に伴って賃下げとなった事例なども確認があった。東京都、大阪府ら流山市などは、自治体独自の政策で人材確保対策が行われており、愛知県単費の強力な支援を改めて要請することを確認した。

参加は福保 薄、西田、越須賀、医労連矢野、池田、近藤、建交 田村、自治労連高木、事務局西尾が参加した。

■サマセミあいち実行委員会

6月5日

愛労連応接室でおこない、参加者は福保 2、自治労連、化学一般、青年協 2、愛労連の計7人。2026年9月に開催される第33回サマセミについて、ブロック実行委員会での具体化の進捗状況の確認、愛知担当パートの具体化について協議した。

■A i ケア労働・最賃愛知県懇談

6月5日

愛知県三の丸庁舎で行われ、前半のケア労働者の大幅賃上げ等に係る対県要請には、要請側13人、県側11人が参加した。

愛知県内の医療・介護・福祉・保育等のケア労働者について、物価高騰と低賃金、人手不足、夜勤・訪問・送迎等の過重負担、育児・介護との両立困難などの実態をふまえ、国への強い働きかけと愛知県独自の支援策を求めて懇談を行った。

要請側からは、6月からの報酬・加算改定により「月1万9千円程度の賃上げ」と説明されても、定期昇給分を含むため現場では実際のベースアップが限定的であり、全産業との賃金格差が解消していないこと、職員流出と採用難が続いていることが強調された。

県側からは、多くの事項について、報酬・公定価格が全国一律制度であり国に要望していく、県独自の人件費補助は現時点では考えていない、既存制度や補助事業の活用を進める、という回答が中心であった。一方、総合確保基金等を活用した賃上げ財源の検討については、要請側の意見を踏まえて内部で共有・検討する旨の発言があった。

後半の最低賃金引き上げに係る対県要請では、要請側10人、県側7人が参加した。県側は、賃上げは必要としつつ、生産性向上やデジタル化、ロボット活用、人材育成支援などを進めると回答。愛労連側は、知事による審議会への明確な意見表明、意見陳述の場の確保、時給1,800円をめざす水準、医療・介護など生産性だけでは測れない分野への直接支援、価格転嫁支援の強化を求めた。

■クール・クライメート火力発電所見学ツアー

6月6日

32人が参加した。碧南火力発電所では、屋内での説明及びバスでの設備見学が行われた。アンモニア混焼やアンモニアへの完全移行でCO₂排出量の削減が語られた。見学後、昼食会場ではスタッフからアンモニア自身をつくる際に大量のCO₂を排出し、まともな対策にならないことが語られた。武豊発電所前では、地元のスタッフが同発電所の歩みとともにバイオマス発電の欺瞞について報告した。

■全労連非正規全国交流集会

6月6-7日

6月6日～7日、滋賀県大津市で開催された「第34回非正規ではたらく仲間の全国交流集会in滋賀」が開催され、愛労連が準備したワゴン車2台に乗り合わせ、パ臨連・非正規公務員一万人プロジェ

クトに関係する単産から通算で18名が参加した（WEB視聴参加者は除く）。1日目の全体会では、パ臨連幹事の永井優子さん（自治労連）がパネラーとして登壇し、非正規としてはたらく学校図書館司書としての実態を語り、会場から学校図書館の実態に驚きの質問が相次いだ。二日目の分科会については、それぞれが抱える課題に即したテーマに分散参加。集会終了後、復路では団体でスイーツのお土産を購入し、車中でも参加者間の交流が深まった。

■あいち平和行進（集中行進）ピースアクション 6月7日

名古屋市内14コースで市内集中行進がとりくまれ、若宮大通公園ミニスポーツ広場で開催されたピースアクションを含め約1500人が参加した。集会は、金本弘愛友会理事長のあいさつ、参加者報告、県通し行進者紹介、全国通し行進者の三浦コト子さん、尾崎庸美さんの挨拶、わかやま市民生協行進者挨拶、あいち学生平和会議からの発言と募金の訴え、会場にゴールした平和大好きマラソンメンバーの紹介などがあった。うたごえ合唱で送りだされた折り鶴平和行進では、大須の街を「核兵器なくそう」とコールしながら約200人で雨の中でも元気に行進した。募金113,303円、折り鶴36,000羽、ペナント192本が集まった。

■第56回愛知県消費者大会労働組合代表での打ち合わせ 6月8日

愛労連・自治労連・名古屋市職労の代表、消費者大会事務局担当で、消費者大会実行委員会の次年度以降のあり方について検討した。

■全労連幹事会・全労連地方組織幹事打ち合わせ 6月17-18日

地方組織選出の全労連幹事および全労連事務局で6月3日に開催した「全労連地方組織事務局長交流集会2026」の振り返り会議を行った。分散討論を組織の規模別で分けて行ったことで悩みや課題が共通しており議論しやすかったことが報告された。

■Ai女性協第11回幹事会 6月17日

6人が参加。会議前半では、NPT再検討会議ニューヨーク行動報告会をオンライン視聴して学習をおこなった。とりくみの振り返りと各組織の活動報告、今後のとりくみなどを話し合った。女性協総会の内容や議案について検討した。

次回幹事会は、7月8日（水）19:00～ @愛労連応接室

次々回幹事会 9月16日（水）19:00～ @愛労連応接室

■平和行進実行委員会&原水協理事会 6月17日

オンラインと合わせて開催。平和行進のふりかえりと来年にむけてのとりくみ方法の検討や、原水爆禁止世界大会に向けて。

次回理事会 7月15日（水）18:30～ @愛知民主会館

■愛知共済会一日事務局会議 6月17日

労働会館東館409でおこなわれ、参加者はきずな2、JMITU、建交労、愛労連、事務局2の計6人。この間の共済の増減・給付の確認やとりくみの報告、7月5日の総会に向けて議案の協議、当日の運営に就いての確認などをおこなった。

■安保破棄実行委員会常任幹事会 6月17日

5名参加。経過報告（5.29特定利用港湾撤回署名、6.3アジア大会でのブルーウパルス飛行反対の申し入れ）、加盟団体のとりくみ報告。情勢討議、当面のとりくみ、憲法署名、特定利用港湾撤回署名、沖縄知事選勝利をめざす愛知のつどい＝7月20日（月・祝）13:30～東館ホール、沖縄選挙支援ツアー（8月下旬～4日間程度）、小牧平和県民集会（9月27日 午後 場所協議中）、予備自衛官等兼業特例法。次回以降の会議：7月27日、8月24日、9月16日、い

ずれも10時～。医労連と愛労連を順番に。

■サマセミブロック実行委員会

6月18日

リモートでおこなわれ、参加者は石川5、愛知2、静岡2、福井の計10人。①6月14日の現地見を受けての3日間の構成を協議した。大きな変更としては、1日目の夕食交流会から夜の交流会にかけて調理室を使用すること、3日目の全体会を内灘地域でなく、青少年研修センターでおこなう事とした。②全体のスケジュールがほぼ決まった事で、参加費設定を協議し、全日程参加で15,000円とするとし、チラシの作成を急ぐ。③次回実行委員会を7月23日におこなうこととした。

■消費者大会実行委員会

6月19日

11名参加。消費者大会実行委員会の今後の運営や会の在り方などについて話し合いをおこなった。第56回をもって、生活協同組合コープあいちが抜ける報告があった。次回からは第57回大会にむけての話し合いを始めることとした。今後の会の運営方法や講座の開き方など新しい体制に合わせていくための話し合いをおこなっていく予定。

7月30日（木）13：30～15：30 @イーブルなごや

■あいち総がかり行動6.19集会

6月19日

名古屋市中区の久屋大通公園・光の広場で6.19集会を開催し、450が参加した。集会では、憲法をいかし、戦争する国づくりを許さない運動を広げることを確認した。参加者からは、軍事費の拡大や社会保障の切り捨て、物価高に苦しむ市民生活の実態が語られ、平和とくらしを守る政治への転換が訴えられた。主催者は、改憲を許さず、地域から対話と共同を広げる重要性を強調。集会後は参加者が市民にアピールし、憲法を守りいかに世論をさらに広げる決意を固めた。

■第22回愛労連パート臨時労組連絡会総会

6月21日

6月21日の午後、労働会館にて第22回パ臨連総会が労働会館にてハイブリッド開催された。参加者は会場36名、オンライン5名の計40名が参加した。

総会に先立ち、職場に残る「正規と非正規の不合理な待遇差」調査結果（簡易版）を若井副議長から報告し、そのうえで10月1日から施行される改訂「同一労働同一賃金ガイドライン」について、生協労連の柳委員長を講師に招き、当事者参加型の企画として「対話と学びあい」の実践の機会とした。

総会では、2027年度の運動方針および新役員体制を確認した。

新役員体制は以下のとおり

代表幹事	長坂圭造	（自治労連）
幹事	溝田由美子	（建交労）
幹事	鈴木洋子	（生協労連コープあいち労組）
幹事	瀧口想真	（福祉保育労東海地本）
幹事	原真理子	（愛知県医労連）
幹事	石家誠実	（郵政ユニオン）
幹事	永井優子	（自治労連）

■春自治体キャラバン議会陳情（尾張旭市）

6月22日

竹内事務局長が主旨説明に参加した。陳情は国に最低賃金全国一律制を求めるもとの愛知県に最低賃金の大幅引き上げに積極的な役割を果たすことを求める2本。いずれも急激な変化や事業者に対する配慮が委員から発言され、賛成無しで否決された。

■社保協理事会

6月22日

保険医協会伏見会議室でおこなわれ、参加者はリモート含め16人。①7月12日の総会にむけて、

次第、議案書、ライキ役員体制などの確認をした。記念講演として社会保障研究者の芝田英昭さんの講演がおこなわれる。来期役員体制では、事務局長の交替に加え、急遽議長も交代となる。そのほか四役でも若干の変更がある。②高額療養費の改悪問題でパブコメのとりくみが呼びかけられた。

■全労連オンラインメディア講座／ジェンダー表現をアップデート② 6月22日

オンラインメディア講座第3期、「労働組合のジェンダー表現をアップデートしよう」と題した講座の第2回。第1回でも講師だった神奈川新聞記者の松島佳子さんから、実技と講評として、ジェンダー表現で失敗しないために実技を交えながら学ぶ、とした話とグループに分かれての交流をおこなった。過去の全労連新聞の掲載例をもとに、今の時代にあわせるとどのような表現が良いか、などが話し合われた。ジェンダーに対する無理解は、組織の評判や評価を下げ、人を傷つけたり、不快にしたりする。組織全体で意識をアップデートさせることが大切、などが訴えられた。

■春キャラ議会陳情（半田市） 6月23日

半田市議会の建設産業委員会で最賃についての国と県への意見書の趣旨説明をおこなった。意見書は2件とも全員一致での不採択となった。

■メーデー実行委員会 6月23日

労働会館東館409でおこない、参加者は自治労連、名高教、東海共同印刷、愛労連4の計7人。①第97回愛知県中央メーデーについて振り返りをおこない、来年のメーデーにむけて協議した。今回の内容について、集会のテンポ、メーデー宣言を軟らかい表現で作成したこと、悪天候での早急な判断など評価され、名古屋市職労のお菓子を配りながらのメーデー参加の呼びかけなど良かった点の共有もされた。②来年のメーデーについては会場の問題などが懸念事項となるが、5月1日が土曜日となる事から、平日の参加が難しい教員などの参加を広げたい旨の話がされた。また、会費の値上げについては、さまざまな事情から見送ることを確認した。③次回実行委員会について、例年よりも指導を早め、12月9日にメーデーに向けての要求交流、参加者を広げるとりくみの相談などおこなう事とした。

■労働会館幹事会 6月24日

あつた祭り・新歓交流会には9団体25名が参加し交流を深めた。警備防犯報告としてカギボックス開放などがあり徹底をはかる。監視カメラ設置について西垣電気4カ所工事7月中旬に実施予定。東館5Fギャラリーの無断使用について注意喚起していく。会議室予約を日程振り替えによってキャンセル料の請求対象から外す申請を受けたとき、当初の予約と振り替え後の予約のうち、高い方の運営分担金を適用することを確認した。

■秋の自治体キャラバン実行委員会 6月24日

労働会館本館でおこなわれ参加者は自治労連、医労連、福保労などから14人。2026年のキャラバンにむけて、要請書と事前アンケート案について協議した。

■愛知共済会理事会 6月24日

労働会館東館409でおこなわれ、参加者はきずな2、JMITU、建交労、愛労連、自治労連、年金者組合、タクシー協議会、全国一般、事務局2の計11人。この間の共済の増減・給付の確認やとりくみの報告、7月5日の総会に向けて議案の協議、当日の運営に就いての確認などをおこなった。また、今後のとりくみとしてハゼ釣り大会、共済学校の日程を決めた。

■国民春闘共闘第2回単産地方代表者会議 6月24日

全労連会館2階ホールで開催され、105人（会場55人、オンライン50人）が参加した。午前は兵頭淳史専修大学教授による「労働組合と政治・護憲運動」の学習を行った。午後の代表会議

では秋山正臣代表幹事の主催者あいさつ、黒澤幸一事務局長による「2026国民春闘中間総括案」の提案を受けて討論した。秋山代表幹事は、26春闘で3年連続の賃上げを勝ち取った到達を確認しつつ、物価高騰、軍事国家化・改憲の動き、労働組合の団結と組織拡大の重要性を強調した。黒澤事務局長は、山形の農協労組が月額5万5千円の賃上げを引き出した事例を紹介し、生計費原則に立った要求づくりと交渉の意義を提起した。あわせて、26春闘はケア労働者や非正規労働者の賃上げを、職場交渉と社会的な賃金闘争、地域共同の力で前進させてきた春闘であると報告した。討論には、会場・オンラインから14人が参加し、ケア労働者・非正規労働者の賃上げ、最低賃金闘争、ストライキ、最低生計費試算、公契約条例、改憲阻止・平和運動などの実践を交流した。各発言では、物価高に負けない賃上げを実現するため、職場で要求をつくり、地域で世論を広げ、単産・地方が支え合うことの重要性が確認された。討論後、黒澤事務局長が発言を受けてまとめを行い、議案は承認多数で採択された。

■瑞穂区労連解散大会

6月24日

名労連瑞穂地域協議会の結成大会がこまくさ会議室で開かれ16人が参加した。はじめに、2026年度瑞穂区労連第38回臨時（解散）大会を開催し、名労連の結成にともない、瑞穂区労連を解散し、瑞穂地域協議会へ移行することを確認した。

議案では、1989年の愛労連・全労連結成以降、行政区ごとに地域労連が地域で働く仲間と市民の共同を広げてきた歴史を振り返った。そのうえで、名古屋市に対する要求実現や統一的な運動を進展させるためには、名古屋市全体を網羅する地域組織が必要であるとして、5月30日に結成された名労連のもとで地域協議会として再出発する意義が確認された。

活動報告では、秋・春の地域総行動、トヨタ総行動、愛知県中央メーデー、平和行進などの取り組みが報告された。平和行進では多くの参加者とともに、戦争を許さない思いを地域から発信した。

結成大会では、瑞穂地域協議会の規約、当面の方針、役員体制などを確認した。質疑では、名労連と地域協議会、各組合との関係や、事務所経費、今後の運営について意見が出された。参加者からは、労働相談や地域運動の経験をふまえ、困っている労働者を支え、地域で声を上げる労働組合の役割を引き続き発揮していこうとの発言があった。

最後に、参加者全員で団結がんばろうを行い、瑞穂地域協議会として新たな一歩を踏み出した。

■春キャラ議会陳情（犬山市）

6月25日

犬山市議会の3つの委員会での陳情をおこなった。参加者は国公、福保労、愛教労、自治労連、愛労連の計5人。実行委員会が提出した意見書採択を求める陳情書について趣旨説明をおこなった。

■自治労連機関紙コンクール

6月25日

自治労連の各組織の機関紙審査会に10名が参加した。組合員の顔が見える紙面になっているか、労働組合の姿が見える紙面になっているか、読みやすく心をうつ記事や見出しになっているか、など、さまざまな審査基準にもとづき審査をおこなった。

■JMITUオハラ中労委事件弁護団会議

6月25日

リモートでおこなわれ、参加者は弁護士2、JMITU愛知2、JMITU中央2、オハラ2、中労委参与、愛労連の10人。7月19日の中労委調査にむけて、①事件の経過を中労委参与・片桐氏に知ってもらうため説明した。愛労委の労働者委員参与が弁護団会議に1度も参加しなかったなど愛労委についての評価もおこなわれた。②中労委は和解が多い傾向にあり、今回も和解が提案される事が予想されるが、会社側が不当労働行為などを認め、今後おこなわないように結審させる必要があるなど意見が出された。また、事件の背景を公益・使用者参与にも伝えるべきとして、参与からは書面で提出してほしい旨の話がされた。③当日は開始30分前に集合し、打ち合わせをおこなうこととした。

■愛知最賃デー（労働局要請・最低生計費公表記者会見）

6月26日

最賃審議会と愛知労働局あてに「愛知県最低賃金を1800円以上とし、中小企業支援を求める要請」署名の第一次分12442筆（うち用紙署名6500筆・オンライン5942筆）と、「愛知県最低賃金を1800円以上に引き上げるために、生計費重視・開かれた審議、中小企業支援を国に求めること及び早期発効を求める要請書」を提出。12人が参加。要請の冒頭、西尾議長は本日発表する最低生計費試算結果（以下、生計費）にふれ、「最賃引き上げで格差是正、中小企業支援、意見陳述の実現」を要請した。

要請団は、「審議会で生計費にかかわる資料の採用（愛労連は4つの資料の要請）」「全国約8割で実施されている意見陳述の実現」「中小企業支援に対する県と国への要望」「休会時間が長い、公開審議の充実」を求めた。また、最賃近傍で働く労働者、生活を切り詰めている青年の声を紹介した。労働局は「生計費資料の採用は、エビデンスを確認し検討する」「意見陳述は様々な職種・形態で働く労働者の意見を聴く機会を設けることについて審議会に説明する」「中小企業支援の要望は確認する」「審議会の休会時、再開時の時刻を議事録に記載することは検討」「発効日が遅れることで労働者の生活に影響が及ぶことは理解する」「要望を審議会に伝える」と述べた。しんぶん赤旗が取材し29日報道した。

愛労連は、6月26日午後、県政記者クラブで「愛知県最低生計費試算結果（若年単身世帯）-2026年改定版」を公表する記者会見を行った。14人が参加した。幹事社の中京テレビ、中日新聞（6.30報道）・読売新聞・毎日新聞・東愛知新聞社・しんぶん赤旗（6.29報道）、愛知民報が取材。司会を医労連の池田さん（書記次長）が努め、竹内創事務局長が調査の結果と意義、浅生卯一さん（元愛知東邦大学教授）が根拠と計算方法、近藤学さん（医労連組合員・介護福祉士）が低賃金の実態を発言した。この日の早朝宣伝は雨天で中止した。

■県政ナイトあいち／愛知の兵器産業

6月26日

オンラインで開催され26人が参加した。平和委員会の城下氏が愛知県内の軍需産業をテーマに講演した。講演では、航空機、ミサイル、銃器などに関わる企業が県内に多数存在し、愛知が日本の軍需産業の重要な拠点となっている実態が示された。参加者からは、軍需産業で働く労働者やその家族を攻撃するのではなく、平和産業への転換を展望しながら、どのように県民的対話を広げるかが課題であるとの意見が出された。戦争する国づくりが進むもとで、県政として平和と暮らしを守る視点を明確にする重要性を確認する機会となった。

■勤通大スクーリング&愛知学習協総会

6月27日

労働会館本館で開催。勤通大スクーリングでは、若者気候訴訟の原告 安部芙祐実さんから「気候危機と私たち～その実態を学び、友に考えよう～」と題した講演を聴いた後、グループワークをおこなった。「自分にできることから、少しずつ自分や地球環境にやさしいこと良い選択をしていきましょう」と呼びかけられた。その後の総会では、議案提案報告後、グループに分かれてOSTの手法を用い交流をおこなった。

■革新愛知の会2026年度世話人会

6月27日

労働会館東館ホールで2026年拡大世話人会を開いた。第1部では全国革新懇代表世話人の富田宏治氏が「憲法を真ん中にすえた共闘の前進を草の根から」と題して講演し、高市政権の危険性と、草の根の対話で政治を動かす重要性を強調した。第2部では、12月総会に向けた活動方針を提案。各地域から、ペンライトデモ、平和教育、特定利用港湾反対署名、県政革新など多彩な実践が報告された。講演会にはオンラインを含め95人、世話人会には18地域15団体から46人が参加した。憲法を真ん中に、地域・職場から共同を広げる決意を固めた会となった。

■きずな定期大会・結成45周年のつどい

6月28日

昨年きずな結成44周年つどいを行い、45周年を峰に組織拡大に奮闘しようこの日を迎えて

きた。つどいでは、スコップ三味線のオープニングにはじまり、第1部は城下委員長のあいさつ、愛労連西尾議長のあいさつ、スライドで観る支部・分会の活動、初代執行委員長河合孝徳さんのあいさつ、新組合員紹介が行われた。城下委員長は、「支部の多彩な取り組みがそれぞれの地域で輝いており、最賃運動の牽引役になっている。50周年に向けて300名組合員をめざそう」と組合員に敬意と激励を表した。西尾議長は、「きずなの組合員の一人ひとりが『きずな』労働組合。当事者を主体とした組合活動のさらなる飛躍を」と激励した。河合さんは「45周年経ったいま、きずなが200名を超える仲間と元気よく地域で運動を展開しており、感無量。結成当時、「きずな」はいつまで持つかとの声もあったが、45年経った今も地域に根付いている。組織から指導を受ける運営ではなく、自分たちで考えて力を合わせて困難を切り拓いてきたから。地域の労働者の権利向上をめざそう」と話した。

第2部は組合員が「ひとりベンチャーズ」でエレキギターを奏でた。東浦フィルハーモニーアンサンブルが管楽四重奏で、「青い空」「花が咲く」など平和や復興の歌を含めて演奏。それぞれの音のバランスと息の合った美しい音色と豊かな表現力に魅了された。

■全労連26春の組織強化・拡大交流集会

6月28-29日

静岡のつま恋リゾート彩の郷で行われた。各組織の困難や現状について、交流集会参加者全員で話し合い、解決策を見つけていくOSTの手法を取り入れおこなわれた。組織拡大の方針や計画も「ボトムアップ型」に転換していこうと、参加者で関心や課題を元にした分散会のテーマを出し合い、グループワークを2日間おこなった。テーマは、「OSTとCOは労働運動に有効か」「わくわくする交流だけで終わらないために」「役員のなり手をどのように作るか」「県労連の地域組織・単産単組への関わり方」「情報発信と組織拡大」「財政危機の乗り越え方」など11のテーマにわかれて話し合いをおこなった。ワークの結果から、秋闘に取り入れたいことを話し合った。ワークの中では、テーマについてだけでなく、そこから関連するジェンダー問題や誰もが参加しやすい運営方法、会議の開催方法などの課題についても話題に上がったことなども発表された。

■春の自治体キャラバン実行委員会

6月29日

9人（愛労連2、国公、建交労、福保労2、愛教労、自治労連2）が参加した。会議では、各市町村議会に提出した陳情の意見陳述と採択状況を確認し、西尾市、尾張旭市、半田市などで不採択が相次いだ一方、大口町では地方財政に関する陳情が一部採択となったことを共有した。参加者からは、議会での質疑や討論の特徴、住民要求を議会に届ける意義が報告された。

また、54市町村との懇談と事前アンケートのまとめを確認し、公契約条例、奨学金返済支援、自治体職員の処遇、保育・介護・学童・学校教育などの課題を整理した。県内市町村の取り組みには前進もあるが、制度の有無や内容に格差があり、愛知県の役割が重要であることが浮き彫りとなった。8月7日の愛知県懇談に向け、7月中旬までに重点項目を県へ示し、各分野の要求を具体化していくことを確認した。

■革新県政の会常任幹事会

6月29日

革新・愛知の会は6月29日、第8回常任幹事会を開き、当面する県政課題と知事選に向けた取り組みについて意見を交わした。会議では、IR・カジノ誘致問題について、ギャンブル依存症が本人だけでなく家族や生活全体を破壊する深刻な問題であることを確認し、愛知県が誘致に動くことの危険性が指摘された。また、気候危機問題では、碧南火力発電所などの見学報告を受け、石炭火力延命策やアンモニア混焼の問題点について理解を深めた。南海トラフ地震の新たな被害想定についても報告され、耐震化、家具固定、避難体制、災害時トイレ確保など、県と市町村の防災対策強化が必要であるとの意見が出された。さらに、軍需産業をめぐるのは、そこで働く労働者や家族を攻撃するのではなく、平和産業への転換を展望しながら対話を広げることが重要であると確認した。会議では、県政ナイト、団体懇談、地域別懇談、県政学習交流会を通じ、県民要求にもとづく政策づくりを進めることを申し合わせた。

■第525回愛知地方最低賃金審議会

7月2日

愛知地方最低賃金審議会がKKRホテル名古屋で開催された。小林洋子労働局長は、あいさつで審議会に対し「十分な議論をし、充実した審議を」と要望した。また、前日に県知事と意見交換を行ったことを報告。「知事から物価上昇等を踏まえた適正水準への引き上げが図られるべき」と発言があったことを紹介した。事務局から、6月12日に全労連東海北陸ブロックが行った要請書と同26日に愛労連が行った「愛知県最低賃金を1800円以上に引き上げるために、生計費重視・開かれた審議、中小企業支援を国に求めること及び早期発効を求める要請書」の内容を説明し、併せて、中央のテーブルに置かれた1800円への引き上げを求める署名の数などを報告し委員に回覧された。竹内事務局長ら愛労連から5人が傍聴した。同日付け、意見書と専門部会委員の公示が行われた。

■A i 第3三半期会計監査

7月2日

愛労連事務所で第3三半期および決算監査を実施した。監査1名が辞任していることから2名で行った。

■公務員賃金と最低賃金宣伝

7月2日

三の丸にて実施し、13人（国公3、自治労連6、医労連1、事務局3）が参加し、ビラ450枚を配布した。公務員賃金と最低賃金の引き上げとともに公務員の予備自衛官兼業特例法の危険性についても知らせ、労働組合の大切さを訴えた。

■公務員賃金と最低賃金宣伝

7月3日

三の丸にて実施し、13人（国公3、自治労連6、医労連1、愛教労1、事務局2）が参加した。公務も民間も、正規も非正規も、物価高騰のもとで生活を守るためには大幅な賃上げが必要であること、そのためには最低賃金1800円の実現と公務員賃金の大幅引き上げが必要であることを訴えた。チラシは775枚配布した。

■青年協幹事会

7月3日

リモートでおこない、参加者は医労連2、自治労連、愛高教、愛労連の計5人。①青年協の夏のとりくみとして、前回までの議論から更に具体化し、8月3日(月)にとこなめめんたいパークで工場見学をおこなう事とした。サマセミのプレ企画として位置づけ、当日開催している医労連ブロックアクトの参加者にも参加とともにサマセミの参加も呼びかける。②サマセミについて、あいち実行委員会の日程を7月17日とした。③11月の総会に向けて議案書の担当や作成スケジュールなど再確認した。④上部団体のとりくみについて確認し、7月19日の愛労連第74回定期大会は、澁谷議長が参加・発言し、愛高教の安田さんも青年協枠での参加を確認した。⑤次回幹事会は7月31日(金)におこなう。

■医労連定期大会

7月5日

谷藤副議長が参加し、愛労連を代表して連帯の挨拶をした。

■愛知共済会第37回総会

7月5日

労働会館本館で開催され、参加者は総代13人(委任状9人)、理事13人、監事1人、来賓1人、事務局2人の計30人。①議案提案で、2026年度の業務計画報告および2027年度の事業計画、2026年度決算および2027年度事業予算、役員改選提案・採択した。②共済についての学習の時間として「共済クイズ」をおこなった。③討論できずな、建交労など各共済会からそれぞれのとりくみなどについて発言された。

■あいち総がかり行動運営委員会

7月6日

当面のとりくみについて相談した。7月19日および8月19日はいずれも18:00から栄交差点（三越前）にて街頭デモにとりくむこととした。安保法制から11年となる9月19日(土)は、酷暑が想定されることから鯉城ホールにて東京大学の本多由紀教授を招いた講演とミニコンサート、終了後には栄までのデモ行進を計画することとした。

■Ai 財政担当者会議

7月7日

愛労連は7月7日、労働会館本館で単産・地域財政担当者会議を開催し、15人（8単産・3地域）が参加した。会議では、2026年度決算の概要と、2027年度以降の組織・財政運営、2027年度予算案について報告し、意見交換を行った。

2026年度は、経費節減を進めながらも、組合員数の減少や物価高騰などを背景に、積立金から1300万円を繰り入れる厳しい財政運営となった。2027年度予算案では、決算実績をもとにしたゼロベース査定を進め、積立金からの繰入額を1000万円に縮小する方針を示した。

大会や集会の経費、愛労連新聞、事務所スペースなどの見直しを進める一方、宣伝カーの更新など、要求実現に必要な運動基盤は維持する。参加者は、活動量を後退させることなく、組織拡大と財政健全化を一体で進める重要性を共有した。

■原水協核兵器禁止条約採択9周年記念行動

7月7日

栄メルサ前で、核兵器禁止条約採択9周年記念行動をおこなった。高市政権のいま、NPTの様子を伝えながら、「戦争反対」、「核兵器禁止条約への参加」を訴えました。普段よりも関心が高く、20筆の核禁署名が集まった。取り組みの最中で、基地の町でもある春日井市で核三原則の堅持を求める意見書決議が、賛成多数で採択された一報が入り街頭で報告した。愛知県保険医協会・反核医師の会、愛労連、愛知国公、名古屋市職労、愛知県平和委員会、新日本婦人の会愛知県本部、愛知のうたごえ協議会、県原水協事務局などから12人の参加があった。

■Ai 第10回社会的な賃金闘争対策委員会

7月8日

9人参加。賃金・最賃にかかる最近の情勢議論。愛知最賃デー、労働局要請、記者会見など前回以降の活動経過確認。最賃署名は昨日までで9421筆（6.26は6500筆提出）で昨年を超えた。7月9日に第2次分を提出する、①次年度の愛労連署名について、全労連署名と合体せずA4版で5名連記（氏名のみ）、全労連署名と一緒にスタートする（10月か11月）、署名用紙の色合いなど全労連署名と差別化できるようにする、②「意見書」は個人（住所・氏名記載・仕事など記入）も積極的に出す、③答申が出る前に宣伝行動を行う（全労連の第5次最賃デー（7.17～7.24）、7月30日（木）18時～19時名駅。その次は答申後に宣伝（異議宣伝）、④7月16日連合愛知との懇談について。次回委員会は8月3日（月）10時～11時福祉保育労。

■社保協四役会議

7月8日

労働会館東館409でおこなわれ、参加者は自治労連、年金者組合、保険医協会など計8人。第46期総会にむけて議案書の確認、当日運営についての確認などおこなった。

■Ai 女性協幹事会

7月8日

7人が参加。とりくみの振り返りと各組織の活動報告、今後のとりくみなどを話し合った。女性協総会の議案の確認や当日の内容について検討した。

次回幹事会は、9月16日（水）19:00～ @愛労連応接室

次々回幹事会 10月14日（水）19:00～ @愛労連応接室

■9の日宣伝

7月9日

金山駅北口にて定例の9の日宣伝、この日の担当の愛労連を始め平和委員会、共産党から9人参加。西尾議長、佐賀事務局長らが憲法9条の改悪の危険性について訴えた。あちこちで、高市政権

に対する評価で対話が弾む宣伝になった。署名も10筆以上集まった。

■あいち平和行進まとめ集会

7月9日

オンラインを含め31人が参加。行進参加者はのべ5317人、ペナント普及数は約1000本、平和行進募金は昨年を上回る101万3291円、日本政府に禁止条約への参加を求める署名は行進の中で466人分、世界大会への支持賛同（首長・議長・議員）23人、自治体から協賛募金9万7000円、折り鶴は約31万羽以上、県下47市町村（通過率85.5%）48コースで実施したことが報告された。NPT再検討会議の様子・取り組みが各地で報告されたこと、若い世代の自主的な参加、飛び入り参加が多数あったことなど大きな成果が報告された。

■韓国・民主労総のジェンダー平等の取り組みを学ぶ

7月10日

韓国民主労総の女性役員らと、ジェンダー平等のとりくみについてオンラインミーティングを開催した。事前に、平等ルールを作った目的や男性が多い組合でのジェンダー平等推進の教訓などの質問を知らせ、それに韓国側が答える形で通訳を交えてオンラインで交流をおこなった。家に訪問する業務で、訪問先でセクハラや暴言等の人権侵害が問題となった時に、ハラスメントが発生した場合は、ただちに作業を中断できる作業停止権を労働協約や協定に盛り込んだ話などを聞いた。今後も交流をしていくことが話された。

■Ai新聞編集委員会

7月10日

オンラインで4人が参加。8月10日号の企画打合せをおこなった。来年度以降の紙面について変更の可能性があることが伝えられた。

■憲法と平和を守る愛知の会宣伝

7月11日

福祉保育労5、国公1、年金者組合2、名労連1、事務局2、社民党2。11時～12時メルサ前で実施。メルサの北口は閉鎖されていたが、人通りは多く、平和や最賃、現場の実態をアピールした。

■自治体一般大府分会、国会議員との懇談

7月11日

7月11日、自治労連大府分会の塩森分会長と西尾議長は、愛知7区選出の国会議員地元事務所を訪問し、議員本人との面談を行った。今回の面談は、塩森分会長が国会議員へ直接連絡を取り、実現したものである。面談では約20分間にわたり、会計年度任用職員制度が抱える課題や、大府分会で発生している労働組合への不当労働行為の実態について説明を実施した。議員は終始熱心に耳を傾け、詳細に耳を傾けた。

議員からは、国会で取り上げた保育士の人材不足や現場の窮状、子育て中の保育士支援の重要性に触れつつ、人材不足の解決に重点を置いている姿勢が示された。また、会計年度任用職員の問題についても、現場の実態や理解不足に対して強い共感が寄せられた。

さらに、塩森分会長が約100人の職場で労働者代表に選出されたことに対し、「すごいですね」と敬意が表されるとともに、両拳を握ったポーズで熱いエールが送られた。面談後には塩森分会長とのツーショット写真撮影にも快く応じ、分会員にとっても大きな励みとなる面談となった。

■名労連第2回幹事会

7月11日

名労連は7月11日、労働会館で第2回幹事会を開催し、組織・事務局体制の整備、第1回定期大会の準備、愛労連第74回定期大会への対応などを協議した。

加入状況について、結成大会で承認した4組合に加え、年金者組合瑞穂支部と守山支部から申請があり、6単組772人となったことが報告された。今後も、各組合の機関決定や産別との関係を尊重しながら、未加入組織へ丁寧に働きかけることを確認した。

名労連の事務所は愛労連事務所内に置き、専用机やロッカーなどを整備する。大会までに全労連

マークと正式名称を入れた組合旗を作成し、法人登記に向けた準備も進める。

第1回定期大会は9月26日午前、労働会館東館ホールで開催する。大会方針に加盟組合や地域の声を反映させるため、8月8日には「みんなのねがい交流会」を開き、地域、産別、小規模組合の実践や要求を持ち寄って交流することを確認した。

■A i 女性協第37回総会・映画「五月の雨」上映&トーク 7月12日

第37回女性協総会を開催。55人が参加した。第一部は、DV被害者の実情と離婚後共同親権制度の問題を学ぶとして、離婚後共同親権導入後の未来を再現した映画「五月の雨」の上映会をおこない、映画にも出演している岡村晴美弁護士から解説を聞いた。DV被害者の実情が考慮されていない問題の多い制度だが、運動によって運用させないことはできるので、各機関と連携して声を上げていくことが大切と訴えられた。その後グループに分かれての対話交流の時間もあり、悩みや思いが共有できてよかったと好評だった。

第二部の総会では、女性協の荒川議長と来賓の愛労連の西尾議長のあいさつ後、総括案と方針案を提起し討論へ。福保労、愛高教、自治労連、郵政ユニオン、医労連、建交労から発言。すべての議案と新役員について全体で採択された。最後は団結ガンバローではなく、愛高教が開催したロサンゼルス教職員組合のストライキ映画のシーンにちなみ、「When We Fight! We Win! We Win!」と声を掛け合い、思いを一つにして閉会した。

■愛知社保協2026年度（第46期）総会 7月12日

7月12日、愛知県保険医協会伏見会議室で第46期総会を開催した。会場55人、オンライン8人、委任状29人の合計92人が参加した。冒頭、沢田勝男副議長が、OTC類似薬への追加負担、高額療養費の負担上限引き上げ、介護保険改悪などを批判し、軍事費の拡大ではなく、国民の命と暮らしを守る政治への転換を呼びかけた。

記念講演では、社会保障研究者の芝田英昭氏が「生命（いのち）の尊厳から社会保障を考える」と題して講演した。人間は他者との協力・共同の中で能力を発達させる存在であり、その成果を社会全体に再分配することには正当性があると指摘。社会保障は国から与えられるものではなく、国民の運動によって人権としての水準を高めてきたものであると強調した。

総会では、第45期の活動報告と決算、第46期の活動方針と予算を審議した。討論では、自治体キャラバン、地域社保協づくり、医療・介護現場の危機、生活相談、子どもの貧困、外国人を含む人権保障など、各地域・団体の取り組みが交流された。すべての議案と新役員体制を承認し、「大軍拡・改憲反対、平和と社会保障を基盤とする社会の実現を」とする総会決議を採択した。職場・地域から社会保障拡充の運動をさらに広げることを確認した。